

学校法人 佑愛学園
愛知医療学院短期大学

2019年度 授業評価レポート



2020/9/25

目次

■ 資料

- 1 学生による授業評価実施要項
- 2 学生による授業評価アンケートの実施要領

■ 授業評価レポート

【教養基礎科目】

- 1 心の理解
- 2 現代社会の理解
- 3 情報処理
- 4 外国語 1 (英会話)
- 5 外国語 2 (韓国語会話)
- 6 外国語 3 (中国語会話)
- 7 英文講読
- 8 現代語コミュニケーション
- 9 人間関係論
- 10 レクリエーション
- 11 健康運動とスポーツ
- 12 生物と環境
- 13 生命の科学
- 14 エネルギーのしくみ
- 15 教養演習 (PT)
- 16 教養演習 (OT)

【専門基礎科目】

- 17 解剖学
- 18 解剖学実習
- 19 人体触察法実習 (PT)
- 20 人体触察法実習 (OT)
- 21 生理学
- 22 生理学実習
- 23 運動学総論
- 24 運動学Ⅰ (頭頸部・上肢)
- 25 運動学Ⅱ (体幹・下肢)

- 26 運動学実習 (PT)
- 27 運動学実習 (OT)
- 28 人間発達学
- 29 一般臨床医学
- 30 公衆衛生学
- 31 臨床心理学
- 32 内科学
- 33 整形外科学
- 34 神経学
- 35 精神医学
- 36 小児科学
- 37 医療安全学・救急医学
- 38 リハビリテーション概論
- 39 リハビリテーション倫理
- 40 社会福祉学
- 41 障害支援とアシスタンスドッグ
- 42 障がい者スポーツ演習

【専門科目】

- 43 理学療法概論
- 44 理学療法研究法
- 45 臨床運動学 (PT)
- 46 運動療法総論
- 47 検査測定法
- 48 検査測定法実習
- 49 理学療法評価法
- 50 理学療法評価法実習
- 51 中枢神経系障害理学療法治療学

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 52 中枢神経系障害理学療法治療学実習 | 85 作業療法評価法実習 |
| 53 整形外科系障害理学療法治療学 | 86 身体障害作業評価学 |
| 54 整形外科系障害理学療法治療学実習 | 87 精神障害作業評価学 |
| 55 内部疾患系障害理学療法治療学 | 88 発達障害作業評価学 |
| 56 内部疾患系障害理学療法治療学実習 | 89 作業治療学理論 |
| 57 小児疾患系障害理学療法治療学 | 90 作業療法治療学実習 |
| 58 小児疾患系障害理学療法治療学実習 | 91 身体障害作業治療学Ⅰ |
| 59 老年期障害理学療法学 | 92 身体障害作業治療学Ⅱ |
| 60 日常生活活動学 | 93 身体障害作業治療学実習 |
| 61 日常生活活動学実習 | 94 精神障害作業治療学 |
| 62 義肢装具学 | 95 精神障害作業治療学実習 |
| 63 義肢装具学実習 | 96 発達障害作業治療学 |
| 64 物理療法学 | 97 発達障害作業治療学実習 |
| 65 物理療法学実習 | 98 老年期作業療法学 |
| 66 理学療法特論Ⅰ（神経生理学的アプローチ） | 99 日常生活作業学Ⅰ |
| 67 理学療法特論Ⅱ（関節運動学的アプローチ） | 100 日常生活作業学Ⅱ |
| 68 理学療法特論Ⅳ（スポーツ障害理学療法） | 101 日常生活作業学実習 |
| 69 理学療法特論Ⅴ（吸引・喀痰法） | 102 高次脳障害作業治療学 |
| 70 生活環境論 | 103 義肢装具作業療法学 |
| 71 地域理学療法学 | 104 義肢装具作業療法学実習 |
| 72 地域理学療法学実習 | 105 作業科学 |
| 73 臨床実習Ⅰ（基礎）（PT） | 106 人間作業モデル論 |
| 74 臨床実習Ⅱ（評価）（PT） | 107 リハビリテーション関連機器 |
| 75 臨床実習Ⅲ（総合1）（PT） | 108 地域作業療法学 |
| 76 臨床実習Ⅳ（総合2）（PT） | 109 地域作業療法学実習 |
| 77 卒業研究（PT） | 110 就労支援学 |
| 78 総合演習（PT） | 111 臨床実習Ⅰ（基礎）（OT） |
| 79 作業療法概論 | 112 臨床実習Ⅱ（評価）（OT） |
| 80 作業療法研究法 | 113 臨床実習Ⅲ（総合1）（OT） |
| 81 臨床運動学（OT） | 114 臨床実習Ⅳ（総合2）（OT） |
| 82 基礎作業学 | 115 卒業研究（OT） |
| 83 基礎作業学実習 | 116 総合演習（OT） |
| 84 作業療法評価法 | |

2019 年度 学生による授業評価実施要項

1. 実施目的

学生による授業評価アンケートは、FD&SD 委員会規程に基づいて行われ、アンケート結果を参考に授業の改善を図り、本学教育の質の一層の向上に資することを目的とする。

2. 実施方法

2019 年度開講科目を対象として、授業毎にアンケートを実施する。

学生は、履修した科目のアンケートを Web アンケート（Google フォーム）方式で回答する。

3. アンケート内容

I 授業の内容について	3 問
II 授業の方法について	5 問
III 授業担当教員について	5 問
IV あなたの受講態度について	3 問
V あなたの学習態度について	2 問
VI この授業についてのあなたの満足度	2 問
VII ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の把握	3 問
VIII 総合評価	2 問

4. 調査結果の集計

調査結果の集計は、FD&SD 委員会が行う。

5. 調査結果の配布

実施した専任教員および非常勤講師には、個人集計結果ならびに全学集計結果に成績平均点分布表を添えて配布する。

6. 実施結果の公表

個人集計結果を除き、全学集計結果を本学ホームページにて公開する。

学生の皆さんへ

「学生による授業評価アンケート」への協力をお願い

FD&SD 委員会

本学では「授業の質」を高めることを目的として、授業科目毎に「学生による授業評価アンケート」を実施しています。このアンケートが皆さんの成績評価に影響を与えることはありませんので、安心して率直に回答してください。

皆さんの素直で厳しい意見によって、本学の授業がより良いものになります。真剣に回答頂きますよう、ご協力をお願いいたします。

<実施科目>

全科目・全クラス

※但し、下記の科目は、科目の性質上、一部アンケートの設問を除外して実施します。

〔教養演習（OT）・総合演習・臨床実習・卒業研究〕

<実施時期>

原則として、各科目1回、授業の最後に実施します。

<実施方法>

履修した科目について、Web アンケート（Google フォーム）方式で回答します。

※オムニバス形式の授業の場合、全体で一つの授業科目としてアンケートを実施します。

（オムニバス形式の授業のアンケートは、担当教員別には実施しません。）

<所要時間>

約 20 分程度

〈授業評価アンケート〉

I 授業の内容について

1. 授業の内容は、あなたにとって、興味深いものでしたか
① そう思う ② どちらかといえばそう思う ③ どちらともいえない
④ あまりそう思わない ⑤ そうは思わない
2. 授業の内容は、あなたにとって、理解しやすいものでしたか
① そう思う ② どちらかといえばそう思う ③ どちらともいえない
④ あまりそう思わない ⑤ そうは思わない
3. 授業の内容は、後輩にも推薦したいと思いましたが
① そう思う ② どちらかといえばそう思う ③ どちらともいえない
④ あまりそう思わない ⑤ そうは思わない

II 授業の方法について

4. 授業の進み具合は適切でしたか
① そう思う ② どちらかといえばそう思う ③ どちらともいえない
④ あまりそう思わない ⑤ そうは思わない
5. 授業中、教員の説明は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか
① そう思う ② どちらかといえばそう思う ③ どちらともいえない
④ あまりそう思わない ⑤ そうは思わない
6. 板書の文字の大きさ、書き方、レジュメ（配布資料）の提示は効果的でしたか
① そう思う ② どちらかといえばそう思う ③ どちらともいえない
④ あまりそう思わない ⑤ そうは思わない
7. ICTの使用は効果的でしたか
※ICTの使用とは、プロジェクターによるパワーポイントや動画の提示、コンピュータ機器の使用、デジタル教材、電子媒体でのレポート提出 等を指します
① そう思う ② どちらかといえばそう思う ③ どちらともいえない
④ あまりそう思わない ⑤ そうは思わない ⑥ ICTの使用はなかった
8. 指定された教科書や参考図書、参考文献などの使用は適切でしたか
① そう思う ② どちらかといえばそう思う ③ どちらともいえない
④ あまりそう思わない ⑤ そうは思わない

III 授業担当教員について

9. 講義の準備を十分にしていたと思いますか
① そう思う ② どちらかといえばそう思う ③ どちらともいえない
④ あまりそう思わない ⑤ そうは思わない
10. 意欲的に、熱意を持って取り組んでいましたか
① そう思う ② どちらかといえばそう思う ③ どちらともいえない
④ あまりそう思わない ⑤ そうは思わない
11. 授業の開始時間、終了時間をきちんと守っていましたか
① そう思う ② どちらかといえばそう思う ③ どちらともいえない
④ あまりそう思わない ⑤ そうは思わない
12. 私語など授業を妨げる行為に対して、適切な対応をしましたか
① そう思う ② どちらかといえばそう思う ③ どちらともいえない
④ あまりそう思わない ⑤ そうは思わない

13. 学生が質問、意見を述べられるような環境でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらともいえない
④あまりそう思わない ⑤そうは思わない

IV あなたの受講態度について

14. この授業に対して熱心に取り組みましたか
①熱心に取り組んだ ②どちらかといえば熱心に取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり熱心に取り組まなかった ⑤熱心に取り組まなかった
15. 理解できない点などを質問しましたか
①その場で授業担当教員に質問した ②授業後に授業担当教員に質問した
③授業担当教員に質問していない
16. シラバスに記載されている「学習到達目標」や「履修上の注意」を意識して学習に取り組みましたか
①取り組んだ ②どちらかといえば取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり取り組まなかった ⑤取り組まなかった

V あなたの学習態度について

17. この授業1回につき、予習にどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※予習とは、教員から提示される予習に相当する授業外学習時間も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1－2時間
④3－5時間 ⑤6－10時間 ⑥10時間以上
18. この授業1回につき、復習にどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※復習とは、教員から提示される復習に相当する授業外学習時間も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1－2時間
④3－5時間 ⑤6－10時間 ⑥10時間以上

VI この授業についてのあなたの満足度

19. この授業を受けて、知識修得に満足していますか
①満足している ②どちらかといえば満足している ③どちらともいえない
④あまり満足していない ⑤満足していない
20. この授業を受けて、学習に達成感を得られましたか
①得られた ②どちらかといえば得られた ③どちらともいえない
④あまり得られなかった ⑤得られなかった

VII ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の把握

21. この授業の授業到達目標を知っていましたか
①知っていた ②知らなかった
22. この授業科目がディプロマポリシーとどのような関連をもっているか知っていましたか
①知っていた ②知らなかった
23. この授業を受けて、ディプロマポリシーに基づく授業到達目標を達成することができましたか
①達成することができた ②どちらかといえば達成することができた
③どちらともいえない ④あまり達成できなかった ⑤達成できなかった
⑥ディプロマポリシーや授業到達目標がわからない

VIII 総合評価

24. この授業の総合評価を5段階でしてください

- ①良い ②どちらかといえば良い ③どちらともいえない
④どちらかといえば悪い ⑤悪い

25. この授業の良かった点や改善すべき点などを自由に書いてください

〈授業評価アンケート〉 ※「教養演習 (OT)」「総合演習」「臨床実習」「卒業研究」

IV あなたの受講態度について

1. この授業に対して熱心に取り組みましたか
①熱心に取り組んだ ②どちらかといえば熱心に取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり熱心に取り組まなかった ⑤熱心に取り組まなかった
2. 理解できない点などを質問しましたか
①その場で授業担当教員に質問した ②授業後に授業担当教員に質問した
③授業担当教員に質問していない
3. シラバスに記載されている「学習到達目標」や「履修上の注意」を意識して学習に取り組みましたか
①取り組んだ ②どちらかといえば取り組んだ ③どちらともいえない
④あまり取り組まなかった ⑤取り組まなかった

V あなたの学習態度について

4. この授業1回につき、予習にどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※予習とは、教員から提示される予習に相当する授業外学習時間も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1-2時間
④3-5時間 ⑤6-10時間 ⑥10時間以上
5. この授業1回につき、復習にどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※復習とは、教員から提示される復習に相当する授業外学習時間も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1-2時間
④3-5時間 ⑤6-10時間 ⑥10時間以上

VI この授業についてのあなたの満足度

6. この授業を受けて、知識修得に満足していますか
①満足している ②どちらかといえば満足している ③どちらともいえない
④あまり満足していない ⑤満足していない
7. この授業を受けて、学習に達成感を得られましたか
①得られた ②どちらかといえば得られた ③どちらともいえない
④あまり得られなかった ⑤得られなかった

VII ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の把握

8. この授業の授業到達目標を知っていましたか
①知っていた ②知らなかった
9. この授業科目がディプロマポリシーとどのような関連をもっているか知っていましたか
①知っていた ②知らなかった
10. この授業を受けて、ディプロマポリシーに基づく授業到達目標を達成することができましたか
①達成することができた ②どちらかといえば達成することができた
③どちらともいえない ④あまり達成できなかった ⑤達成できなかった
⑥ディプロマポリシーや授業到達目標がわからない

VIII 総合評価

11. この授業の総合評価を5段階でしてください
①良い ②どちらかといえば良い ③どちらともいえない
④どちらかといえば悪い ⑤悪い

12. この授業の良かった点や改善すべき点などを自由に書いてください

科目名 1. 心の理解

担当教員 山田 ゆかり

専攻・配当年次 PT・OT 1年

回答者数 56名

◆集計データ結果について

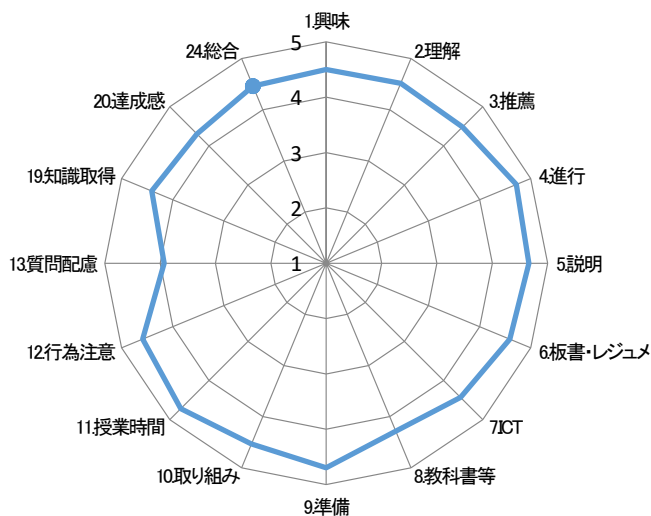
集計データ結果から、体験的な内容の導入、聴きやすい話し方、身近な例示などによるわかりやすい説明、板書、使いやすいプリントの編集など、授業方法についての基本的な工夫が評価された結果となっている。数値データに基づく円グラフを見ると、平均評定値は概ねバランスのとれた形であるが、項目16(質問配慮)の評価がやや低め(3.93)となっている。また、学生の授業態度についての項目15(質問)、項目17・18(予習・復習)については、依然として改善の余地があると思われる。教養基礎科目であり、課題が学生の過重負担にならないようになっているが、もう少し積極的な課題提示が必要かもしれない。授業を通しての実感としては、授業運営が比較的容易であり、大規模クラスであっても授業後の小レポート等により個別の疑問・質問を把握し、対応することができたと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「実際に体験してみる内容が良かった」「自分の日常の経験に関連付けることができた」「説明がわかりやすい」「興味深い内容」「ためになった」「おもしろかった」等の肯定的な記述が多くあり、授業内容や方法については高く評価されているようである。授業内容について、心理測定尺度の体験や実験的な要素を取り入れることが興味を引き起こすことにつながっている。改善すべき点については、特に指摘がなかった。

◆今後の改善に向けて

基本的には、現在の授業内容、授業方法が学生に受け入れられている結果となった。今年度で「心の理解」担当を終了させていただいたが、これまで円滑に授業運営をすることができたと考えている。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

2. 現代社会の理解

担当教員

王 昊凡

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

53名

◆集計データ結果について

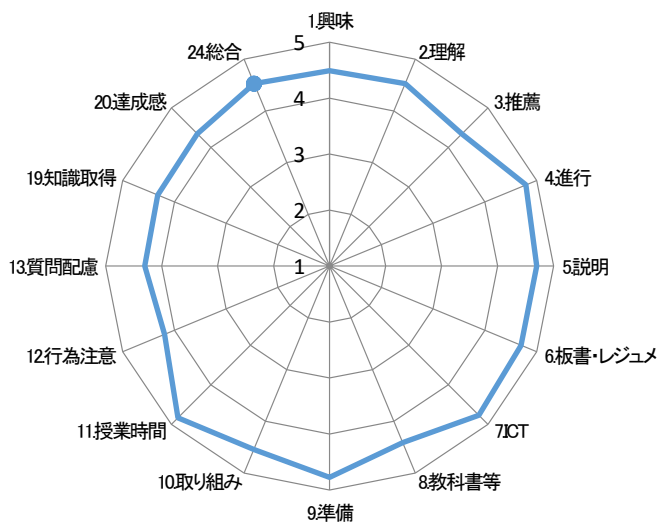
1～3授業内容、4～8授業方法、9～13教員、19,20学生の満足度、24総合については、全体として平均が4以上であった。自由記載欄でも言及されたように、私語への注意については、相対的に低めの評価となっていた。一方で、以前より課題となっていた事前学習・事後学習の充実については、大きな改善がみられない状況であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記述を一部引用するならば「多様性を肯定し、そこから生まれる課題や未来に対して考え意見を共有する時間はとても有意義」というコメントがあった。これは、講義担当者が社会にまつわる講義を行う際、常に肝に銘じてきたことであり、それが学生に伝わったことと、それを受け取り言語化してくれる学生と出会えたことに、講師として幸福を感じる。また、「雑談のようでちゃんと社会の価値観であったり文化を学べる授業」というコメントがあり、これも講義担当者が日頃心がけてきたことで、学生にとって有意義な講義となったならば、講師冥利に尽きるものである。課題としては、「何が特に大事なのが分かりにくかった」というコメントや、「授業中の生徒の私語がかなり気になった。先生も注意するところはあったがそれでもなおらなかった」というものであろう。

◆今後の改善に向けて

①事前学習・事後学習について:受講生が日々の実習等やアルバイト等で疲労しているなかで、いかに「楽しく」かつ「知的好奇心を刺激し」「負担にならない」事前学習・事後学習を考案することは、講師としての今後の課題である。②「何が特に大事なのが分かりにくかった」というコメントについては、説明が煩雑になることが多かったことと関連していると思われるので、講義の最後に「大事なポイント」といったような工夫をすれば、対応可能であろう。今後の参考にする。③私語への対応については、講義の内容からして完全に私語を禁止にすべきかどうか悩ましいところであるが、他の受講生の授業に参加する権利を侵害するような行為については、厳密に対処すべきだと改めておもった。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名 3. 情報処理

担当教員

齋藤 末広

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

87名

◆集計データ結果について

授業の達成感、推薦は、授業を受けてよかったと思える項目と思われるので、こちらは、高くなるよう工夫したい。質問は、毎回、アンケート用紙を回収したりして、質問しやすい雰囲気を作ったつもりだけが、評価が低いのは、意外であった。学生としては、もっと、質問しやすい雰囲気にしてほしいということであろう。来期は、工夫したい。

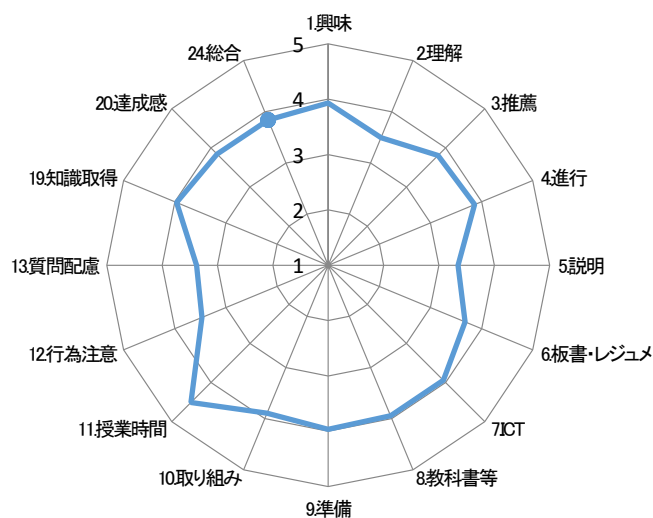
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

キーボード訓練は、身につくと学生うれしいようである。学校のレポート作成の効率もされ、また仕事においても、パソコンに対する苦手意識が減るところでもあるので、来期も、パソコン操作訓練の基礎として実施していく予定である。

指示が不明確だったという指摘があるので、来期は、こちらも、注意していきたい。

◆今後の改善に向けて

操作が身についたかどうか、自分で確認できるように、スキルの視覚化も検討したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名	4. 外国語1 (英会話)
-----	---------------

担当教員 ジェームス・比嘉

専攻・配当年次 PT・OT 1年

回答者数 87名

◆集計データ結果について

It seems like the majority of the students have been satisfied with the English lessons. One objective of the class was for the students to interact among themselves using the English that they were comfortable using. One student commented: 医療に関する英会話を学ぶことができ、よい機会だった。For most of the students, their attitude towards speaking English in class seemed positive

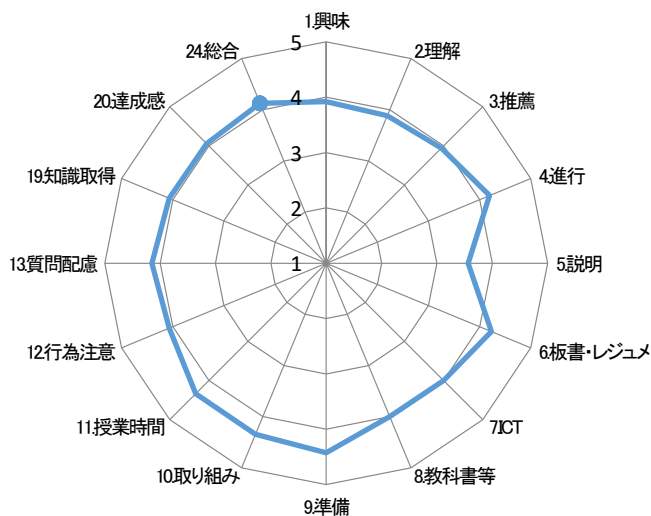
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

The students tried their best to understand the contents of the English lessons: 医療に関する英会話を学ぶことができ、よい機会だった。けれど、説明も全部英語なので時々授業についていけないときがあった。However, because of the all English content of the class, some students could not keep up. Nonetheless, some students felt ご準備頂いたプリントを用いて発音練習やオーラルプラクティスがあると、記憶に残りやすく、実際に似たような場面に遭遇した際に思い出して活用できるのではないかと思います。In general, the students communicated and used the English they know and did very well.

I appreciate the students' honesty and the time they took to fill out the class evaluation.

◆今後の改善に向けて

I am grateful for the wonderful comment that the student's made.
 英語で話すことをメインとした授業で小テストの使い方も効率よくわかりやすい授業でした。
 医療系の英語について学べたので、将来何かの機会で見たいと思うので良いと思いました。
 The students gave some useful feedback and I appreciate it very much. Will try to incorporate the suggestions into my teaching.



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

5. 外国語2 (韓国語会話)

担当教員

金 春子

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

72名

◆集計データ結果について

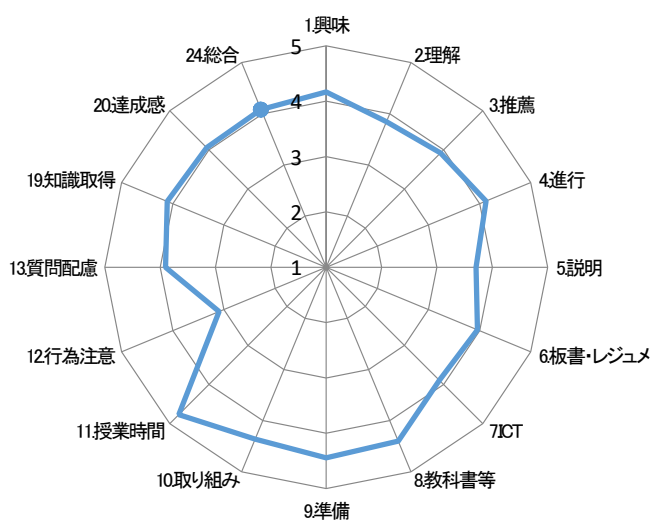
わたしは今は、韓国語授業の教え方がずいぶん慣れてきました。今から思えば、最初は本当に教え方が下手で、生徒たちに申し訳なかったです。四苦八苦悩みながら教科書を色々変えたり、生徒たちと歩調をあわせるなど、規定にとらわれずに開放的に楽しく、そして韓国語を学んでもらえるように努力しました。まだまだ足りないところは多くありますが、向上できるように努めていきます。生徒たちが高い評価をしてくれてことに嬉しく思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

韓国語を学ぶことができた、多くの生徒が書いていたので本当にうれしです。繰り返して教えた事が良かったとの意見も今後の参考になります。、授業中、無駄話をして、他の人に迷惑をかける生徒には、上手に注意をしていきます。

◆今後の改善に向けて

今年は70人を超える生徒たちでしたので、いろんなことで、行き届かなかったと思います。後ろまで声が届くように、黒板の文字も後ろまで見えるよう気をつけま



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名	6. 外国語3 (中国語会話)
-----	-----------------

担当教員 侯 英梅

専攻・配当年次 PT・OT 1年

回答者数 14名

◆集計データ結果について

集計結果の各設問において
 質問15「理解できない点などを質問しましたか」に対し、質問をしていないとの回答者が8名いました。質問しやすい環境を作ることが今後の課題だと考えます。

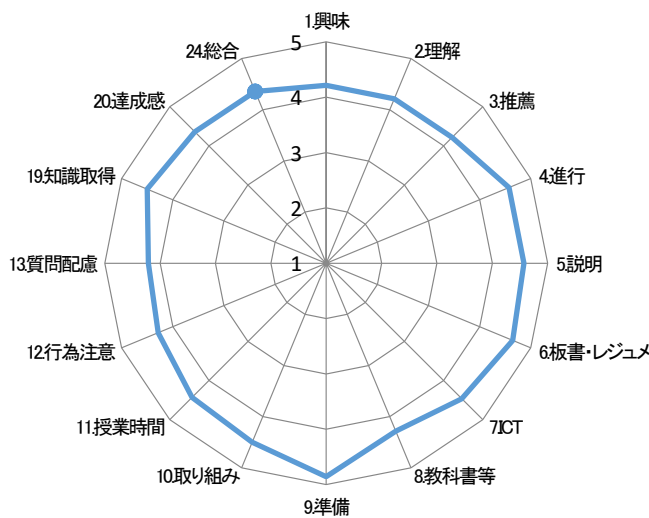
●質問 16「シラバスに記載されている「学習到達目標」や「履修上の注意」を意識して学習に取り組みましたか」に対し、どちらもないとの回答者が4名いました。目標感を持って取り組んでもらえるよう意識付けをしていくことが今後の課題だと考えます。

●質問21「この授業の授業到達目標を知っていましたか」と質問22「この授業科目がディプロマポリシーとどのような関連をもっているか知っていましたか」に対し、知らなかったとの回答者がそれぞれ10名ほどいました。全体感を持って取り組んでもらえるよう意識付けをしていくことが今後の課題だと考えます。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

●中国語の発音練習ができ、会話や文法を知り、中国の文化にも触れることができ嬉しかったということが伝わってきました。

●一方で難しかったとの声もありましたので、一人一人の習熟度を把握しながら授業を進めていくことが課題だと考えます。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

●今後も引き続き発音を覚えていただいた上で実用的な基礎会話を学んでいただきます。発音を練習する際、発音の難しさを感じる個人差があるため、時間をうまく調整しながら、一人一人の発音を確認した上で、それぞれ難しく感じた発音に対して説明した上でマスターしていただきたいと思います。全員に納得できるような授業を行いたいと思います。

●授業到達目標やこの授業科目がディプロマポリシーとどのような関連があるかについて、今後もっと明確に生徒さんに説明し、皆さんの学習モチベーションを高めて授業を進めていきたいと思っています。

●二日間の集中講座なので、二日目の予習と復習について要点を伝えてやってもらいます。

●今年も集中講座なので、みんなの中国語授業へのモチベーションや大学生としての学習意欲を高めるような授業を行っていききたいと思います。

科目名

7. 英文講読

担当教員

丹羽 重信

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

40名

◆集計データ結果について

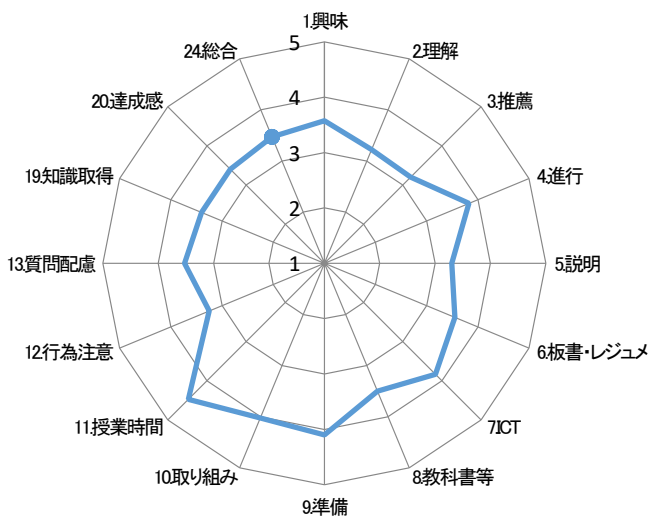
質問項目の1～3の授業のテーマに対する興味関心および理解度に関してはほぼ3.2の平均が出た。半数近くの生徒が関心が持たず、理解も不十分に終わったと感じているようである。質問項目の4～8の授業材料・手段に関してはほぼ3.5の平均で、板書やプリントの不足を訴えているように思われる。一度も使っていないICTの点数が高かったのは、不思議であるが、ひょっとしたら電子機器は使わない方がいいという意味なのだろうか。質問項目の9～13の授業の進め方に関してはほぼ4の平均だったが、例年と同じく私語注意と質問配慮が低かった。したがって、学生の満足度も総合もほぼ3.5ということになる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載の中身を見ても、上記のデータをそのまま反映する声が出ている。「つまらなかった」、「分からなかった」という反応がある一方で、「英語は久しぶりだった」、「復習ができてよかった」という反応もある。「プリントで解答をくぼってほしかった」、「質問に答えてほしかった」という訴えがちらほら見受けられる。「説明の声は大きくてよくとおる」が「説明が速すぎてついていけない」という指摘もある。これらは極めて正直な意見で、これからの反省材料になる。

◆今後の改善に向けて

授業のテーマ・材料に関しては、医療現場・専門とかけ離れすぎたという反省がある。英文法の基礎をより専門に近づけた材料で行えるよう、素材を探し、解説の技量を高めなければならない。授業プリントであるが、高校までの学習でワークブックや問題集を使うことに慣れきっている学生には、口頭での解説を聴きながらノートへ筆記するという作業がほとんど無理なのかもしれないと考え、ほどほどに多く与える方向で考えたい。私語注意と質問配慮であるが、プリントへの記入時間を増やして私語をする余裕をなくするのが良いのかもしれない。「質問はありませんか」と毎回問うことも忘れないようにしたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

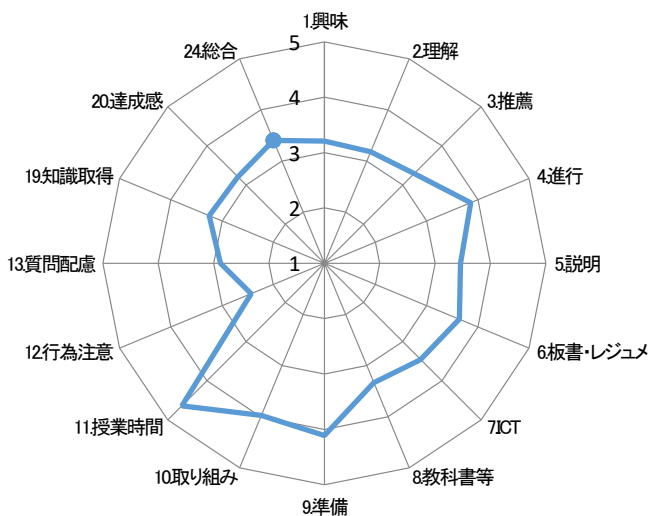
総合評価が3.4となり、昨年までのほぼ4という評価からは0.5ポイント低くなったのは残念である。授業の進め方に関して、「授業時間」が5に近く、また「進行」も4に近い結果だったのに対して、「行為注意」の項目が2.5と例年になく低く出た。授業中の質問を禁止しているわけではないのだが、「質問配慮」の項目も3を下回っている。他の項目は3と4の間に入っており、それなりに評価されたように思われる。授業の予習・復習に関しては、講義の最初に「予習は一切必要なし。復習は10分ほどでよい。空いた時間は解剖学などの重要科目の方へ回してください」と伝えてあるので、学生は忠実にそれを守ってくれたようである。教師自身がよく理解していないDPとの関連性を当然ながら指摘することがなかったので、これが「興味・関心」の低さを生んでいるかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

最も多かった意見をまとめると、「私語が多くて騒がしく、それを教師が注意しないので、内容がよく聞き取れず、説明の何が重要なのかつかめず、したがって関心が持てないのに、教師が突然大きな声で笑いだすのでびっくりし、もやもやしながら訳も分からず終わってしまった」といったところだろうか。これは集計データの数字と一致しており、正直な感想になっていると思われる。中には「知らなかった偉人の人生について学べたのが良かった」というような肯定的な少数意見もあって、ややホッとさせられる。「敬語についてもっと詳しく説明してほしいかった」という注文も見受けられる。「コミュニケーション」という技術と、各回に取り上げるトピックの関連性を予めご提示頂けると、授業の理解度に深みが出てくると感じました」という感想をいただいたのは実にありがたい。

◆今後の改善に向けて

「現代語コミュニケーション」と題する講義は本年度で終了し、来年度は「コミュニケーション論」と銘打つことになる。これを機に、講義内容の徹底的な見直しをはかりたいと考えている。チェックすべき点は3点ある。第1に、取り上げるコミュニケーション手段を、自然および人工の言語(日本語・英語および数学)によるコミュニケーションに限定していたが、身体言語や社会的慣習などの非言語的なコミュニケーションに配慮すること。第2に、紹介する偉人が科学分野の人ばかり(グレゴール・メンデル、マリー・キュリー、アルバート・アインシュタイン)だったことを見直し、スポーツや文化・医療活動の分野からも人選すること。第3に、「敬語」の説明および演習をより充実させ、医療現場で活用できるようなものにレベルアップすること。小テストに組み入れることも考えられる。以上の3点である。そして、授業の進め方に関して今回の感想とデータを参考にし、またアクティブ・ラーニングの要素も加えながら(講義中のやかましさが増幅する危険性もあるが)改善をはかっていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

「授業内容」、「授業方法」、「教員」、「学生の満足度」、「総合評価」に関する評価については、4～5の間の評価であったことから相応の効果があつたといえよう。しかし、「学生の受講態度」の(質問)、「学習態度」の(予習)(復習)、「DPの把握」の(授業到達目標)(DPとの関連性)の評価は低かつた。

すなわち、「理解できない点などに質問しなかつた」、「予習・復習の時間が少なかつた」、「DPの把握が不十分であつた」ということである。

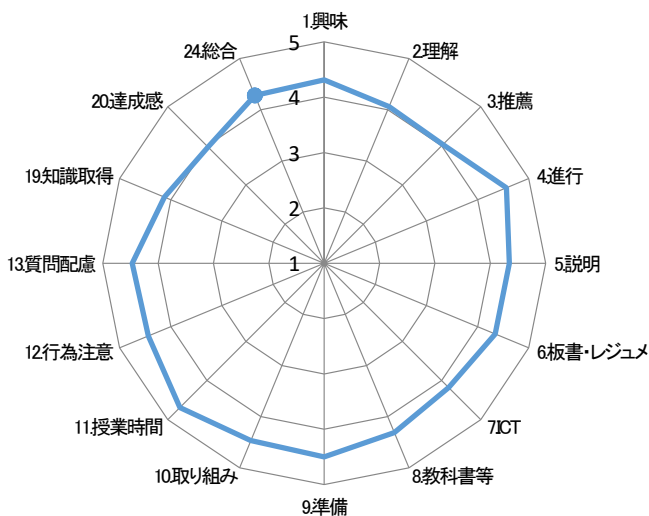
前項については、各授業時間においてとくに質問の時間を設けなかつたこと、中項では、学生に対して自学自習を促進するための工夫が不十分であつたこと、後項においては、授業の到達目標および授業とDPとの関連性についての説明が抽象的で理解し難いものであつたことによるものと推察される。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載の内容を全般的に見ると、昨年度と同様に「面白かつた」、「分かり易かつた」、「ためになる授業であつた」との記載が多かつた。この点については、「授業は楽しく学ぶ」との小生の基本理念が本年度も受け入れられたものと考えられ、学生に感謝したい。また、「人間関係について学べてよかつた」の記載から、本授業の到達目標を理解し、学修できた受講生の存在が確認できた。さらに、前述のように「ためになる授業であつた」、「より話しやすい話し方を知ることができた」との記載からは、本授業内容の有用性を実感できたものと推察される。昨年度と同様に以上のような肯定的な意見が多く記載された一方で、「もう少し分かりやすく説明してほしいかつた」、「動画などが組み込まれているともう少し興味を持って楽しめたと思う」等の指摘もあつた。このことは、プレゼンテーションの方法を工夫する必要があるといえ、今後、PowerPoint等を導入し改善していく意向である。

◆今後の改善に向けて

今後も、これまでの小生の授業理念である「楽しく学ぶ」を基本とし、受講生から前述のような肯定的意見がより一層多く得られるように精進する。また、授業内容の理解を深めるためにPowerPoint等を導入して解説したり、質問の時間をもう少し多く設定したりすること、自学自習を促進するために小テスト等の課題を課すこと、授業の最初に行うオリエンテーションでは、授業の到達目標および授業とDPとの関連性について具体的かつ平易に説明するなどして授業改善していく方針である。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆集計データ結果について

すべての項目で平均4.3以上であり、おおむね良い評価であった。学生の意識については「14.熱心さ」で「どちらかといえば取り組んだ」「取り組んだ」と答えた学生が96%であり、授業に対する興味を引く授業展開ができていたと考える。

一方、予習・復習時間がまったくないとした学生が多かったが、授業内で間に合わなかった準備や練習を行うよう指示し、そのように各グループとも行い授業に間に合わせてきたため、教員の求めるレベルの学習はできていたと思われる。準備や練習は、予習・復習には当たらないと考える学生が多かったのかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「違う専攻の人と関わることができた」「普段話さない人と話すきっかけができた」「協力し合えた」「班との信頼も気づくことができた」など、交友関係の広がりや協調性の獲得を実感した学生が多かった。また「自分たちで考えるような授業の仕組み」「自発的に授業に参加」することで「楽しかった」「できたときの達成感が良かった」「自分で動いていくのは大事と学んだ」との感想が得られた。

臨床家の卵としての視点は、「発案や実践の大変さを知れた」「障害を有する人たちの大変さなどたくさん知識を得られた」「実際に臨床で使いたい」など、将来の仕事に生かせそうだと感じた学生もいた。

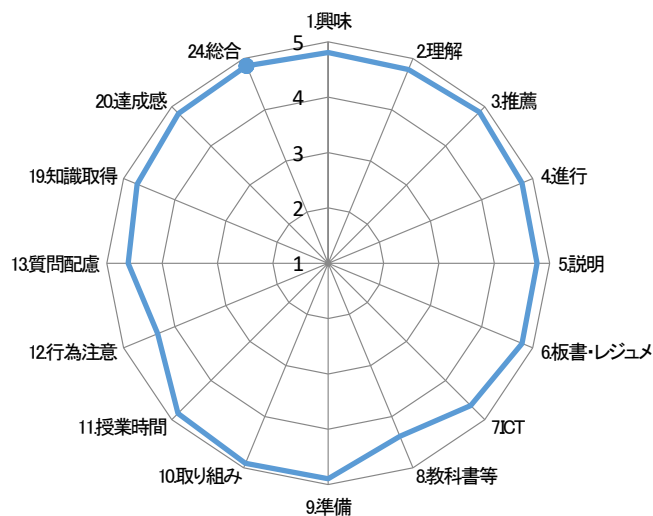
また「先生も一緒にレクに参加していてよかった」「良い点や改善すると良い点などを適切に教えてくれた」など、教員の関りを肯定的に捉える意見もあった。

一方、「もう少し範囲を広げ自由度があってもよいのでは」「遠出ができる楽しみにしていたので少し残念だった」との意見があった。

◆今後の改善に向けて

上記の自由記載の最後に紹介した「自由度を広げてもよいのでは」「遠出ができる楽しみにしていた」との意見については、昨年度までの反省を踏まえ、自由度を敢えて狭くした結果の授業構成であった。1名の教員で63名9グループという大人数に対する実技科目を担当するというので、全員に目を配り安全を確保すること、学生には臨床に役立つレクリエーションを学んで頂きたいこと、グループ間のレクリエーション内容の重複を避けること、が最重要課題である。

次年度は単位時間数が半減する中で、教養科目といえど、いかに臨床的な感覚を養ってもらえるのか、更に工夫を重ねたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

11. 健康運動とスポーツ

担当教員

鳥居 昭久

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

58名

◆集計データ結果について

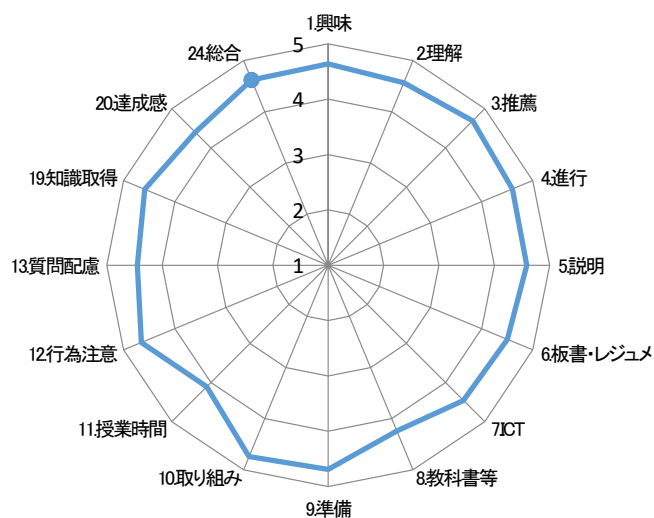
全体として高得点であり、特に問題は感じられない。予習、復習に時間を使うことができると更にいいのであろうと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

この科目は、健康というテーマで多角的に学ぶものであり、健康論、体力論、他のテーマで受講生にとっては大変な科目であったであろうと推察される。しかし、今年の学年は非常に熱心に取り組み、受講態度もよかったと思う。毎度のことがながら、終了時間が若干遅れることに対する意見があるが、実技とグループ演習を取り入れているので、時間がかかってしまうことが否めない。講義時間数を考えて、十分な時間をかけられるように学校に配慮願いたい部分でもある。科目としては、今期で終了である。

◆今後の改善に向けて

特になし



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆集計データ結果について

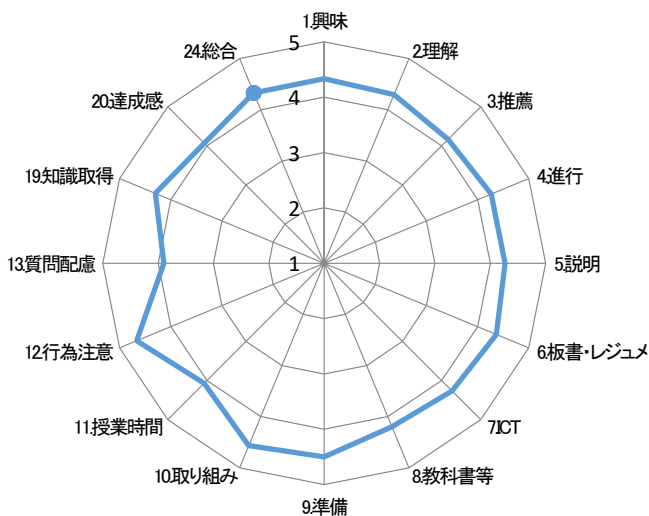
自作のプリント教材とパワーポイントを用い、アクティブ・ラーニングも取り入れ、生理学・解剖学との関わりにも重きを置いた講義を行っている。作年度、学生の実態に合わせ、講義内容の改訂とポートフォリオの記載の仕方の簡素化を行ったので、本年度も同じ形態で講義を進めた。授業評価の結果、総合評価の平均は約4.3で、昨年度に比べ0.1ポイント上昇していた。学生の感じ方の違いもあるが、受講人数が減ったことも影響していると思われる。項目ごとに見ると「知識の取得」が0.1ポイント増加しているにも関わらず、「達成感」が0.2ポイントほど低下していた。一方、昨年度の反省から講義の延長に極力注意していたこともあり、「終了時間をきちんと守っていたか」の値は0.5ポイント増加していた。その他の項目については、例年とほぼ同様な数値、傾向であった。今後、昨年度との単純な数値比較だけでなく、アンケート結果から浮き上がった問題点への対応策を検討し、次年度に向け、講義の改善につなげていきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「解剖学や生理学の復習もやりつつ授業が進んでいたのので分かりやすかったです。」「これまでの学習と関連させて授業を進めてくださったので良い復習の機会にもなった。」などの生理学や解剖学とも授業に関連してくることについての意見が30%くらい見られた。学問はばらばらで存在するものでなく、当然のことながら互いに関連しあっている。生物系の学問どうしなら尚更である。生理学・解剖学との関わりにも重きを置いた講義によって、今まで気付いていなかった知識や概念の関連に気付くことができたと考えられる。また、アンケートの数値も高かったように、「スライドと資料がわかりやすかったです。」「プリントがわかりやすかったです。」という意見も複数見られた。「話すスピードが少し速い。」という感想も一部あったが、丁寧な説明を心がけ、授業スピードを落としていることもあり、「説明が分かりやすかったですので良かった。」「授業とてもわかりやすかったです。」というような感想の方が多かった。

◆今後の改善に向けて

作年度、学生の実態に合わせ、講義内容の改訂とポートフォリオの記載の仕方を簡素化し、本年度も同じ形態で講義を進めてきた。講義の進め方については、学生の自由記載で「解剖学や生理学の復習もやりつつ授業が進んでいたのので分かりやすかったです。」「スライドと資料がわかりやすかったです。」「授業内で配布されたまとまっているプリントで理解を深めることができたので良かったです。」など、昨年同様の感想が多く見られた。このことから、生理学・解剖学との関わりにも重きを置き、自作のプリント教材とパワーポイントを用いた講義の基本的な進め方は変更しなくてもよいと思われる。しかし、前述したように、今回のアンケート結果から浮き上がった問題点への対応策を更に検討し、次年度の講義の改善につなげていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

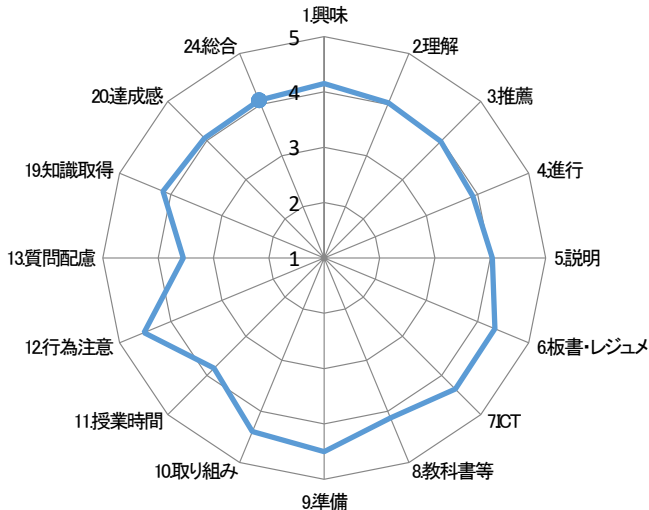
学生の実態に合わせ、生命についての概念形成に主眼を置き、アクティブ・ラーニングを取り入れた講義を行っている。教科書は使わず、自作のプリント、映像教材、補助教材を使って講義を進め、ポートフォリオにより形成的な評価を行っている。ただし、本年度からは、後半の講義で解剖学、生理学との関わりを強めた教材を学ばせ、学生の将来の学びに役立つよう、学習内容の改善を進めている。結果については、総合評価の平均が約4.1で、昨年度と比べ0.1ポイント程低下していた。その他の項目についても、本年度はやや低めに平均値が出ているので、全体的には昨年度と同様であったと考えればいっだろう。しかし、「知識取得」の値は微増しているが、「推薦」「進行」「説明」「達成感」の各項目は昨年度に比べ0.1ポイント以上低下していた。本年度は、自分で考え、自分で調べる力をつけさせるため、あえて講義で答えを教えないことを増やした。このことが、正解を求めたがる学生にはマイナスに働き、結果に反映したと考えられる。一方、「教科書等」が0.2ポイントほど増加しているのは、高校の生物と大学で学ぶ内容の橋渡しの補助教材を与え勉強させたので、その結果の現れと考えられる。今後、アンケート結果から浮き上がった問題点への対応策を検討し、次年度に向け、講義の改善につなげていきたい。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載の意見で多かったものは、「生理学や解剖学なども関係づけて、学ぶことができた」「生命について深く考え、理解することができた」「動画などの視聴覚教材が理解を助ける」「プリントが分かりやすくまとめられていた」「詳しい説明で分かりやすかった」などの意見で、例年と変わりはない。これらのことから、基本的には来年度の講義もアクティブ・ラーニングを継続し、自作のプリントと映像教材を使った現在の講義の進め方を続けたい。しかし、例年と同様にもかかわらず、本年度は、プリントについて「見づらいと思った」「読みにくいところがあった」という声が数名あった。授業時間についても「開始が早すぎることもある」「延長が多い」という声が例年より多く見られた。これらは、年々変化する学生の感じ方や意識の変化を反映したものであり、集計データにも現れていると考えられる。「ポートフォリオについて」の記載は、様式を変更して以来、「大変だった」という声が少なくなっており、本年も「復習がしっかりできてよかった」「理解を深めるいい機会になった」などの肯定的な声ばかりであった。これらから、次年度以降も大きく指導方法を変える必要はないが、さらに細く内容を検討し、学生にとって一層効果的な講義をつくっていききたい。

◆今後の改善に向けて

高校教育が多様化し、入学してくる学生の学習履歴や学び方も千差万別となっている。学生の多様化が進む中、今回の学生のデータの結果や自由記載の内容を見ても、多様化だけでなく何年か前の学生と感じ方や意識も変わってきていることが分かる。そのため、講義のレベルを落とさずに多様な履修者を全員満足させることはますます容易でなくなっている。そこで、以前から進めていることでもあるが、学習内容や教材の検討をさらに進め、今後もより多くの学生が満足できる講義に向け改善に務めていくことがますます重要となっている。また、自由記載の内容からも分かるように、本学の学生にとっては、生命科学の講義の内容を生理学や解剖学の内容と関係づけていくことも必要である。この点については、本年度から一部学習内容を変え、取り組みは始めているが、その効果を調べるところまでは至っていない。今後、調査を行い、より効果的な講義内容の構成について検討していきたい。一方、学生の中には、高校までの暗記に頼るような学習方法から脱却できていない者が少なくない。そのため、講義にアクティブ・ラーニングを取り入れ、ポートフォリオで自分の学びを振り返らせ、自分で考え、考えをまとめることをさせているが、最後までその意義が分からずに終わっている者もいる。また、自ら学ぶということに違和感を感じている者もいる。学生が医療短大でリハビリテーション科学を学ぶための基礎を作るには、初年次の講義で、学習に対する意識を切り変えることが重要である。そのための方策の検討も引き続き行っていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

14. エネルギーのしくみ

担当教員

後藤 理夫

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

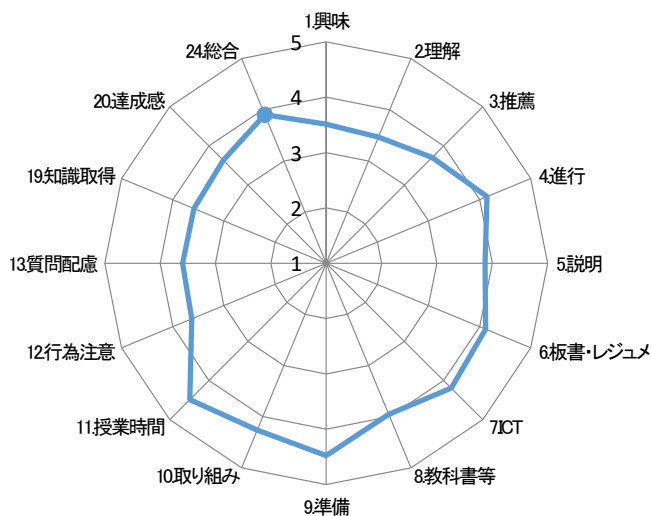
84名

◆集計データ結果について

総合的に眺めて「まあこんなもんかな？」と感想を持ちますが疑問が残る個所もあります。例えば、予習・復習の設問で「予習はしなくても良い、復習に時間を使ってください」とガイダンスしました。アンケート結果では「予習を1～2時間した学生31名」は真面目に取り組んだと解釈できますが、復習用の課題プリントは全員提出されていても「復習0時間が35名」と答えている点など。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

受講生の約2割が高校の理系類型を卒業しており、これらの学生にとっては復習的な気軽な講座になっていると思う。残りの学生のうち1割を除けば自分の目標に向かって一生懸命に取り組んみ、それなりの成果・実感を持ったと思います。この講義中に感じた体感が学生の「自由記載」の言葉としてしめされている。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

自由記載の中において、多くの学生が「黒板の文字が細かい・小さい・読めない」と述べている点については、①昨年度も指摘を受け、「大きめの文字で丁寧に書く」に努めたが十分に応えられなかった。来年度は②座席を番号順から視力にあった席に座席変更する物理的な策を取りたい。

科目名	15. 教養演習 (PT)
-----	---------------

担当教員	鳥居 昭久・加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・ 清島 大資・白井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠			
専攻・配当年次	PT	1年	回答者数	48名

◆集計データ結果について

総合評価が4.54点と概ね良好な結果であったと思われる。「質問配慮」では4.2点と低い点数であった。3分間スピーチやその他の学生発表については質問時間をとっていたが、講義については時間が不足し、「質問はありませんか」と問いかけはしたものの授業時間内の時間確保が十分ではなかったと考える。自由記述においても肯定的意見がほとんどであり、1年次の入学初期の科目として受け入れられたと思われる。

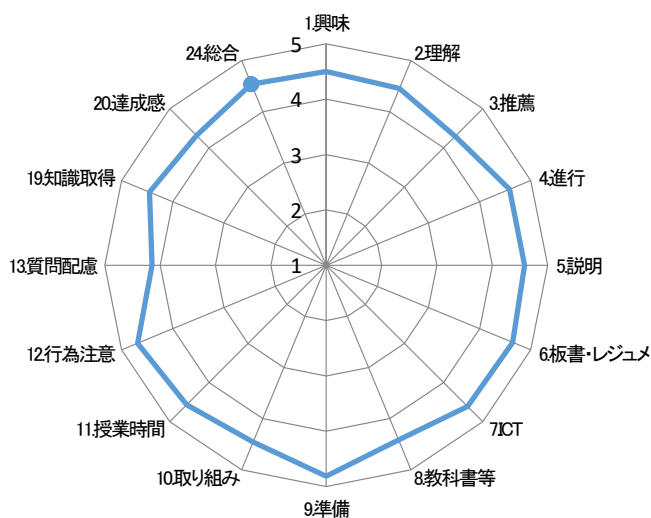
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見がほとんどであった。意見の多くは、3分間スピーチで自己紹介があり、パワーポイントを使用した発表に関すること、ペア学習、グループ学習の多さに関すること、今後に必要な接遇やマナーを学べたこと、自分自身の関心のあるテーマに関心のある学生同士で学習したことであった。自己紹介については、大勢の前での発表練習になったことや学生同士が交流するきっかけとなったこと、友人の考えが聴けたことが具体的な意見として挙げられた。ペア学習・グループ学習においても、入学当初にいろいろな人と関わる機会となったこと、他者の考えを聞くことができたことが意見として挙げられた。本科目の目的である、「表現力」、「聴く力」、「質問力」、「コミュニケーション力」、「問題解決力」などを身につける入口とすること、また学生間の交流はある程度達成されたと考える。

3分間スピーチについてはもう少し時間が短くてもよいのではないかという意見があった。学生数によってはこのスピーチ時間により講義時間が短縮してしまうため検討の余地があると考える。

◆今後の改善に向けて

今年度も学生数が多く、発表を多く取り入れている本科目においては授業構成にやや苦しむことがあった。時間調整をしながら行ったが、結果的に、タイトなスケジュールとなり、講義時間がやや少なくなり紹介にとどまった内容もある。そのため、受講者数に合わせた構成を今後も検討したい。学生には授業を通して、理学療法士として社会人としてあるべき姿や理学療法士としての目標、知的好奇心や他者に対する関心を持ってもらいたい。そのため、学生が積極的に取り組める工夫をしていきたい。



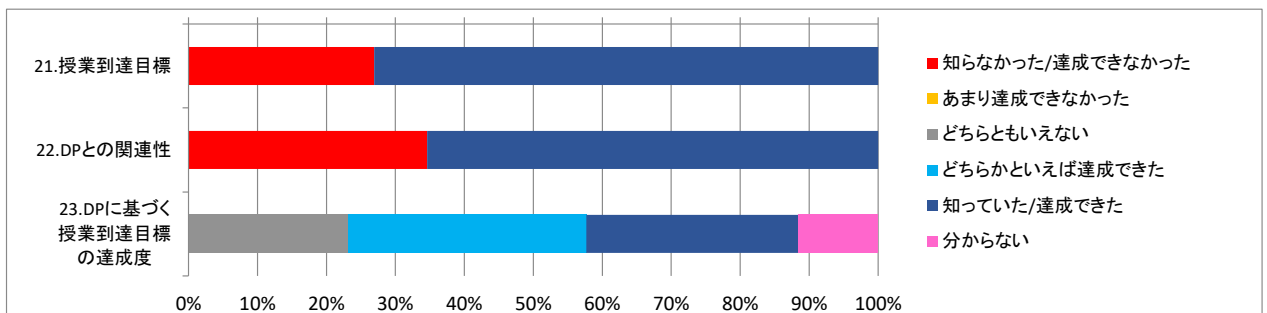
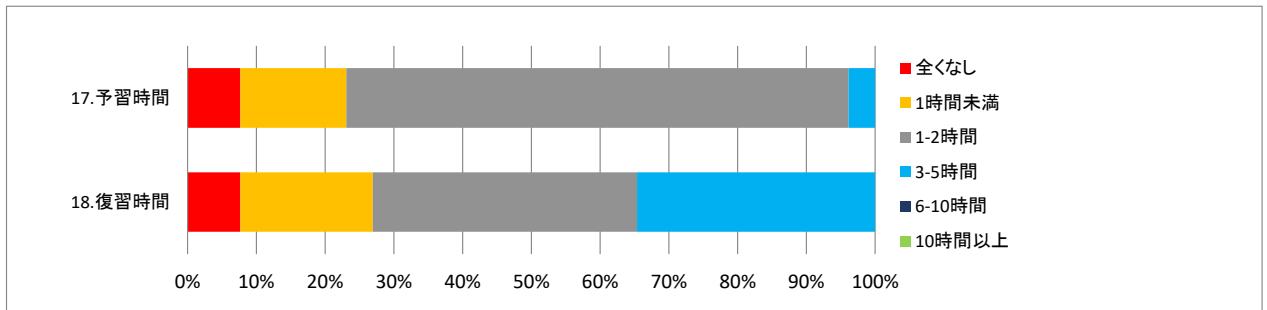
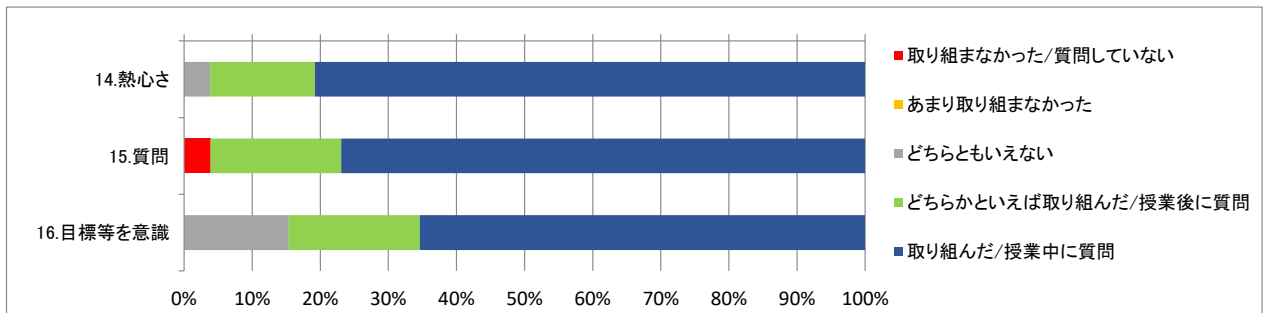
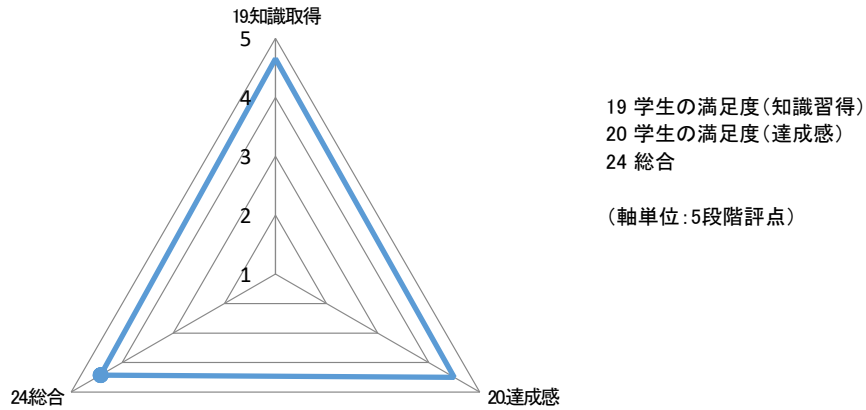
1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名 16. 教養演習 (OT)

担当教員 高田 政夫・山下 英美・横山 剛・加藤 真夕美・清水 一輝・松田 裕美

専攻・配当年次 OT 1年 回答者数 26 名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



科目名 17. 解剖学

担当教員 清島 大資

専攻・配当年次 PT・OT 1年

回答者数 85名

◆集計データ結果について

総合評価において、評価が5段階評価の4.1以上となっており、おおむね評価は良好である。しかし、「理解」、「進行」、「授業時間」、「行為注意」、「質問配慮」の項目においては、全体の評価に比べ低くなっている。自由記載に進むスピードが速くて追いつかなかった、勉強する量が多すぎてついていけなかったなどの指摘が見受けられたためだと考えられた。また、前半は慣れるまでペースを落として授業を進めていたが、後半はペースを上げたことも要因であると考えられた。

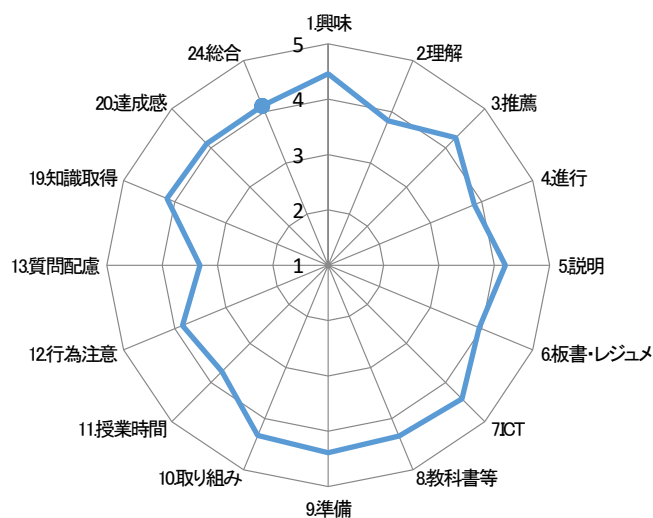
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

この授業では前期で解剖学の全範囲を終えるため、予習・復習がしやすいように教科書に沿った授業を行った。また、その日の授業ポイントが予習や復習ができるように授業プリントも準備した。学生の理解を深めるため、イラストとなっている教科書ではなく、写真となっているアトラスなどを授業で見せながら授業を行ったが、思いのほか不評であった。試験については、期末試験への学生の負担を減らすため、中間試験を実施した。さらに、授業後には必ず質問等の時間を設けるようにした。しかし、学生の意見として、「スピードが早すぎてついていだけで精一杯だった」等のコメントが見受けられた。かなりの学生が「授業スピードが速かった」と感じているようであった。毎回授業時、学生からの質問時間ではほとんど質問がでないため、学生自身で疑問に思うことややりたことは発言してほしかったと思う。次年度は、もう少し授業の最後に質問時間をとれる工夫をしたいと考えている。

◆今後の改善に向けて

カリキュラムの都合上、前期で解剖学を終了させることを変更することができない。よって、教科書に沿った授業形態や現在の授業スピードを大きく変えることは困難である。しかし、次年度からは解剖学を3つに分けて講義する。よって、次年度から①授業開始前にキーワードを配布し、予習・復習をしやすくする、②小テストを実施する、③様々な資料を学生に見せて、文字ではなくイラストや写真のイメージを残すようにするなどの改善を図っていきたい。

解剖学は暗記になりやすいが、理解する授業を行ってきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

18. 解剖学実習

担当教員

木山 博資・鳥居 昭久・木村 菜穂子・清島 大資・
山下 英美・松田 裕美

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

86名

◆集計データ結果について

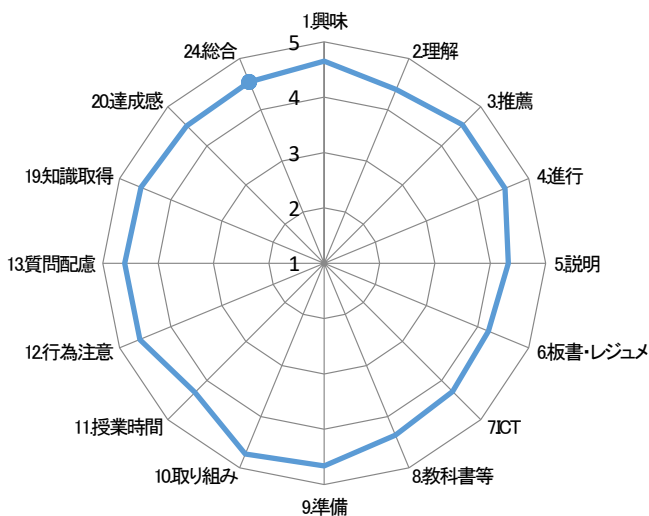
解剖の基礎である骨学について関心をもって学習できたとの意見が多く、目標は概ね達成できたと考えられる。また、授業目標については知らなかったという意見が多くみられたため、今後は初回授業でのシラバスの読み合わせなどを踏まえるなど工夫する必要がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

口頭試問への負担感を強く感じた学生が多くいた一方、口頭試問により骨学についての学習が深まったとの意見も見られる。骨学のみならず、筋の付着部についても関連付けて学ぶ様子もみられ発展的な学習となったと考えられる。

◆今後の改善に向けて

実際の骨を触りながら学習することや同じグループの学生、教員とともに確認しあいながら学習できる授業であるため、今後はスケッチをした骨の部分名称と筋の付着等の関係や他の科目との関連付けを意識した教員側からの教授をさらに行っていく必要があると考えられる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

19. 人体触察法実習 (PT)

担当教員

松村 仁実・木村 菜穂子・清島 大資・山田 南欧美

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

38名

◆集計データ結果について

全項目4点以上の結果であった。板書・レジュメは低い点数ではあった、授業の進行方法により利用していないための結果と考えられる。質問・配慮では、4点台後半であった。実技授業で、常時4名の教員を配置することで質問に対応できていた結果と考えられる。

学生の授業への取り組みとしては、9割以上の学生が熱心にあるいほどちらかといえば熱心に取り組んだと回答している。毎回小テストを筆記と実技を実施し、成績の4割弱を占める設定をしていることもあり、熱心な取組につながったと考えられる。質問に関してははしたか、しなかつたかに2分されていた。積極的に質問ができた学生が9割弱であった。予習・復習においても「1-2時間」と「3-5時間」を合わせて6-7割の学生が取り組んでいた。小テストの効果と考えられた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

小テストがあったことで、勉強する習慣がついたこと、勉強する環境に身を置けたとする回答が見られた。授業中には、質問に対して適切な指導があったと評価の回答が見られた。一方で、時間内に実施する量の調整や教室でのベッド配置などに対して改善を要望する回答が見られた。

教室の利用については、授業時間内での場所の移動は制限していないため、積極的に見える場所への移動を推奨はしているが、それでも全員に対して配慮が必要であると考えられる。授業時間内で行う量については、分野をまとめ実施する部分を限局しているが、その点も説明することが必要と考えられた。

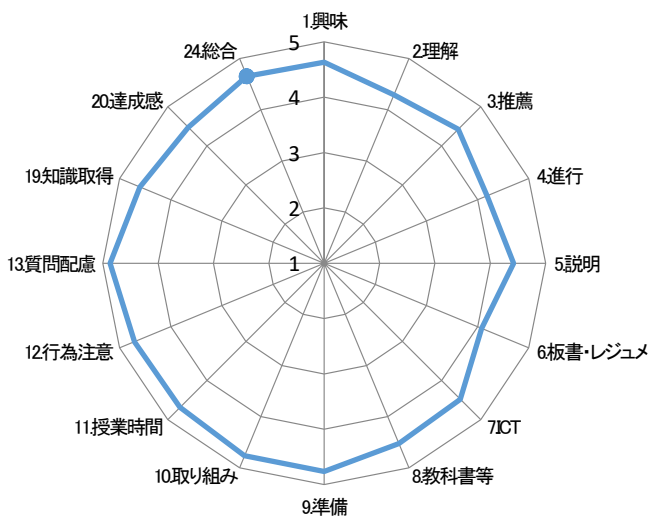
毎回の授業の取り組みを重要視するために、小テストによる成績への反映も含め継続できると考えられる。

◆今後の改善に向けて

実際に経験することでの学びが大きいとの学生の声もあることから、実技形式での学びは重要であると考えられる。授業方法としては、継続していきたい。また、複数教員がいることで不明点の確認のしやすさもあるため、同様の形態がよいと考える。

なるべく多くの学生がデモンストレーションを直接確認できるような工夫は必要である。学生がイメージしやすいように、良く見えるような配置を工夫したい。

授業で学ぶべき内容を減らすことでの対応には限界があるため、限られた授業回数の中で、より効果を高めるためには学生自身が体験する時間を確保することであると思われる。事前の予習の重要性とその方法について毎回の説明の中で加えていきたい。また、授業中の教員によるデモンストレーションもポイントを明確にできるように工夫することで対応できると考えられる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名	20. 人体触察法実習 (OT)
-----	------------------

担当教員 鳥居 昭久 ・ 松田 裕美

専攻・配当年次 OT 1年 回答者数 27名

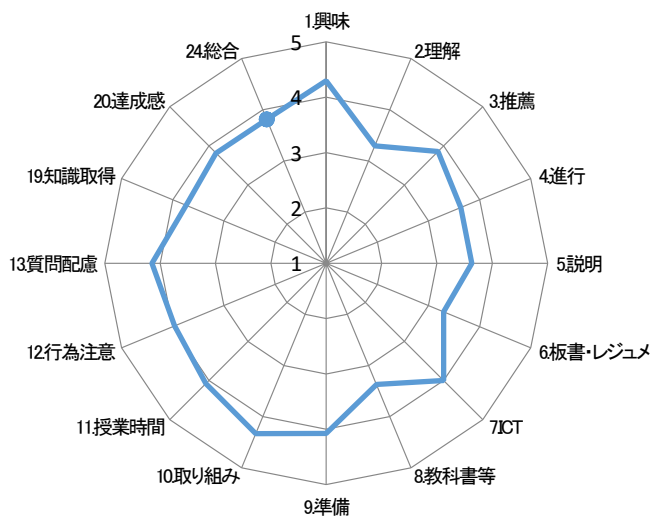
◆集計データ結果について

この科目は、学生にとってはかなり難解な科目であることが示されている。授業に対する取り組みは熱心であり、その部分は評価ができると思う。しかし、かなり理解するのに苦労したようである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

最も問題なのは、担当教員の技量的な差があったことかと思われる。実習ということもあり、アシスタント教員が複数名手伝っていただけでたけれど、触察技術に若干の違いがあったために学生に若干の混乱があったようです。理学療法学専攻と同名称の科目があるために、先に開講しているその科目の情報が入って、事細かな触察を求められているとの誤解もあったようである。この科目は、次年度のROMテストやMMTなどにつながるように構成していたため、まずは大方の筋の位置とランドマークを理解することが大切な目標であった。そのあたりを含めて理解が必要であろう。また、事前学習が足りない学生が多かったのが残念である。

◆今後の改善に向けて
特になし



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

21. 生理学

担当教員

宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

89名

◆集計データ結果について

総合点が、約4.2点、各項目すべて、4点以上であり、学生からの評価はおおむね良好であった。
 また、熱心に取り組んだ、どちらかというど熱心に取り組んだ学生が80%、質問をした、どちらかというど質問した学生が71%、目標を意識した、どちらかというど目標を意識した学生が54%であった。
 予習を3-4時間している学生が44%、復習を1-2時間が35%いる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

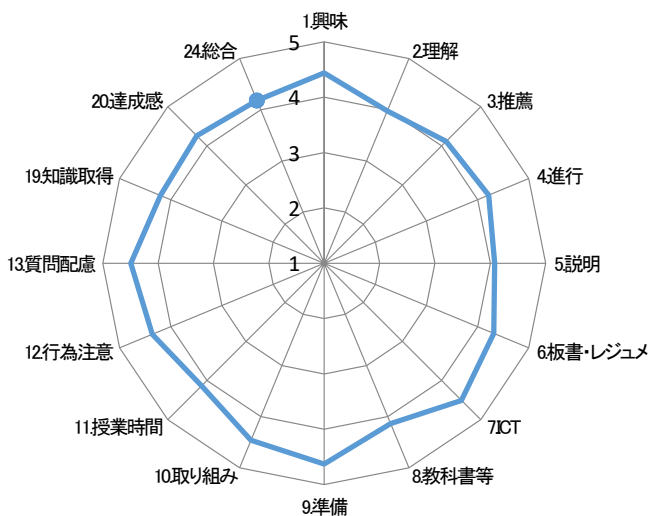
本科目は、教科書を使った反転授業に、スライドを用いた講義を組み合わせで行った。
 良かった点として、「予習してあったので理解しやすい」「自分で勉強する習慣がついた」「グループワークでわからないと質問しやすい」「スライドの資料がわかりやすい」「説明がわかりやすい」「小テストで復習できる」などの意見があった。
 悪かった点として、「予習に時間がかかりすぎる」「プリントがみにくい」「授業形態に疑問がある」などの意見があった。

◆今後の改善に向けて

本授業に対する学生の評価は、良い評価が多数を占める。今のところ、大卒の授業形態は変えない予定である。

反転授業という授業形態や予習課題に不満がある学生がいる。高校までの授業形態や学習方法とは異なったアクティブラーニングに対して、受け入れ難い面があるのかもしれない。予習時間は、1-2時間や3-4時間/週の学生の割合が高いので、それほど予習課題量が多いわけではない。1年生前期の授業だからこそ、学生が自分で考え、理解する学習習慣を身につけてほしいと思っている。来年度は、アクティブラーニングの意義や反転授業の目的を、さらに丁寧に説明したい。

予習課題を課す前に、キーワードや学習のポイントを配布している。また、その学習ポイントに従って、スライドの講義を行っている。一部学生は、学習ポイントを読まず予習をしていたり、何を解説しているのか理解していない学生がいる。今後、ビジュアルシラバスなど、学習ポイントを理解しやすくする工夫を考えたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆集計データ結果について

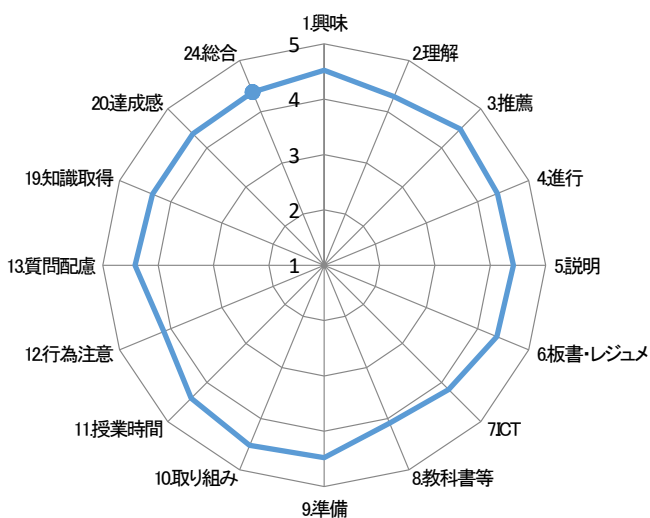
すべての項目において、5段階評点の4.3段階以上となっており、概ね評価は良好である。「教科書等」の項目が他に比べ、やや低い評価となっていた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

この授業では、前期の生理学で学習した内容を実際に体験するため、人だけでなく、実験動物を利用して複数の実験・実習を行い、その結果を解釈・考察することを目的に授業を行った。授業の最後には各項目の担当を決め、発表会を実施し、レポート記載が苦手な学生に対しても議論できるような場所を設けた。学生の意見からも、「実際に体験し、生理学の復習をすることができた」などのコメントがあった。その反面、グループで実験・実習を行うため、実験・実習に積極的に参加する学生とそうでない学生がおり、学生からも参加しない学生がいると負担が大きくなる等のコメントがあった。また、今年度は一つの班あたりの人数が多く、やりづらかったとのコメントもあった。しかし、担当教員の人数を考えると、グループの人数を大きく減らすことは難しい。実験・実習へ参加しない学生に対しては、教員からも注意しているが、学生自身で注意しあえるような環境も作ってほしい。

◆今後の改善に向けて

学生の実験・実習への参加意欲を高めるため、生理学で学んだどの知識を活用するかなどキーワードを実験・実習前に説明するなど工夫を図っていききたい。学生から提出されたレポートに関しても、できる限り丁寧にフィードバックを行い、正常な人体の構造と機能について理解し、説明できるように工夫を図っていききたい。次年度は担当教員が減るため、内容の変更が必要である。しっかり内容を検討し、より良い実習にしていききたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名	23. 運動学総論
-----	-----------

担当教員 齊藤 誠

専攻・配当年次 PT・OT 1年

回答者数 83名

◆集計データ結果について

全体的には良好な結果であったと認識している。
しかし、質問配慮に関する点数が低下していた(詳細は自由記載の検討に記載する)。

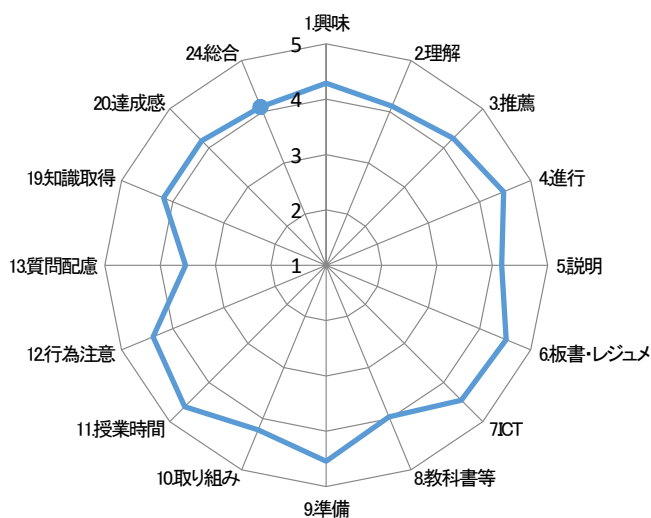
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

質問配慮に関する記載として返し方が冷たいなどの意見があった(本講義は毎講義時間の最後に質問をGoogle Formにて送信させ、次の時間にその質問に対する回答をまとめたプリントを配布し、必要に応じて解説などを行った)。
質問に返答するときのスタンスとして、議論に発展しない内容や、すぐに調べればわかること、講義を聞いていれば理解できると判断された内容に関しては一文程度で返答している。冷たいかどうかは個人の感じ方の問題なので、私の方から判断することは避けるが、特定の個人への対応ではないので問題はないと認識している。

講義直後では、すぐに質問が思いつかないという指摘はもともとである。私としても自己学習を行った上で、練った質問をしてくれる方がうれしい。しかし、質問の受付期間を延長し、次の講義時間での対応をなくすこともデメリットが大きいように感じている。対応が難しい課題ではあるが今後も、良い方法がないか検討していきたい。

◆今後の改善に向けて

上記の課題に対する対応を検討していきたい。
来年度は本科目の講義時間が15コマに拡大するため、苦手意識を持っている学生の多い運動力学に関しても時間をさけるのではないかと考えている。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名	24. 運動学Ⅰ（頭頸部・上肢）
-----	------------------

担当教員	草川 裕也
------	-------

専攻・配当年次	PT・OT 1年
---------	----------

回答者数	56名
------	-----

◆集計データ結果について

「質問配慮」を除き、平均4以上であり、総合的に良好な結果となった。「質問配慮」に関して、自由記述に記載がないため、どうして質問や意見を述べづらかったのか明らかではない。毎回授業後には質問の時間を設けたが、特に反応はなかった。また、メール等で試験前に質問を受けることはあった。

「興味」、「進行」、「説明」、「ICT」、「準備」、「取り組み」、「授業時間」が4.5以上であり、特に良好であった。多くの学生が興味を持って取り組めたことが良かった。昨年度の授業において、配布資料の要望が多かったため、今年度は配布資料を準備して授業を行ったが、その点が良かったと考える。また、昨年度は本科目を担当して1回目の授業であったため、時間配分に苦慮し、急いだり、時間を持て余すことがあったが、今年度は余裕を持って授業を進めることができた。その点が「進行」、「説明」、「授業時間」の評価に影響したと考える。「ICT」については、昨年度も高評価であり、今年度も多くの資料を用いて授業を行ったことが評価に影響したと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な記述が多かった。昨年度と同様に、配布資料や授業で用いたスライドに関する意見が多かった。昨年度は配布資料を準備しなかったため、資料がほしかったとの意見が多かったが、今年度は資料を配布したことで「よかった」との意見が多かった。資料については、「わかりやすかった」との意見もあったが、「スライドのみで手元の資料にないものが多くあったため、もう少し配布資料を増やしてほしい」との意見もいくつかあった。授業における重要な点はまとめ、すべて配布資料に載せていたが、そのような点を十分に説明していなかったため、学生には伝わっていなかったと考える。

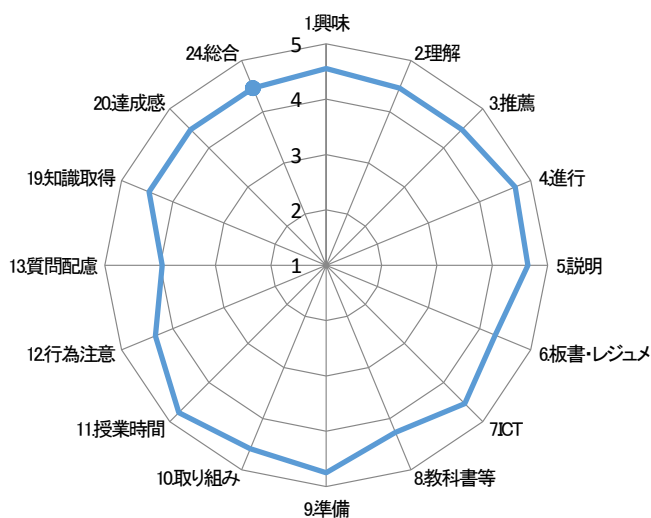
小テストに関する意見もいくつかあった。学習の意欲を高め、理解を深めることに繋がったとの意見とともに、図が分かりづらかったとの意見もあった。今後修正したい。

また、授業の冒頭で前回の授業の復習の時間を設けたことは良かったとの意見があった。

◆今後の改善に向けて

上記の通り、改善が必要な点は質問や意見を出しやすい場を作ること、配布資料についての説明を十分に行うこと、分かりやすい図を小テストに用いることである。質問や意見については、学生が授業時間内で考えることが難しかったり、1年生全員の前では発言しづらかったりすると考えられるため、メール等学生が出しやすい場を作ることを検討したい。配布資料については、上記の通り、授業における重要な点はすべて配布資料にまとめられており、それ以外の内容については、ノート等に自分で記載してまとめるように伝えたい。小テストの図については、すべてを見直し、分かりづらいものは修正したい。

その他の授業の進行スピードや説明に用いるスライド、授業の冒頭で前回の授業の復習を行うという授業内容については今後も継続していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

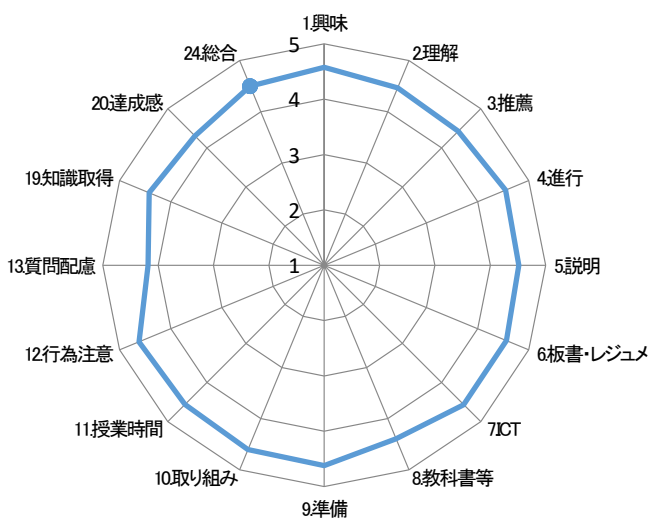
全ての質問項目で4点台の評価が得られており、また、総合評価も4.5点と、高評価であった。授業の内容に関する予習・復習のレポートを課し、翌週に授業内容についての小テストを行っていることから、予習・復習時間も大半の学生が1-2時間程度と十分取り組むことができていた。ディプロマポリシーとの関連については、シラバスには明記してあるものの、授業時間内には詳細な説明をしておらず、多くの学生が十分に知らない結果となった。その結果、授業到達目標の達成度についても、達成できたと回答する学生が少ない結果になったと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検査した結果

スライドやプリントが見やすかったという意見が多く、授業資料の内容は問題なかったと考える。また、レポート課題があったことで、勉強時間を確保することができたという意見もあり、授業内容の理解を助けることができる課題であったと考える。一方で、レポート課題が多かったことで、他の授業に力が入らない、という意見もあり、課題量については再検討する必要がある。本授業は3名の教員が担当したが、3名それぞれの講義が分かれていてよかった、との意見もある一方で、教員間の連携をもっと取ってほしかった、との意見もあり、具体的に、どのような点について連携が不足していたのか、検討したうえで改善を図っていく必要がある。授業内で、グループワークや学生同士のシンキングタイム、模型を作っての学習などを行った。これについても、理解が深まったと、前向きな意見が多数挙がった。本科目は、机上の知識だけではなく、三次元的なイメージで理解を深める必要があり、お互いに意見を交換したり、模型を用いたりすることが、有益であったと考える。

◆今後の改善に向けて

概ね高評価であったため、今後も同様の形式で授業を展開していく。複数教員が担当する教科であるため、授業展開方法について、十分に情報共有するように努める。また、模型等を使った授業や、グループワーク・ディスカッションも引き続き行い、机上の理解に留まらず、三次元的な運動を理解することを促していく。ディプロマポリシーとの関連については、初回授業にて改めて明示・説明し、本授業の目的・到達目標を十分に理解してもらったうえで、授業を実施していく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆集計データ結果について

各項目とも4点以上の結果であった。目標を意識した、どちらかといえば意識したという学生が7割弱、質問については9割弱の学生ができていた。また、熱心に取り組めたかという設問には9割以上の学生が肯定的な回答であった。逆に、グループ学習としたことにより、積極的取り組みなかった学生も一部いた結果と考えられる。

予習・復習に関しては、7割以上の学生が取り組んでいた。実習授業であり、課題の準備からレポート作成まで課していたため、授業時間以外での準備として時間確保につながったと考えられる。また、レポートに関しては教員とのやり取りが必要であったため質問など多くの学生が行えたと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

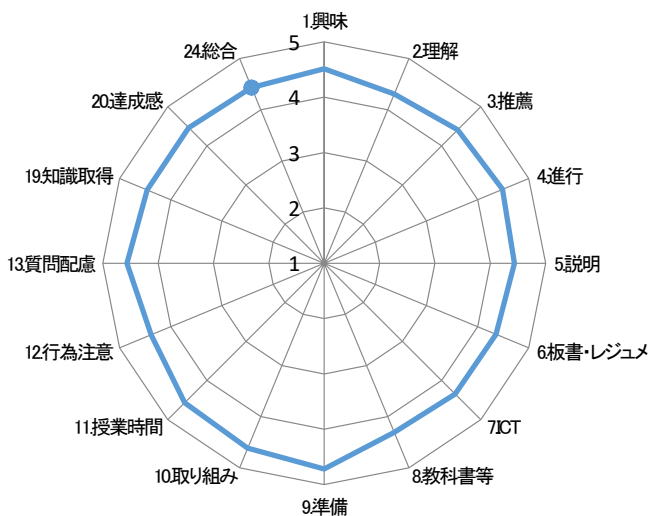
グループ学習としたことで、グループ活動の重要性を感じた学生が多かった。また、グループ活動によって多くの学びを得たとの回答もあった。また、レポート課題を通し、教員とのやり取りし、まとめる能力、説明する能力、理解する能力など様々な能力が必要であることに気づくことができたとの回答もみられた。

一方で、担当課題についてうまく方法を伝達できずまとめきれなかった点を挙げる学生や、レポートの正解が不明であるという回答もみられた。

実習学習として、課題の方法を検討する際の介入の必要性があると考えられる。また課題を通して、あらゆる力を養う目的があること、正解だけでなく課程の重要性を丁寧に説明することが必要と考えられた。

◆今後の改善に向けて

グループ人数と教員数の加減で、設定したすべての課題を体験することはできなかった。ただし、似たような課題を体験することで、各課題に対する理解は深められたと考えられた。実習とレポート作成を通し、グループワークでの学びと課題を経験できている。今後も同様の形式で授業を展開していきたい。課題やレポートに対して積極的に取り組み、課題の設定から方法、まとめ方にいたる点で実践を通しての論理的思考を学習していると考えられる。しかし、自由記述においても論理的思考についての回答は少なく、自身が何を学んでいるのかをより自覚できるようにすることも課題である。授業開始時の学習のポイントの中で説明を加えることで、深い学びにつなげていくようにする。ほか科目と似た課題が設定されていることもあるので、別の課題も用意できるようにしたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名 27. 運動学実習 (OT)

担当教員 清水 一輝 ・ 松田 裕美

専攻・配当年次 OT 1年

回答者数 27名

◆集計データ結果について

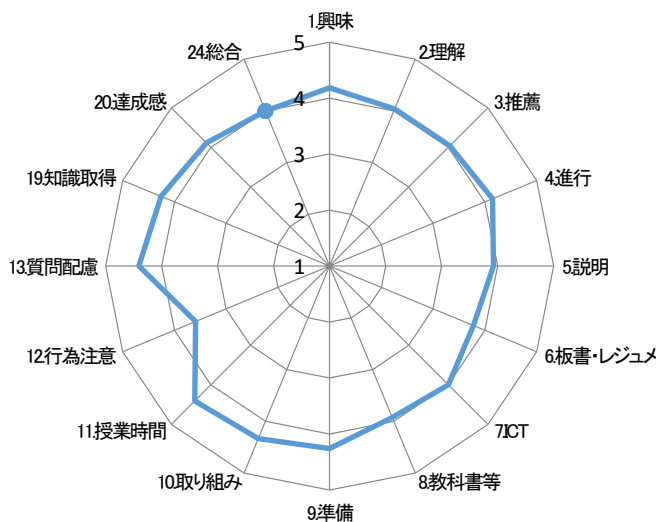
各項目で概ね4.0以上であったが行為注意で3.5と大きく下回った。本科目はグループワークが主となっており、教員1名で対応しているため各グループの状況を確認することが十分にできなかった可能性がある。また、約半数が予習を全くしておらず、授業到達目標に関しても「知らなかった、達成でいなかった」という回答が多かったことから、本科目の授業の目標について十分に学生に周知することが出来なかったことがうかがえる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な内容として「グループで協力し効率的に良い意見をまとめてレポートに活かすことができたのでとても良かった」「先生に積極的に質問できる環境が良かった」など、グループでの課題に積極的に取り組み、グループで良い成果を得られている様子がある。一方で、「レポートの提出期限が短い」「レポートが長期間返却されなかった」など、この科目では毎回レポート課題を課していたが、それらの課題が適切であったか、また教員1名での対応であるため教員の体制に合わせた実施方法を検討する必要がある。教員からのフィードバックについて「字をもう少し綺麗に書いて欲しい」という意見もあったため教員が気をつける必要がある。

◆今後の改善に向けて

学生グループで課題に取り組み、その結果を個人レポートとして提出する形で講義を進めている。1年生で初めて本格的なレポート課題に取り組む場であるため、運動学の知識の獲得に加え、レポート作成技術の習得が本科目の目的である。しかしながら、運動学を知識として学ぶよりも以前に本科目が配置されていることもあり、学生にとっては運動学の知識が十分に理解されていない様子もあった。今後は、科目の配置を検討し、運動学の知識を習得した上で実習に臨めるように検討が必要である。また、レポートの作成に関しては、毎週の科目でレポート課題があることで、短い期間でのレポート作成が必要になる、また再提出が重なることもあり、いくつかのレポート課題を同時に取り組まなければいけない学生も多くいた。そのため、教員に添削された箇所のみ修正して提出する学生も多く、レポート全体の構成や文章の適切性まで検討できていない学生も少なくなかった。レポート作成技術の習得のためにはレポート課題の頻度やその内容について検討が必要であると思われる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

◆集計データ結果について

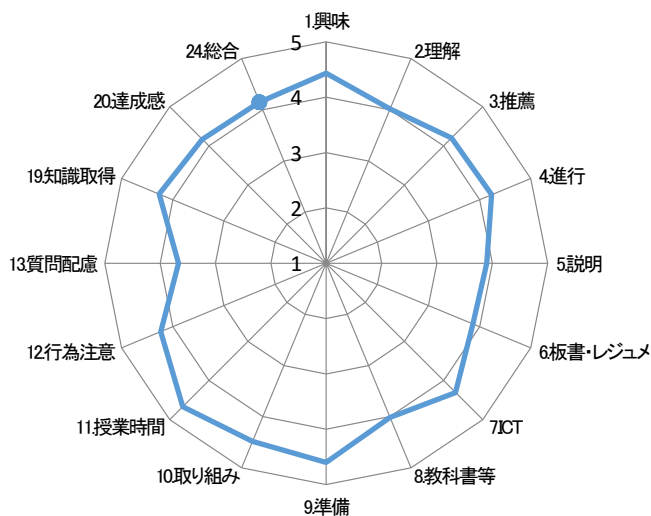
出生前や新生児期の出来事はその後の発達への影響も大きく、特にこの時期の障害はリハビリテーションとの関連性も高いため、人間発達学では、この時期の解説にやや多くの時間を割いた。内容は、生理学的発達と精神・心理学的発達を二本柱に組み立て、それぞれの発達過程に則した特有の疾患を例として提示、発達と疾病がいかに深く関連性があるか、実感してもらうことを目指した。また、人の発達に対してより多面的視点でアプローチできるよう配慮し、各発達段階の成育ポイントを多くのイラストや写真、図、データなどを用いてプリント作成し、それに基づいた講義を行った。学生のアンケート結果からは、思った以上に気に入られたようである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

何人からか「プリント枚数が多すぎる」「どこがポイントか分かりづらい」などの感想を受ける。いつものことである。これに対して、授業開始時に前回講義の復習時間を設け、必要なポイントをくどい位にまとめて明示してきた。講義中の学生には、これも何度も注意してきたことであるが、私語や居眠りが多く、授業態度が問題となるケースも多い。一方、「プリントは見やすい」「理解しやすい」との評価も結構あり、やはり来年度も継続するつもりである。授業が単調に流れないよう、適宜ホワイトボードへの書き込みをするが、学生から「読みづらい」との指摘がある。当然、平易に書くよう心掛けているが、時間的制約もあり、また解説しながらの書字にて、注意していれば容易に分かる内容と思われる。学生の集中力に期待したい。

◆今後の改善に向けて

本講座はOT、PT合同講義で特に座席も決めていない。教室は新校舎で設備も整っており、講義自体はやり易かった。ただ、教室が広い分、後方学生の私語が多く、他学生から騒々しいとの不満が聞かれた。授業中の注意叱責は教室全体の雰囲気大きく損ねる。授業料を払う以上、学生自身の自覚と猛省を促すと共に、卵のOT、PTに対して魅力ある授業を提供したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

29. 一般臨床医学

担当教員

舟橋 啓臣

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

92名

◆集計データ結果について

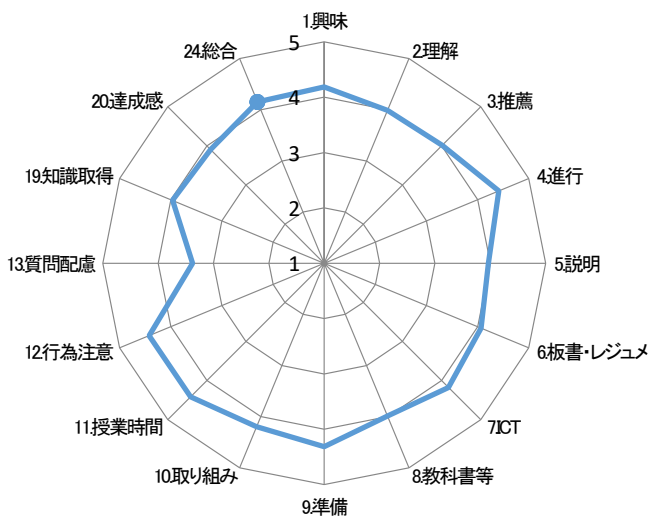
学生に講義をする場合は、相当の時間とエネルギーを費やしてスライド原稿を作成してきた。前年度と同じ講義であった場合でも、前よりは進化した講義内容にしようと改善を心がけ、新しいものを準備してきた。すなわち、前年度の講義の終了後やテストの後に気が付いたところをチェックしておいて、解説を増やした方が良いと感じた箇所は他の参考文献から引用して追加し、不要と感じた箇所は削ぎ落とすことで、年々進化した内容にしてきた積りである。もちろん、学生は前年度のことは知らないものであるから比較はできない。つまり、自分では相当の熱意をもって講義の準備に取り組んできた自負があるので、学生がその部分をもう少し感じ取ってほしいと思った。質問・意見を述べられる環境であったか、という設問に対して、毎年ポイントが低いのは残念である。講義終了時に必ず質問・コメントは？と尋ねるが、ほぼ反応はない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

多くの学生が分かりやすかったと評価してくれている。自由記載でいつも感じるのは、プリントが欲しいという意見が異様に多いことである。プリントがあれば講義中に聞いていなくても、後で困らないとでも考えているのだろうか？言われるまでもなく、講義のエキストもいべき個所のプリントは配布している。しかも、次の週の講義を予習できるように、先に次週のプリントを配布するようにするなど、学習に役立つように考慮しながらプリントを作成している。パワーポイントの1枚の内容が多すぎて、文字が小さくなっているようで、これは考えなくてはならない。内容をもっと削ぎ落として、必要不可欠な部分だけのスライドになるように、準備することしよう。

◆今後の改善に向けて

上記のごとく、様々な改善点を自ら感じ取って、スライド原稿を作り替えていく努力はこれからも続ける。他に人が講義をしたら、自分のよりも優れているなどとは、決して感じたくないからである。そのため、毎年のシラバスの作成前までにスライド原稿を熟考し、改善・改良して講義に臨む覚悟でいる。とにかく、分かりやすい講義になるよう、熱意を持って取り組む姿勢を貫いていきたい。



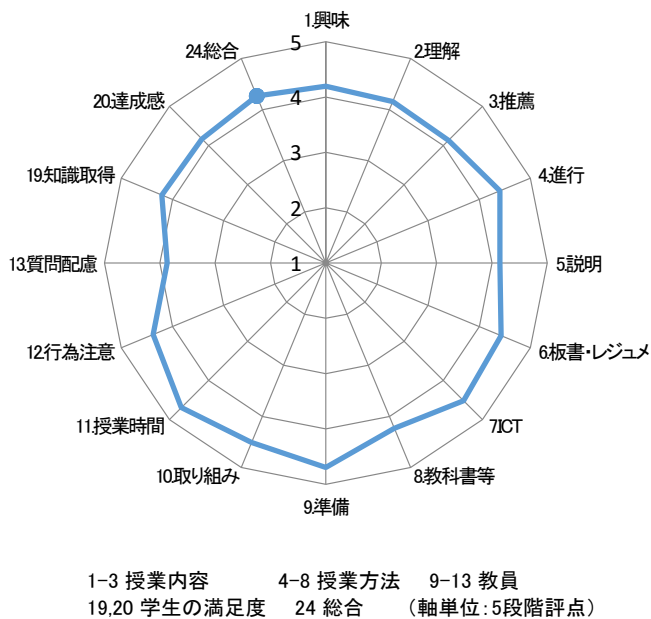
1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

教員に対する評価では、レーダーチャートに示されている通り、16項目中15項目で4.1以上、1項目が3.87であった。最低の評価(3.87)は、自由記載の中でネガティブなコメントで記載されている通り、「学生が質問、意見を述べられるような環境ではなかった」であった。当初、授業の途中や最後に質問時間を設けていたが、質問が全く出なかったため質問時間をとることをやめたためであった。公衆衛生学は授業内容が学生にとってあまり関心の持てるものではないため、時に触れて関連する臨床での事例を紹介したことは良かったと思う。また講義の後半部分では、公衆衛生学に直接関係はないが、コミュニケーション・スキルを修得すべく、コーチングの講義を行った。コミュニケーション・スキルは学生にとって最も重要な資質であり、この講義は学生からも高い評価を受けた。さらに、最後の2回の授業では、定められたテーマに従って学生同士が自分の意見を言い合い、それをまとめて発表するというワークショップ形式の授業を行った。ワークショップは学生にとって将来必ず経験することになる教育方法であり、この講義も学生からの評価が高かった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

否定的なコメントは10.9%(9/82)にみられたが、その3割は質問がしにくいとするものだった。これについては前述した。そのほかの否定的なコメントはレポートの問題、テスト問題、早口など一つひとつ異なる意見であった。肯定的なコメントとしては、①資料のプリントが分かりやすいこと、②授業後半のコミュニケーション力を高めることを目的にコーチングの講義を取り入れ、その講義が高く評価されたこと、③公衆衛生に関連した内容について関連した具体的な臨床の話を取り入れたこと、④最後の2回の授業はワークショップ形式で学生にグループ討議をさせたこと、⑤毎回、振り返りのレポート提出を要求したことなどがあげられる。多くの意見は理解しやすかった、分かりやすかった、コミュニケーションの話が良かった等であった。



◆今後の改善に向けて

今回、短大の学生に対して、公衆衛生学について半年間にわたって週1回全15回の講義を担当したのは2回目になる。その印象は本一冊分の公衆衛生学の内容を、毎回数十ページ分の内容でスライドにまとめて講義をすることは結構大変な作業であった。今回講義で使用した教科書は「シンプル衛生公衆衛生学」であった。非常に内容が良く、最新のデータが記載されているので、本教科書を理解すればすべて理解できると考え、基本的に資料作成は全て本教科書から引用した。公衆衛生学で学ぶ内容は、学生にとっては将来医療従事者として必須となる基本的な知識であり、また国家試験でも問われる内容であり、しっかり習得させる必要があった。しかし、公衆衛生学の内容は、学生にとっては決して興味がわく内容ではないので、それに関心を持って聴いてもらうために講義方法をいろいろ検討して行った。今回の学生からのフィードバックを大切にして、これからの授業では、学生が理解しやすく、かつ興味を持って聴けるような授業方法を取り入れていきたい。例えば、いろいろな臨床での事例やマスコミ等で取り上げられている話題を交えて話をするなど積極的にやっていきたい。また、自由記載のコメントにある内容については、肯定的なコメントにあるような授業を積極的に行うことを心掛け、否定的なコメントに対しては、学生がもっと質問しやすい雰囲気、時間を作るなど改善していきたい。評価項目の中に、カリキュラムポリシーとディプロマポリシーとの関連の質問があるが、今後はその点も考慮に入れて講義内容を検討する必要があると認識した。

◆集計データ結果について

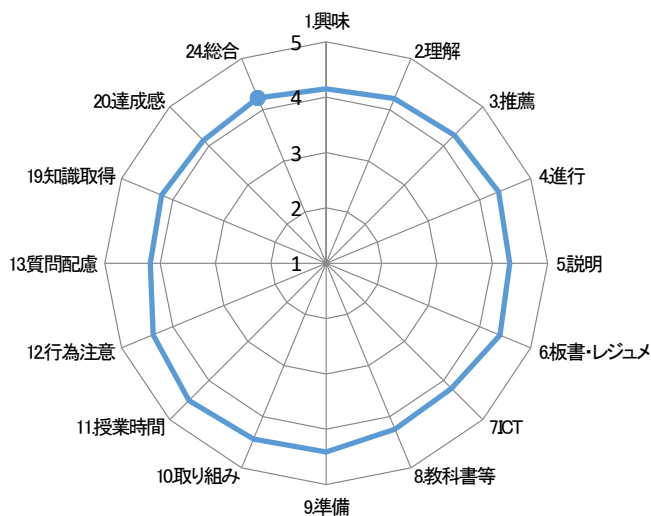
身近な例示を意識した解説、明確な板書、使いやすいワークブック形式の教材作成など、基本的な授業方法の工夫が効果を上げ、安定した評価結果となっている。レーダーチャートは、評定値が4.2～4.5前後の概ねバランスのとれた形となっている。「1. 授業内容は興味深いものだったか(4.15)」と「15. 質問を述べられるような環境だったか(4.17)」がやや低くなっている。分からない点を減らすような授業内容を心掛けていることが「質問が少ない」ことに関連しているかもしれない。授業開始前の30分程度をオフィスアワーとしてなるべく待機するようにしているので、この時間を利用するよう促している。また、授業内容・方法についての評価結果は概ね問題ないが、「予習」「復習」がわずかしか行われていないことは前年度とあまり変化がない。授業外学修を促す働きかけについては課題が残る。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

回答席73名で昨年の40名から大幅に増加したことにより、63コメントが得られた。例年のように、心理アセスメントについての体験的学修を評価する意見のほか、将来に役立つとする意見があった。また、「わかりやすかった」「面白かった」「興味が持てた」「プリントが役に立った」など授業内容、方法について多くの肯定的な意見が寄せられた。集計データでは、質問への対応についての評価がやや低くなっていたが、「質問に対しきちんと対応してもらえた」趣旨のコメントが多数みられた。1コメントは、本授業の内容に該当しないものであった。

◆今後の改善に向けて

基本的には、現在の授業内容や授業方法が学生に支持され受け入れられている結果となった。提示装置等を効果的に使い、テキスト、プリント、板書と合わせてより分かりやすい授業方法と内容の充実を図っていく。また、予習・復習を促す指導はまだ不足しているので、授業の到達目標と履修上の注意を常に意識させるような働きかけをしていく必要がある。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

32. 内科学

担当教員

杉山 成司

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

72名

◆集計データ結果について

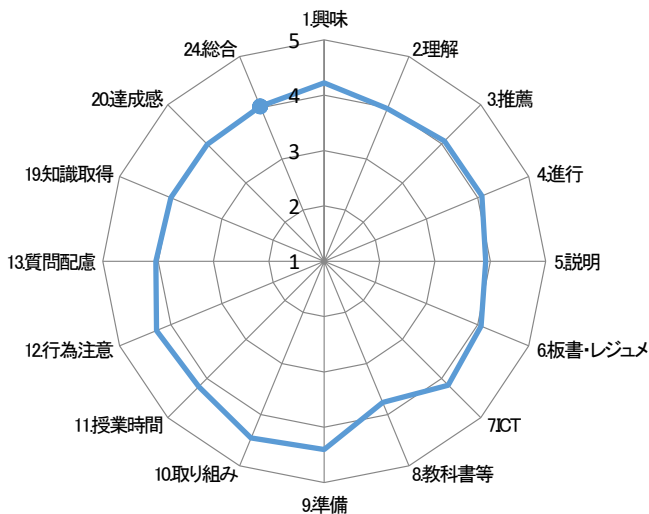
内科学の守備範囲は広い。そこで、全体が概括的で散漫な内容にならないよう、生理学を基本にした症候学、循環器系、呼吸器系、代謝・内分泌系、消化器系・肝胆道系などに力点をおいて講義を行った。これら多くの疾患病態を取り上げることで、必然的に感染症や腎泌尿器疾患など、他の領域の疾患にも理解が及び、またそうなるよう意識して組み立てた。学生が複合的視点をもって医学を学べるよう、図表・データを多用し、社会の最近の話題なども随時提供し、学生のモチベーションを上げるよう苦心してきた。徐々にではあるが、ある程度の効果があったと、集積データから窺える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

少数ながら、毎年「教科書」の活用を訴える要望があるが、実際には配布する授業プリントには教科書以外にも、他の参考書などから図・表・記載を多数引用している。実は、教科書の説明文は内容把握がかなり難しいことも多く、より理解度を高めるよう、工夫している。今後ともより有機的な講義を試行できるよう、努力したい。

◆今後の改善に向けて

PT、OTの混合授業であり受講者数も多く、また教室は前後に長く、見やすさ、聴きやすさなどの観点からも講義には一定の制約がある。ただ、多くの学生は勉学への熱意、希望を持つっており、彼らの意欲を最大限引き出せるよう、真摯に対応していく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

33. 整形外科学

担当教員

種田 陽一

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

63名

◆集計データ結果について

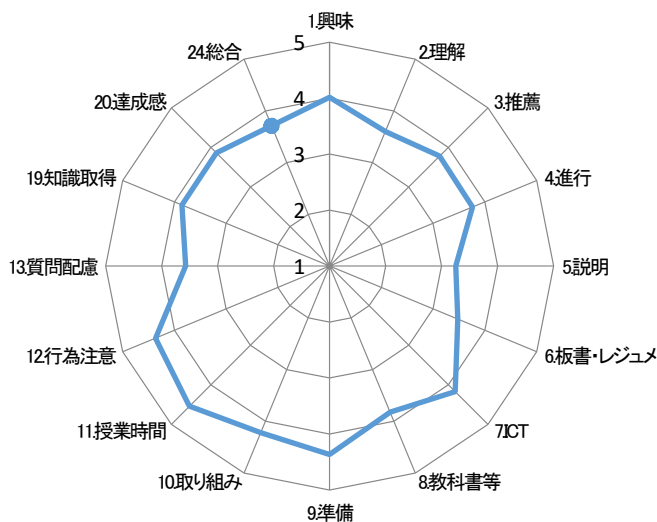
先ず回答率が高いのが驚きである。約2/3の学生が解答しているので非常に参考になる。国試の出題を参考とした講義であるため短時間で非常に多くのことを教えることになり、喋りまくり書きまくりの講義であったので、中には説明、板書、スライド、国試問題の解説などの速さについて来れなかった学生の結果も含まれている様である。また講義内容が多くスピードも速いので講義中には講義を止めての質問はしにくかったと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

ホワイトボードの下の方に板書すると後ろの学生が見にくいことが分った。講義の中で板書、スライド、国試問題の解説も十分理解できる学生もいるが、板書することが精一杯なため講義内容の理解が不十分で、後半に講義内容を復習するために提示するスライドや国試問題のスライドの理解が困難であった学生もいたことが判明した。しかし国試問題の提示は学生のモチベーションを上げるようである。

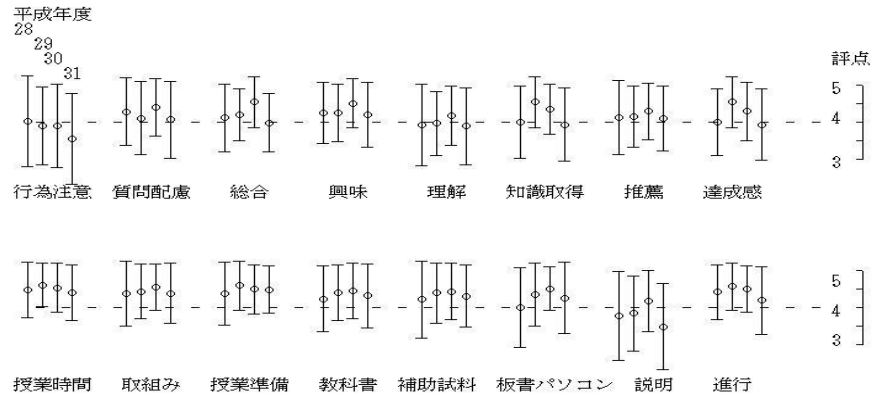
◆今後の改善に向けて

ホワイトボードの下の方に書く後ろの学生が見にくいことが分ったので、下の方には書かないことと字数を減らし大きな字とすることとする。また講義内容は大多数の学生が理解できる講義スピードと板書の量にする。国試の難しい問題は将来に回し、講義の内容を再確認する程度の国試問題を提示することとする。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆集計データ結果について



◆学生の自由記載の内容

「叱咤編」

何喋ってるかわからない。授業の進め方が下手くそ。配ってくれたプリントのどこを言ってるかわからない！そして、謎にプリントの問題が国試並みに授業内容を理解できない私からしたら難しい

先生が説明してる内容とかは、すぐためになると思うから、もったいない！もう少し授業の進め方と声の張りがあれば、よかった。

先生の説明が分かりにくい。説明の時に、こうだったかそうだったか忘れましたがと言われることが多かった。

スライドで示して先生が説明している内容とその時に勉強していた単元の内容が違うことがあった。

先生の視力の問題で説明が止まることが何度もあった。

先生がボケ始めてるような話し方をしている。先生を変えて欲しい。

全般説明がわかりにくいです。

「激励編」

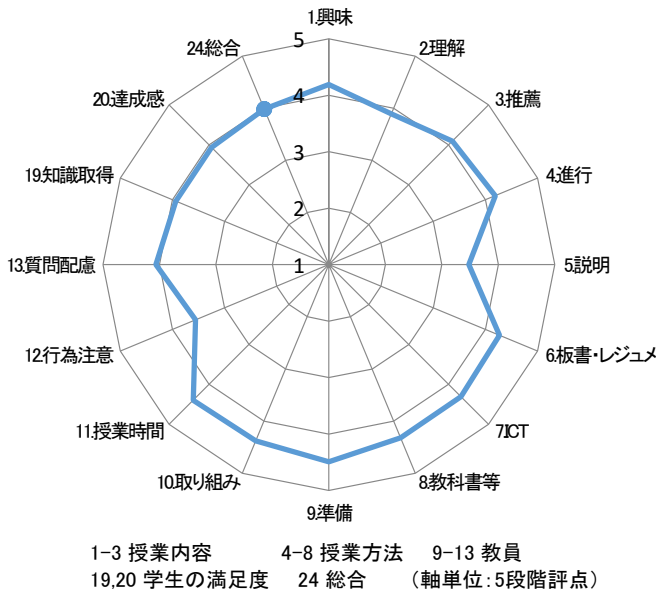
問題形式のプリントで授業で聞いたことをより理解できた。

問題形式のプリントのため勉強がしやすかったです。

スライドが分かりやすかった

◆今後の改善に向けて

おそらく「今後」は無いでしょうから、冒頭の集計データ欄の説明を書きます。毎年多少の微調整はあったが、評価の16項目はほぼ同一でした。各項目について平成28、29、30、令和元年の平均点を丸印でバラツキを縦線分で示しています。補助資料は現行のICTです。配置はある年度のレーダーチャートの回り具合に合わせて、ヒシヤゲて二段の配置にしたままです。「結果」今年は全項目とも大幅低下でした。総合の項目にも現れてます。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

35. 精神医学

担当教員

高田 知二 ・ KANG MICHAEL ・ 水野 峻太郎 ・ 百々 昌紀

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

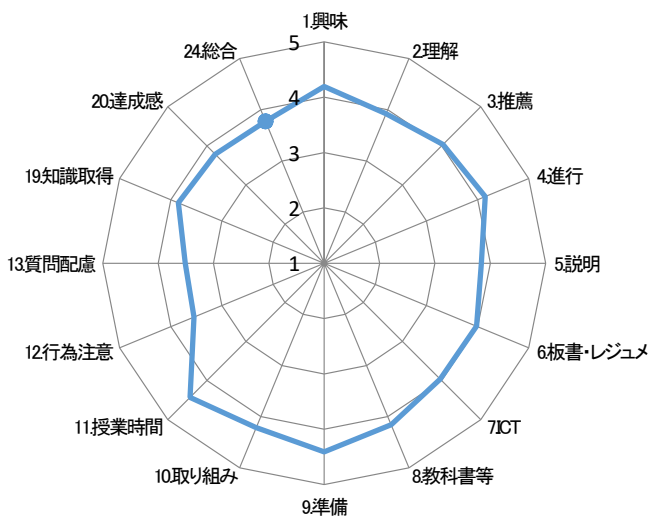
88名

◆集計データ結果について

レーダーチャートの評価が4を切るものが、2「理解」、5「説明」、6「板書」、7「ICT」、12「行為注意」、13「質問配慮」であった。精神医学は毎日の生活において必ずしも馴染みのあるものではなく、その診断学や治療論においては他の医療分野とも特徴を異にする。そのため、「理解」の評価が低かったのではないかと推察する。「板書」、「行為注意」、「質問配慮」に関しては、今後、講師も気をつけることにするが、真摯に授業を受けてもらい、その中で質問を受けることは常に歓迎している。講義は講師と学生との共同作業であることを学生諸君にも再認識していただきたい。一方、質問14～20で示された学生側の取り組みを見ると、予習・復習時間の短さを指摘することができる。授業を受けたその日の内に教科書をもう一度読むなどして知識を確実なものにしてほしい。

◆学生の自由記載の内容を検査した結果

5人の講師による授業であり、授業のやり方、声の大きさ等に差があったという意見が多々みられた。これについては、講師間で連絡を密にするなどして改善を検討したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

講師側としては、連絡を密に取りながら、より分かりやすいものにすべく授業のやり方を工夫していきたい。学生側としては、予習、復習に時間を割いてほしい。予習時間なしが67%、復習時間なしが55%であった。これまで全く馴染みのなかった精神医学を、自宅学習なしで理解しようとするのは無茶としかいいようがない。

科目名

36. 小児科学

担当教員

杉山 成司

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

69名

◆集計データ結果について

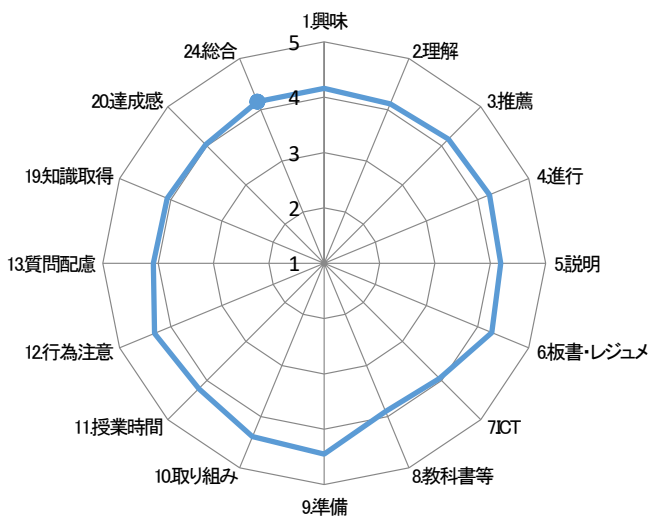
小児科学についての国試の出題数は比較的少なく、しかも偏在傾向がみられる印象だ。しかし実際は、PT、OT共に障害のある子どもを含め、子どもに接する機会は多く、適切な接し方、ケアを学ばなければならない。本講では、出生前小児科学、新生児学、感染症、奇形症候群、先天性代謝疾患、小児神経学、小児内分泌学、小児栄養学・水・電解質などを通じて、小児医療における基本病態ともいべき医学知識の習得をはかっている。また、最近話題性の大きい子どもの虐待についても学生自身で思索できるよう、報道資料などを活用しながら授業を進めており、この講義法はかなり有益で、学生もそれに呼応するかのように興味を示している。集計データでもそれを感じる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

教科書の利用に対して2, 3要望があるが、授業用プリントでは教科書を基本とした上で、より理解が得られやすいよう、さらに多くの書籍や資料を活用している。「プリントはカラーで図も多く理解しやすい」との評価も得ている。一方で、教科書の重要性は縷々説いており、自分に見合った活用法を心掛けてほしい。

◆今後の改善に向けて

OT、PTの合同講義で人数も多く、現在の講義室は前後に長く、見やすさ、聴きやすさなどの点で一定の制約を受けざるを得ない。設備が整った広い新施設での講義は、やはり授業はやり易い。しかし、場所の質に拘わらず、興味津々で受講する学生の姿も多く、こちらも自然と熱が入る。意欲ある学生が多くの満足感を得られるよう、これからも臨機応変に講義形態を変えるなどして、努力していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

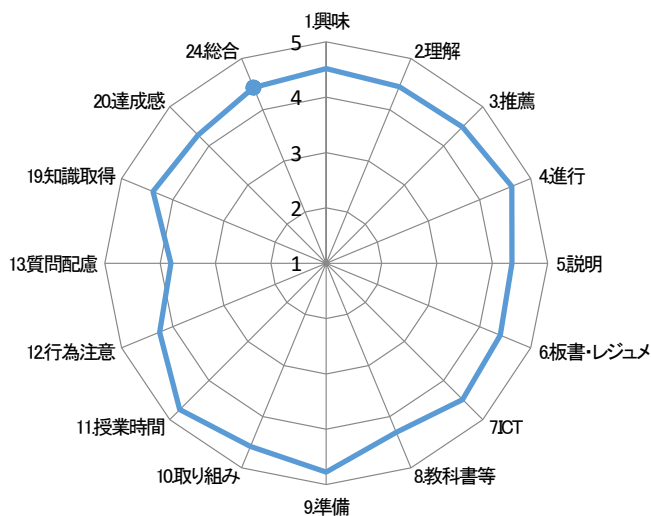
授業方法、授業担当教員の評価については、一部を除いて満足できる評価であったと思われる。その一部とは質問配慮で学生が質問しやすい配慮には欠けていた。スライドを用いた講義の中で、その都度質問はあるかどうかの時間を取ったつもりであったが、学生にとっては質問しづらい雰囲気を作っていたかもしれない。もう少し、時間を取って、個別に質問をした方が良かったと思われる。また、授業に対する達成感や知識取得も評価が低いのは、内容が難しかったことも関係しているかもしれない。動画や映像を用いてなるべく視覚的に理解してもらおうように試みたが、この点については学生の評価は良かったと思われる。医療の基本であるバイタルサインに重点を置いて講義を行ったが、この点についても学生の評価は良かったと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由記載については、9割以上の記載がポジティブなもので、ネガティブなものは少なかった。スライドが分かりやすい、映像が分かりやすい、資料が分かりやすい等教材に対する良い評価が多かった。授業形態としては、毎回講義の後に振り返りのレポートを提出させたが、これが授業を振り返るうえで役に立ったとするコメントが複数見られた。また、医療現場の生の話が良かったとか、体験談が非常に理解しやすかった等のコメントが多かった。ネガティブなものとしては、スライドに沿って話しているだけで単調であったこと、プリントの字が小さい、声が聞き取りにくいとのコメントも散見された。

◆今後の改善に向けて

まずは評価の低かった質問に関する点を改め、講義の途中で何度も学生に質問の有無を確認しながら進めていくようにしたい。また資料等は好評であったので継続して取り入れていきたい。また、医療現場の生の声を聴けたのが良かったというコメントに対して、今後も現場の話をもっと取り入れて授業を進めたい。また、振り返りのためのレポートを毎回実施したが、これも理解するために良かったとする賛成意見が多く見られたので、継続していきたい。バイタルサインの重要性が強調されるが、授業の中での実際の測定は難しく、総合演習の中で取り入れていただくこととした。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

科目名 38. リハビリテーション概論

担当教員 鳥居 昭久

専攻・配当年次 PT・OT 1年

回答者数 92名

◆集計データ結果について

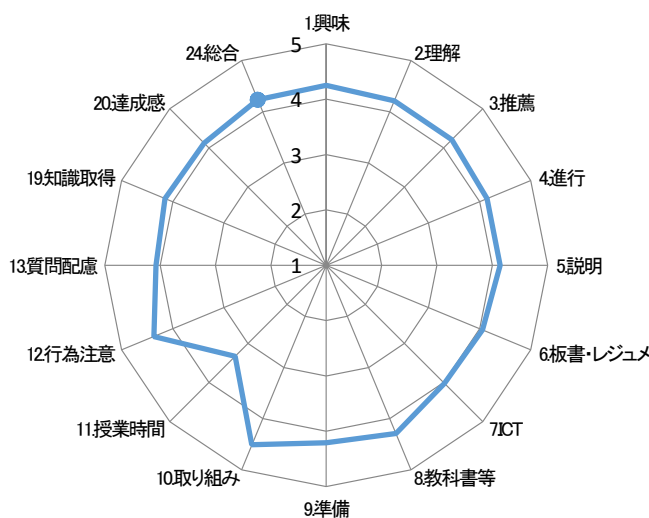
基本的にバランスは悪くないと思われます。時間延長などが有ったために講義時間についての点数が若干低いようですが、大幅な講義変更や所定の時間を確保しているため、問題無いと考えている。学生の多くが、早く終わることには非難が少なく、数分の延長でも非難するようです。学習意欲が低い者がそう感じるのであろうと推察されます。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

短大に入学して初めての講義ということもあり、高等学校までにトレーニング不足の者は、レポートや仮題に苦労したようである。科目に対しての批判以前に学習能力を客観的に評価して、必要な能力を身に付けるための努力をして欲しいと思います。この件に関しては、前半の講義の中でも触れていくべき事かもしれません。入学生の学力に合わせた指導が必要ではあります。一方、国家試験レベルに3年間で引き上げるのには限界も有るかもしれないと推察される部分でもある。多くの学生は、臨床的な具体例を出した講義内容については概ね好評であったと感じる。リハビリテーションの概念は、哲学的な部分も多く、理解しにくい科目内容で有るので、なるべく臨床の具体例を用いた講義を展開していくことが大切であると改めて感じるところであります。

◆今後の改善に向けて

本来の学習内容と同時に、基礎的な学習方法やレポートの書き方など、本来高校までに身に付けておくべき事項について初回講義などで導入することを検討したい。そもそも、国語力、文章力が低い学生の教育についての検討は、全学的に展開するべき事であろうとは感じる。今後、問題提議したい部分であります。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名 39. リハビリテーション倫理

担当教員 鳥居 昭久

専攻・配当年次 PT・OT 1年

回答者数 62名

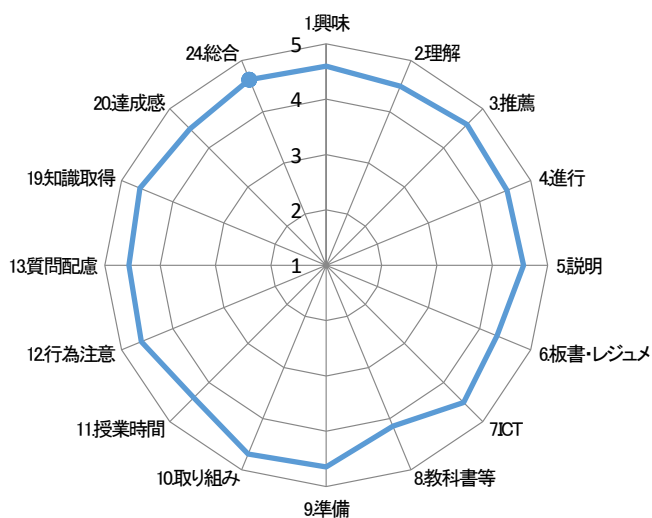
◆集計データ結果について

平均的なグラフになっているところから、特に大きな問題はなさそうである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

間接的家族参加型講義として、家庭学習課題は家族とのディスカッションを促しているが、日ごろはあまり話をしないテーマでのディスカッション経験が非常に好評であることが感じられる。家族間であっても、話をする機会がない昨今、ある意味課題内容よりもディスカッション経験が大きな教育的効果を出していると考えられる。簡単なテーマではないが、医療職種になろうという学生にとって大切な事項であるため、今後もしっかりと考えてほしいものである。

◆今後の改善に向けて
特になし



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

40. 社会福祉学

担当教員

伊藤 正明

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

83名

◆集計データ結果について

昨年度から「社会福祉学」を担当し、今年度は前期金曜5限開講でした。

集計されたデータの「総合評価」は「4.27」でした。昨年度に比較し若干高くなっています。

各質問への回答のうち、最も高いのは「11. 授業の開始時間、終了時間をきちんと守っていましたか」(4.84)で、最も低いのは「12. 私語など授業を妨げる行為に対して、適切な対応をしましたか」(3.73)という結果でした。自由記述にも、「もう少し強く注意しても良いと思った。」とあり、働きかけが足りなかったということがわかりました。

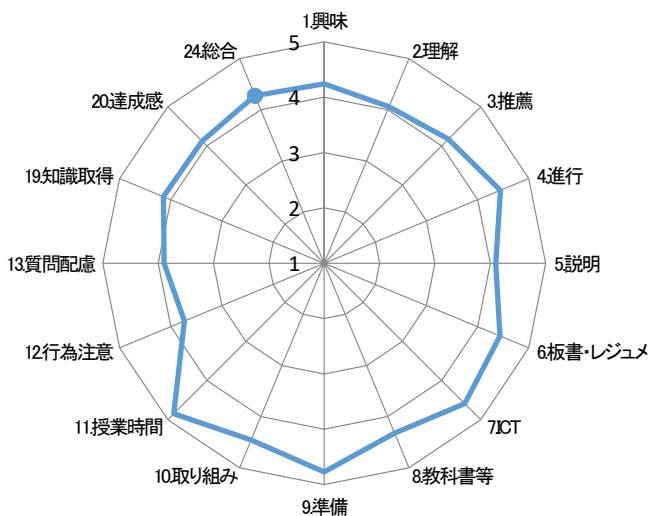
また授業の到達目標を意識できるよう、予習・復習への取り組み課題を具体化しようと思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「社会福祉学」という科目の特性もあり、グループを編成し「ともに学ぶ」形式が有効であったと考えます。映像についても多くの方に強く印象に残ったようでしたので、引き続き活用していきます。

◆今後の改善に向けて

今年度の学生みなさまからの授業評価結果と自由記述から、よりメリハリのある時間と場になるよう、授業内の時間配分と意見交換について構造化することを課題として取り組んでいきます。加えて、学びの要点については十分に示唆することで考え続けてもらうよう工夫します。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

科目名

41. 障害支援とアシスタンスドッグ

担当教員

有馬 もと

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

48名

◆集計データ結果について

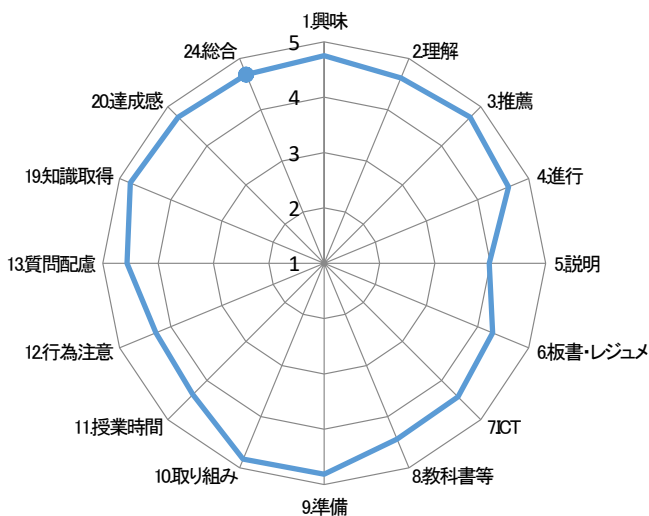
学生からのアンケート結果を拝見しました。ほぼグレード4以上で最下位の説明については、マイクの不備による聞きずらさが指摘されていました。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

何人かの方から、マイクの不備による聞き取りにくさが指摘されました。「指導員の先生の声が聞き取りづらい」。また、プロジェクターの精度についても「スクリーンに映されたスライドも見にくかった」との感想がありました。お一人だけでしたが「授業時間も内容の量より、多く感じられ、もう少し減らしても良いと思った」と、「犬に教える手順を生徒が考える時に、ひとつの班の人数が多く、上手く考えられなかったため、選択肢などを用意して話し合いやすい形式だとスムーズに進められると思った」との、記述がありました。ほとんどの方からは、好評価をいただきました。事前に、モンタナ州の「作業療法士が介助犬貸与の審査と訓練を行う」例ををご説明したのですが、授業とご自身たちの課題との関連性が理解されている方とされていない方が、半々くらいでした。また、予習、復習については、御校よりご依頼をいただけていないので、まったく学生さんをお願いしておりません。ので、評価が低くでした。

◆今後の改善に向けて

日本聴導犬協会では、国立障害者リハビリテーションセンターでの講義などで講義を行わせていただきました。貴校の学生に、同様の授業をさせていただきましたことで、聴導犬・介助犬普及につながると、感謝申し上げます。貴校の学生の方々は、授業中も熱心で、集中力もあり、感動しております。広い講堂での講義とあるので、マイクとスピーカー、プロジェクターの感度をあげていただければ「説明が聞き取りにくい」というアンケートの結果は改善できるかと存じます。お一人の方から「内容が多い」。参加人数が多く、実践的な訓練方法についてのディスカッションおよびデモへの参加ができにくい点のご指摘も受けました。参加人数の規制も必要かと存じます。全体的に、ご満足を頂けた結果になりましたが、さらなる医学領域への介助犬、聴導犬の関係性の構築ができれば、講義の意義がさらに明確になるのではないかと、考えております。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

42. 障がい者スポーツ演習

担当教員

鳥居 昭久 ・ 加藤 真弓

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

26名

◆集計データ結果について

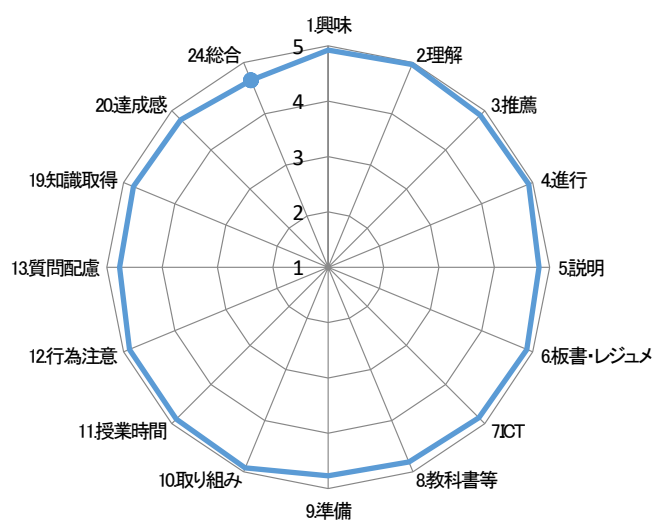
特に問題はありません。全体に高得点であり、バランスもとれているようです。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

障がい者スポーツに対する理解や興味が深まったと思われる記述が多く、大変嬉しく思います。この分野は、理学療法士、作業療法士にとっては、国家試験レベルでは必須ではないけれど、臨床での取り組みや、地域での取り組みの中では、必ず必要になってくる項目でもあります。この講義での経験を活かして、国家試験レベルではなく、プラスアルファの力を持った理学療法士、作業療法士になってくれることを切に祈ります。

◆今後の改善に向けて

この講義の受講により、障がい者スポーツ指導員(初級)の資格申請ができますが、今後はそれにプラスして、障がい者スポーツ競技における審判資格などを取得できるような内容を導入する予定であります。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

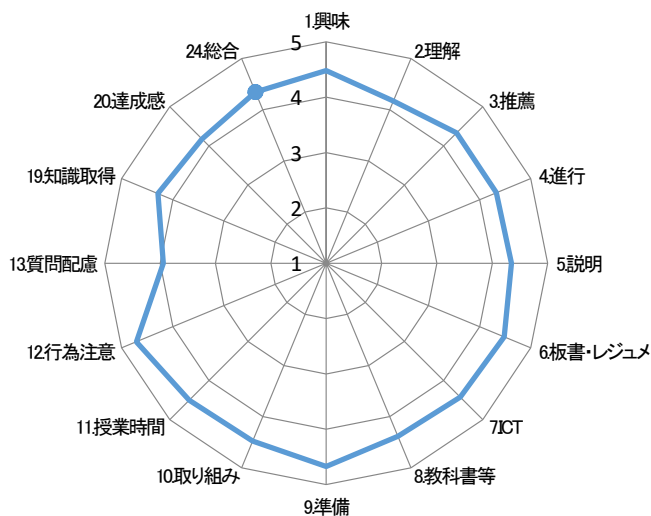
総合評価は4.3点で概ね良好な結果と考える。項目別でみると「理解」、「質問配慮」、「達成感」が低かった。本科目では、教科書を暗記ではなく、様々な定義や社会情勢等を踏まえて、自分の言葉で説明することを求めているため、答えを覚える学習方法が中心の学生の場合は、理解に至らなく小テスト結果にも反映されなかつ達成感として低くなつたと推察する。質問の確認は毎回とつていたものの低い結果であった。小テストを毎回実施していたが、予習・復習を全くしないものが5割であったことは残念である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークや考える機会が多くあつたことに対する肯定的な意見が多かつた。その他、説明の分かりやすさや配布資料について肯定的な意見があつた。その他意見として、教科書をもう少し使つてほしい、教科書を中心とした授業形式では知識の伝達が中心となり眠気を催すとの意見もあつた。本科目の授業構成として前半にグループワーク、後半は知識の伝達をする構成になっていることもあり、教科書の全ての内容を授業内で詳細に触れる予定をしていなく、グループワークを含め自己学習に使用してもらつ狙いがあるが説明不十分であつたと考える。

◆今後の改善に向けて

質問配慮について、授業の途中や最後に質問があるか問いかけをしているが、質問はほぼないことを考えると、全体の前で発言することが苦手でありそれに対する配慮を求めている可能性があるため、別途質問の方法を検討したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名	44. 理学療法研究法
-----	-------------

担当教員 加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・清島 大資・
白井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠

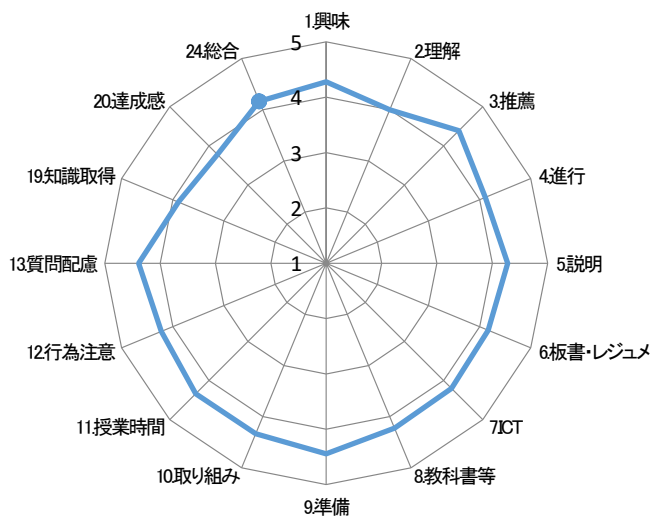
専攻・配当年次 PT 2年 回答者数 18名

◆集計データ結果について

知識習得、達成感の項目が、4以下だが、他の項目は4以上である。
ただし、回答数が18名と、履修学生数の半分以下である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「探求している中で、知識が身についた」「研究のおもしろさがわかった」「研究は難しいが、やり方が少しわかった」など、メリットを記載している学生が多いが、「時間がなかった」「計画的に進められなかった」「忙しい先生に指導してもらえない学生がいた」などデメリットや反省を記載している学生がいる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

本科目は、問題解決能力の向上と、研究の過程を学ぶことを目的としており、研究の過程のうち、研究計画の作成までを行う。
履修学生の半数以下の回答であり、部分的な意見である。
知識の定着や、問題解決能力の向上を実感している学生がいる反面、計画的に進められない学生がいる。
計画的に進めるよう、教員側から粘り強く助言する必要がある。

科目名	45. 臨床運動学 (PT)
-----	----------------

担当教員 木村 菜穂子 ・ 松村 仁実

専攻・配当年次 PT 2年

回答者数 40名

◆集計データ結果について

総合点は4.15点であった。4項目「理解」、「進行」、「教科書等」、「授業時間」で3点台の結果であった。学生の取り組みとしては、6割以上の学生が目標を意識して取り組むことができた。質問に関しては、授業中と授業後を合わせて、約半数の学生が行えた。また、熱心さにおいては9割の学生が取り組んでいる結果であった。予習復習の時間は、1時間未満、1～2時間が合わせて7割であった。まったくしない学生も1～2割程度見られた。

◆学生の自由記載の内容を検査した結果

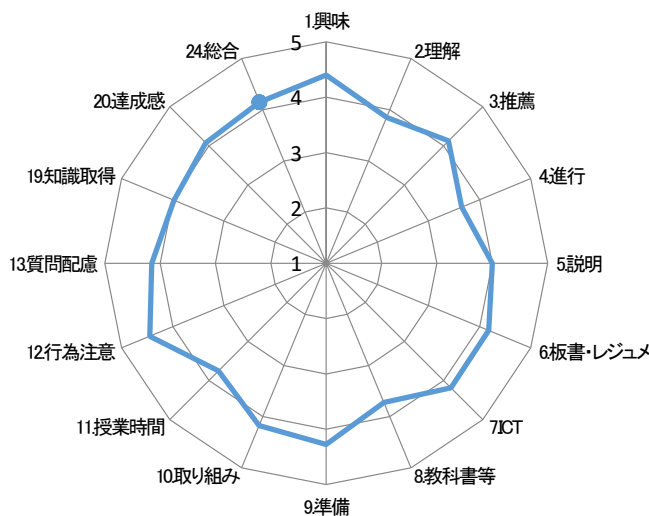
授業ではグループワークを実施したが、グループワークについては考える時間が取れたことなどを意見が見られた。授業内容では、映像を活用したことでイメージを持つことができていた点は良かった。映像を見ての課題に対しては困難さを挙げる学生が多かった。また、どのような観点でみたらよいかに苦労していた様子が覗えた。教授方法としては、板書の字の大きさ、声の聞こえづらさ、解説の不足を挙げる声も多数見られた。

◆今後の改善に向けて

多くの学生は熱心に取り組んでいることから、臨床実習に向けても含め将来的に必要な能力との認識があると考えられた。グループワークできたことで、考える時間を確保できた点は良かった。ただし、内容としては難しさを感じているため、解説や説明の必要性がある。限られた授業時間であるが、自身で考える時間を確保することは重要である。課題の事前提示をすることで、各自が準備できれば授業内でのグループワークがより充実できると考えられる。課題の事前提示により予習・復習の時間を確保することもでき、自己学習の促しにつなげられる。

考える力を身につけられるような促しをしたい。授業中の解説や説明により理解は進むと考えられるが、解説の程度は難しく、クラス全体への解説とグループワーク中の状況を見ながらの説明などを使い分けていく必要があると考えた。

映像を使いながら授業が進むため、なるべく説明に必要な部分はまとめてしまうため、授業中の教科書利用は少ない。課題の取り組みに教科書利用を促すようにし、基礎知識の定着を図るような促しを検討したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

各項目4点台であった。「理解」と「達成感」の項目では、若干の低下が見られた。

学生の取り組みについては、質問に関する項目では、約6割の学生が質問していないとの回答であった。

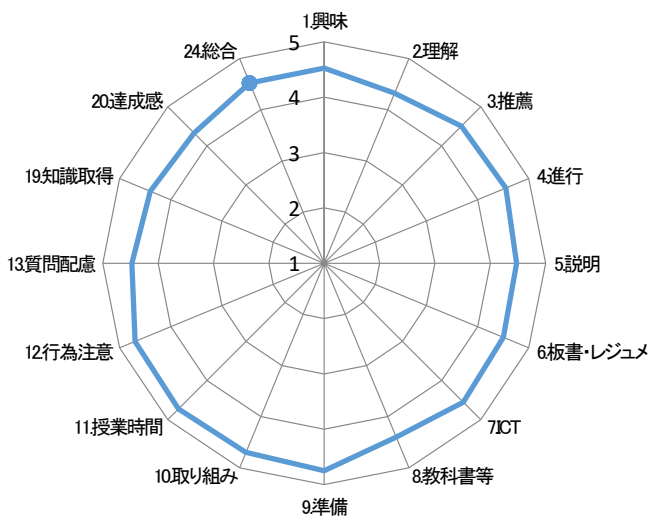
自宅学習については、予習については、約4割の学生が行っていない。復習については、3割弱の学生が行っていない結果となった。予習、復習を行っている学生の多くは1時間未満という結果であった。ただし、熱心に取り組んだ、あるいは比較的熱心に取り組んだという学生が9割であった。

授業ではこちらから学生を指名しながらのやり取りが多く、質問が少なくなったが、授業中に理解しようとする姿勢であったと考えられる。小テストを実施のため、予習より復習に時間を割く学生が多かったと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

スライドを使用している授業展開は評価されていた。配布プリントを使用している復習ではやりにくさを感じると、配布物への配慮する声もあった。小テストについては、評価の声もあるが、難易度が高い点や問われている内容が分かりにくいなどの改善を求める声もあった。ディスカッションを取り入れながら進めて部分を評価する声も挙げられた。

ディスカッションの要素を授業に取り入れることで、参加しているという意識は持ちやすいようである。スライドなどは、視覚的に理解しやすい方法と考えられる。配布プリントについては、補助資料とすべきものと作成しているが、その辺りを説明が不十分であったことが考えられた。小テストについては、内容が限定的であるため、範囲は狭いが理解すべき事項が授業内で充分伝わっていない可能性が考えられた。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

授業では、ディスカッションを取り入れながら学生の発言を促す点は継続していきたい。毎回の小テストを実施することで、復習時間の確保につながっていると考えられる。しかし、授業でのポイントが十分伝わっていないため、小テストを難しく感じているとも考えられる。授業でのポイントを明確にした授業展開を進めていきたい。また、事前課題などを提示することで、勉強すべきポイントを押さえやすく、授業時間が不明点の改善につながることで、理解が深まると考えられる。

事前課題の提示、授業のポイントを分かりやすく示すことをしていく。また、配布資料の取り扱いとしては、参考資料とし知識習得には成書を多く利用する意識付けを行ってほしい。

◆集計データ結果について

すべての項目で4以上の評価であり、全体的に大きな問題はなかったと思われます。

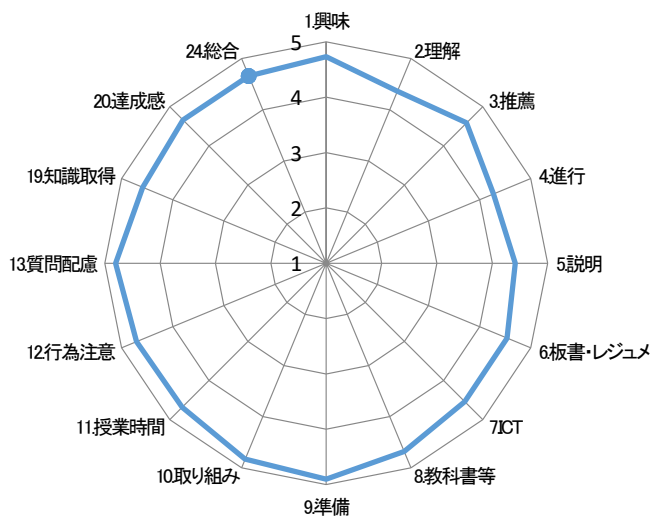
受講者も多くが「目標を意識し、質問もし、熱心に取り組んだ」と自己評価されています。その具体的結果として、「予習・復習」について、取り組み時間の差はありましたが、多くのみなさんが取り組まれている様子が分かりました。しかし一部、「目標の意識」「質問」が取り組まれていないとの評価や、小テストがあるにもかかわらず「予習・復習」がゼロとの回答もあり、残念に思います。

◆学生の自由記載の内容を検査した結果

自由記載では、授業方法に関する内容として「授業の進み方が早い」という意見が散見されました。ただ、それに続き「だけど、わからないところをすぐに質問できる環境だったからよかった」という意見と、「もう少しゆっくと時間をかけてやれたらよい」という意見に分かれました。もちろん、授業時間が倍あれば、よりゆっくとやれるかもしれませんが、それはカリキュラム編成上現実的ではなく、だからこそ授業中にも「授業時間だけの取り組みでは十分に技術を身に着けることは難しい」ということを繰り返しお伝えしたと思います。多くの方はそれを理解したうえで、「でも大変！」という思いをアンケート回答に書かれたのかと考えます。

◆今後の改善に向けて

アンケート結果でのみなさんの取り組みに対する自己評価を見ても、この講義で学ぶ内容が重要であることを理解したうえで、取り組まれていることが分かります。大変なのは教員も承知しておりますが、より積極的に取り組んでいただけるよう、今後もウ風していきたいと思っております。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

いずれの項目も4以上であり、検査測定法と同様、データの的には大きな問題はなかったようです。

皆さんの取り組みに対する自己評価では、多くの方が「目的を意識し、積極的に取り組んだ」と評価しており、「予習・復習」の時間にもそれが現れています。しかし、ほんの一部ですが、「目的を意識していない」「予習・復習を全く行っていない」とした方もいらっしゃいました。この講義の目的は授業中に伝え、また予習してあることを前提とした授業構成としていたので、それらを理解されていなかったということであれば、大変残念に思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業の流れとして、「予習をして疑問点を明確にする→講義中に疑問点を解消する→復習によって繰り返し練習する」というサイクルを重要視しています。それに対し、「質問しやすい環境で良かった」という記載が大変多くあり、みなさんが疑問を解決しようと努力した結果だと安心できました。

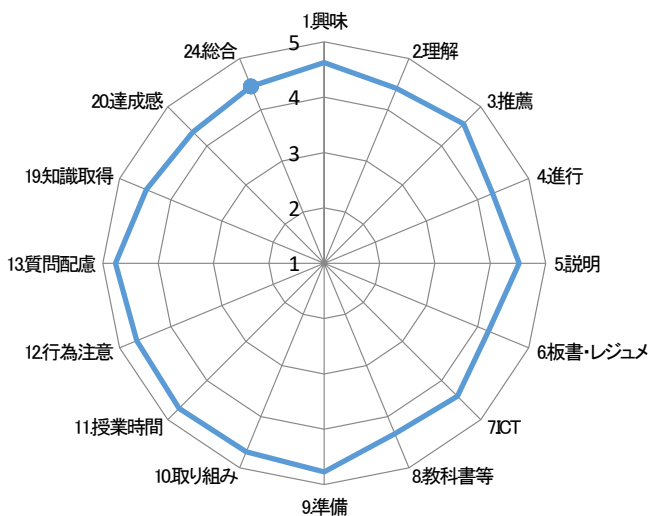
また、「授業の進度が早い」とのご意見もありましたが、これも講義時間だけで実技の習得が行えるわけではないため、自主的な実技練習を繰り返すことが重要であることは何度もお伝えしました。学習範囲が広いことは理解していますが、授業サイクルを理解した上で取り組んでいただけると、さらに良かったかと思えます。

「小テストのどこが間違っているかわかるようにしてほしい」というご意見がありましたが、答案の返却はしませんが(点数のみ返却)、答案の閲覧は可能であるとお伝えしたはずですが、ほとんど確認に来る方はいませんでしたが、そのような対応をとっていますので、ご理解ください。

◆今後の改善に向けて

自由記載欄に「進むのが早くて、試験範囲は広いからきつい。もう少しテスト対策してほしい」という意見がありました。ここで書かれている「テスト対策」がどのようなものを想定されているのかわかりませんが、この講義は授業の全てがテスト(実技)につながりますので、毎日がテスト対策だと思います。

またこの講義スタイルは、積極的に参加する学生に対しては知識・技術習得の効果が高いと言えますが、学習内容を「与えられる」ことに慣れている人には、取り組みづらくもかもしれません。しかし、大学生として自分の目標を考えた時に、習得すべき学習内容を理解し、それを得るために積極的・意欲的に取り組む行動というのは必須です。「自ら学ぶ」ということを意識していただき、教員は、それを最大限援助できるよう、さらにより良い方策を考えていきたいと思えます。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名	49. 理学療法評価法
-----	-------------

担当教員 白井 晴信

専攻・配当年次 PT 2年

回答者数 28名

◆集計データ結果について

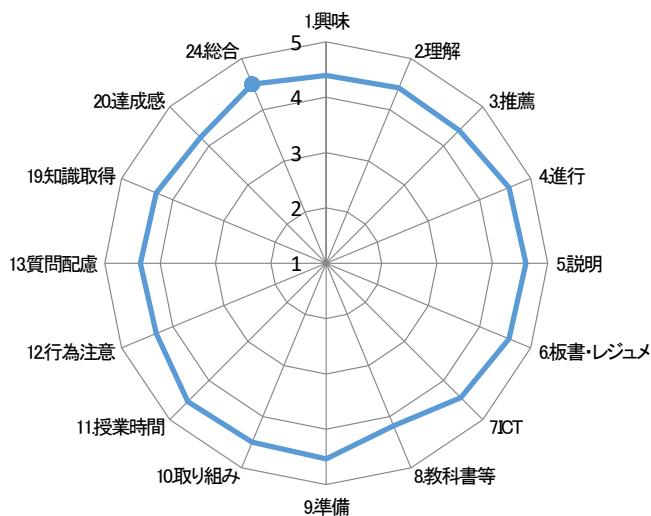
ほとんど全ての項目で平均4点以上であった。授業の進め方や内容については問題ないと思われる。「学習に達成感を得られたか」と言う項目がやや点数が低い。また「自分から質問をした」という項目の点数が低い。学生に主体的な学習を促す工夫が必要と思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

3から4人のグループ学習を中心にした授業構成とした。また2週間に1回、班のメンバーチェンジをした。それらによって多くの学生の意見を聞いた、または自分の意見を言うことができたとの肯定的な意見が多かった。学生同士で意見を討論する環境を提供できていると思われる。

◆今後の改善に向けて

グループワークを行っても、主体的に発言をする学生と、そうでない学生がいる。各学生が積極的に討論に参加できるような仕掛けを考えていきたい。また学生が正確な知識を定着することも重要な目標となる。グループワークと講義をどのように展開するかを考え、学生の知識定着を図りたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名	50. 理学療法評価法実習
-----	---------------

担当教員 白井晴信（内部障害系疾患）・松村仁実（神経系疾患）・齊藤誠（運動器系疾患）

専攻・配当年次 PT 2年 回答者数 22名

◆集計データ結果について

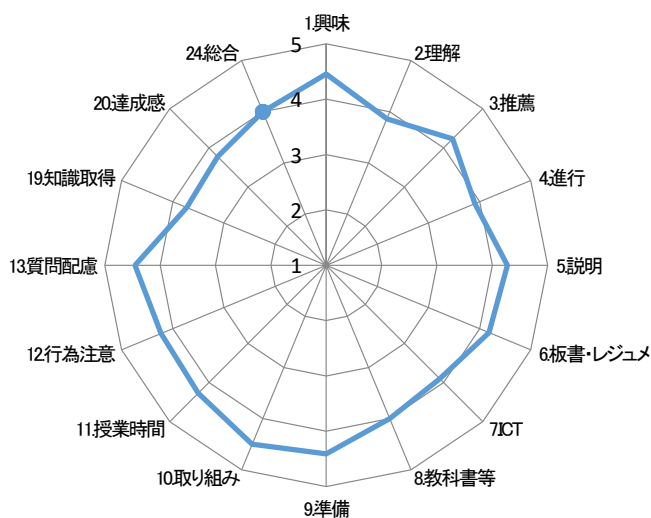
平均4点前後であった。点数の低い項目は、知識の習得や授業の進み具合の項目であった。本講義では模擬症例を用いて症例検討を行っている。新たに求める知識はなく、講義までに習得した他の科目の知識をどのように使うかという点を求めている。その点で今までに習得した科目での知識が正確でなかったり、どのように使うのかが分からなかったりするのだと思う。学生の考えを教員が聞き、修正する時間があると良いかもしれない。授業の進み具合については、3名の教員で進めているため、教員間の差を学生が感じたためと思われる。教員間での差はできる限り減らす必要がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークで模擬症例を用いて考察することは、難しいという意見が多いが内容には肯定的な意見が多かった。教員から各班のメンバーにフィードバックをする時間があるが、その時間の使い方への否定的な意見があった。医療面接については時間が少ないという意見や、見本を見せて欲しいという意見、練習する時間をもっと欲しいという意見があった。医療面接については学生同士での練習を促し、教員が改善点などをする時間を取れると良いと思う。見本を見せることは簡単だが、経験していない学生にとっては教員の見本が「答え」となるため、講義の意図から大きく外れる。今後も教員の見本は見せない。ただ、悪い具体例などの教示は良いかもしれない。

◆今後の改善に向けて

臨床実習に向けた講義であり、本講義で新たな知識は求めている。臨床的な思考過程を経験することを目的としている。その目的を学生に伝え、学生が理解した上で講義を受ける必要がある。模擬症例を用いた症例検討の方法は今後も変える必要はないと思うが、フィードバックなどの方法については効率的かつ効果的な方法を検討する。医療面接の講義にはもう少し時間を費やせると良いと思う。これまではレポートの書き方などについても教示していたが、臨床実習でレポートを書く機会が減っていることから、医療面接の講義の時間を増やせるかもしれない。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

51. 中枢神経系障害理学療法治療学

担当教員

加藤 真弓 ・ 松村 仁実

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

53名

◆集計データ結果について

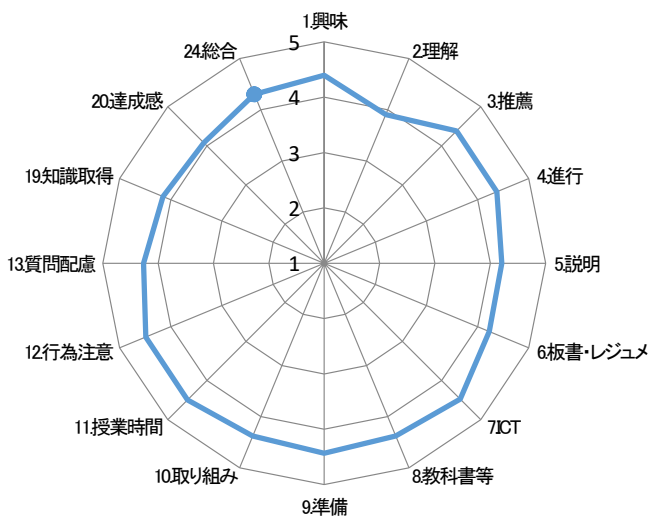
総合評価は4.3点と概ね良好であったと考える。各項目については、「理解」が最も低く、「達成感」「知識取得」「説明」「質問配慮」が低かった。約9割が熱心に/どちらかという熱心に取り組んだと回答をしているが、質問については約6割がしなかったと回答した。また、予習復習をしていない/1時間未満の者が4～6割であった。「理解」をするためには質問や予習復習時間の確保も必要であるため、学習の自己調整力をつけていただきたいと考える。

◆学生の自由記載の内容を検査した結果

多くは、わかりやすい、スライドや資料が見やすいという記載であった。一方で、少数であるがスピードが速い、難しいという記載もあった。中枢神経疾患によりさまざまな症状が出現するため、多くの症状の理解し他の症状と区別することは難しいと思うが、授業としては概ねわかりやすく説明・工夫ができていた結果と考える。

◆今後の改善に向けて

授業においてはわかりやすさの評価が概ね得られているため、現状を継続したい。しかし、学生の「理解」の自己評価が低いため、より理解が得られるよう、予習復習課題の工夫が必要であると考え。整形疾患と異なり、中枢疾患のイメージが持ちにくいと考えるため、視聴覚教材の活用を含めて今後検討していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

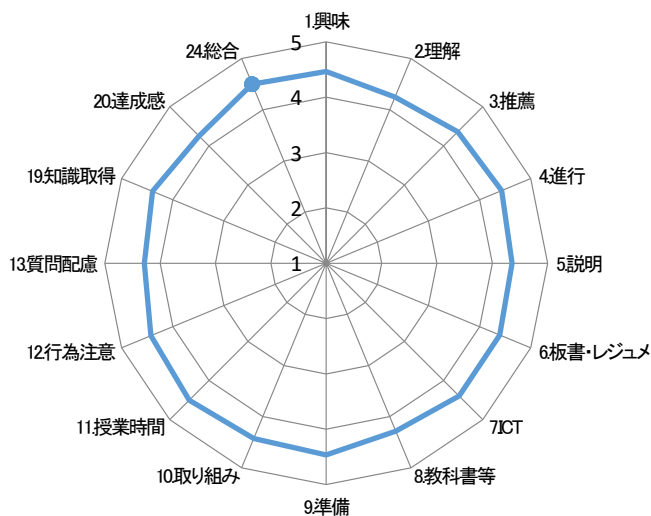
すべての項目で4点台であった。学生の7割が目標等を意識して受講できていた。熱心さについても9割の学生が熱心、あるいはどちらかといえば熱心に取り組んでいた。2年次の後期の科目であり、実習前の準備である意識を持っていたことが影響していると考えられる。質問に関しては、約半数の学生が取り組んでいる。

予習をしない学生が4割いた。予習を1-2時間以上かける学生も2割強であった。復習をしない学生は2割弱であった。一方復習で1-2時間以上の学生が4割弱であった。全体として、復習に時間をかける学生が多い。また、時間をかけない学生がいる一方である程度の時間を割く学生もあり、差が生じてくる可能性が心配された。

◆学生の自由記載の内容を検査した結果

実技を含めて行うことで、興味深く取り組んだり、理解を深めることができたとの回答が多く見られた。また、相手の立場に立つことでより理解を深めるとの回答もみられた。今後も同様な方法で継続したい。一方情報が多岐にわたるため、整理ができないことに対して改善を要望する回答もみられた。また、自身の理解を超えた時に難しいとあきらめてしまっているような回答も見受けられた。

実技を通し、多く経験し考える展開は継続していきたい。小テストを実施することにより理解を深められた学生がいたが、うまく活用できていない学生もいるようである。小テストの利用方法についての説明に加え、つまづいている学生の問題を抽出し、対応する方法が必要と思われた。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

実技については、情報を整理した上で、検査者や被検査者の立場にたち、より臨床に即した場面を想定し学びの場を提供したい。実際に体験に即して、正確に実施できるよう配慮していく。

配布資料などは事前に配布することで、予習を促すことが考えられるため、配布時期についても検討する。同時に、プリントやスライドでの情報提示に関しては、一資料であることを正確に伝え、自身で調べ、学ぶことの重要性は常に伝えるようにしたい。

小テストは、自身の理解度を把握できる手段であることを説明し、復習の時間確保につなげることを説明を加えるようにする。学習での疑問点を解消のために、振り返りシートなどを活用し理解を深める一助としていく。

科目名

53. 整形外科系障害理学療法治療学

担当教員

齊藤 誠

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

35名

◆集計データ結果について

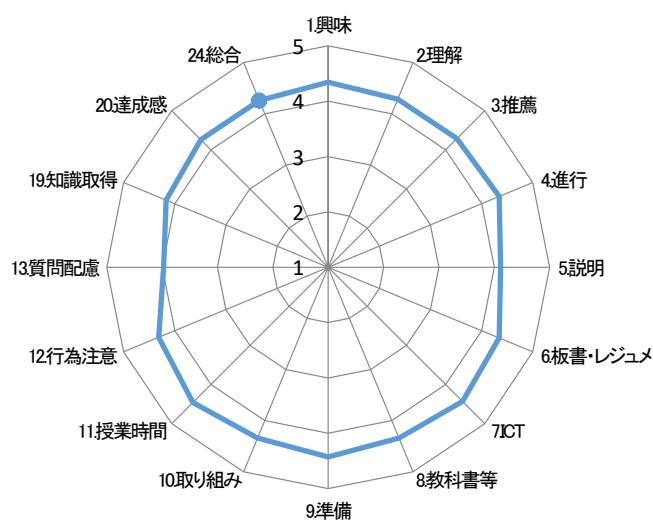
概ね4点以上の評価点を得ることができたので、講義内容としては適切であったと認識している。本科目は後期の開講科目である「整形外科系障害理学療法治療学実習」に向けて、病態生理を中心に解説した。理学療法治療学という概念から考えると、整形外科疾患に対する検査・治療に関する

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

前回講義の復習を行う点やGoogle Formを利用して質問を受け付けることなどを評価するコメントや、動画を使用するなど、わかりやすい講義資料であったというコメントが散見された。今後も継続していきたい。一部、講義態度を注意する際に感情的になるという指摘があった点は反省して改めたい。

◆今後の改善に向けて

来年度より、講義の実施方法を変更する予定である。動画を中心とした事前学習を行い、講義時は質問対応を中心に講義を展開する予定である。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

54. 整形外科系障害理学療法治療学実習

担当教員

齊藤 誠

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

28名

◆集計データ結果について

全体的に良好な結果であったと認識している。

本講義はグループワークを中心としたPBL形式を採用していることから、理解などの項目がある程度、点数が低下することは致し方ないと認識している。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークのメンバーや実施時間に関して改善を求める意見が複数みられた。

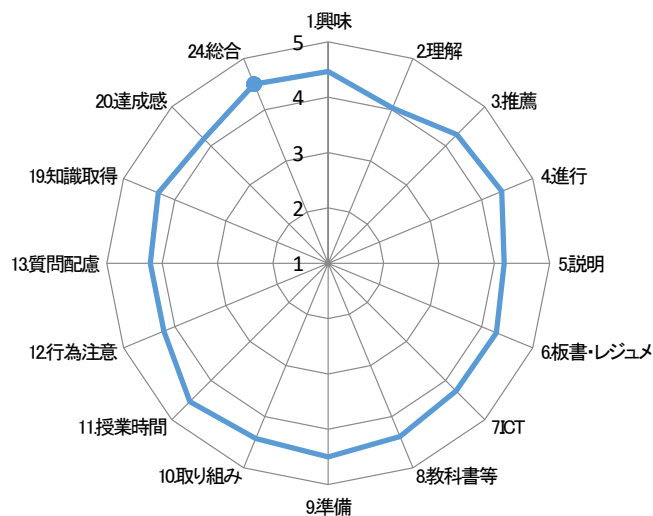
毎年の課題であり、試行錯誤しながら進めているが、学生の個人差や自由なメンバーでグループワークを行うことの弊害も考えると、現状の方法がベターではないかと考えている。

しっかりと考えて課題に取り組んだという意見があったことは素直にうれしく思う。

本講義は隔週の課題(レポート)に対して、必ずコメントを記載してフィードバックを行っていることがモチベーションにつながった可能性もあると考えているため、この方法に関しては継続していきたい。

◆今後の改善に向けて

講義内容や方向性は大きく変更する予定はない。理学療法士的な臨床推論能力を向上させることを主目的に講義を実施しており、この考え方の習得は極めて重要であると認識しているため、今後も継続していく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

55. 内部疾患系障害理学療法治療学

担当教員

白井 晴信 ・ 宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

37名

◆集計データ結果について

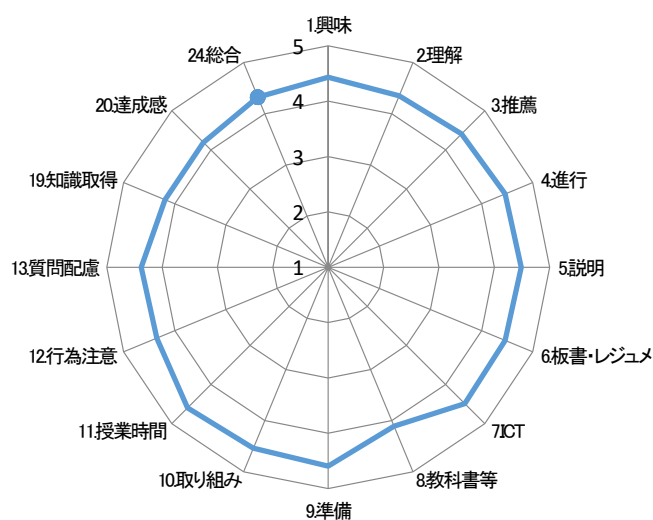
概ね4.5点前後であり授業内容に問題はなかったと思われる。教科書についての項目で点数が低い。講義内で教科書を使う機会は少なく、資料に沿って講義を行ったためと考える。教科書は予習や復習、実習や卒業後にも使用できるものを選定しており、講義内でも説明している。教科書を選定した意図や効果的な使用方法が伝えられていないと思われる。知識習得や達成感の項目もやや点数が低い。内容が難しいと感じる学生が多かったためと考える。

◆学生の自由記載の内容を検査した結果

復習用に動画を配信し、講義時間外でも学習できるようにした。また課題を設定することで講義内容を応用する力をつけようとした。それらの取り組みに関しては肯定的な意見が多かった。しかし、本来の目的である学生の知識の習得に貢献したかどうかは不明である。

◆今後の改善に向けて

大学で用いる教科書は、本来自己学習のためのものである。講義時間外での使用を含めて学習に使う機会を増やし、学生に教科書をどのように使えば良いかを習得させる必要があるかもしれない。動画や資料、課題を用いた学習は、学生が考察し討論するきっかけとしては良かったと思う。今後も継続するが、どのように使用するかを再検討し、知識の習得により効果的な方法を検討したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

56. 内部疾患系障害理学療法治療学実習

担当教員

白井 晴信 ・ 宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

27名

◆集計データ結果について

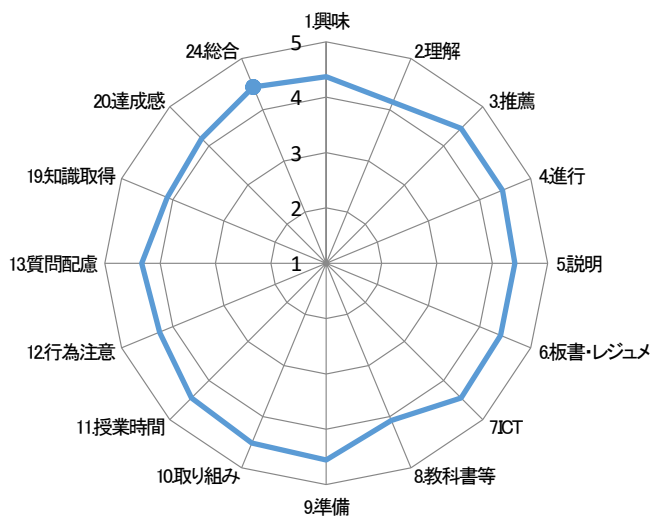
平均4点以上の項目がほとんどであり、講義内容は問題がないと思われる。ただ、知識の習得や理解といった項目で平均4.0～4.1点であり低い点数をつけた学生が比較的多かった。内容が難しいと感じる学生が多く、講義についていけなかった学生がいたと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生が自分たちで考えた運動プログラムを行い、その前後の評価を行う実習をした。その実習に関しては肯定的な記述がほとんどであった。その他の授業内容については、わかりやすいという記述が多かったが、「難しい」「ついていけなかった」との記述も散見された。本講義分野で臨床で求められる知識は量・質ともに年々高まっている。そのニーズに合わせて内容を強化・修正しているが、本講義の内容は容量を超えてしまった学生がいたと思われる。学生が理解できるような工夫が必要だと考える。

◆今後の改善に向けて

求められる知識量と質に対応するために、講義の内容を増やすだけでは基礎がおろそかになり、結局理解につながらないと考え。受動的な講義で学生が修得できる内容は限られる。講義時間と自己学習時間を有効に使って、学生がより主体的に自ら学べるような講義を心がけたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆集計データ結果について

全体を通して概ね4点以上となっており、偏りのない評価となっている。

教科書に加え、実技や動画の提示を取り入れたことで学生の理解や満足度、達成感の項目で評価を得られたと考える。

他の質問項目に比べ「板書の文字の大きさ、書き方、レジュメ(配布資料)の提示は効果的でしたか」で3点以下と回答している数が多く、配布資料の検討の必要性を感じた。また「学生が質問、意見を述べられるような環境でしたか」の項目でも3点以下の学生が多くなっている。講義時間の最後に質問の有無を確認していたが質問はあがらず、紙面での確認や学生が復習した後に質問をできるような対応の検討も必要であると考え。

予習時間全くなし23名、復習時間全くなし10名となっており、次回講義内容や復習の際の要点などの提示も必要であったと考える。

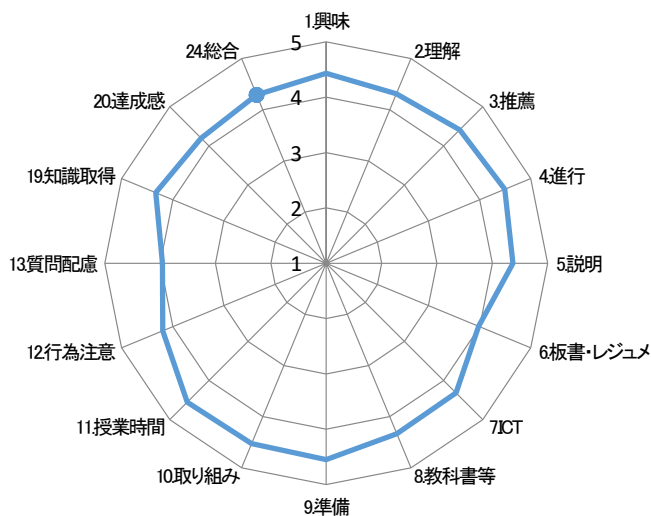
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

小児期の発達、理学療法は学生にとってはイメージのしにくい分野であったと思うが、「映像があってイメージしやすかった。」「実技や動画などがわかりやすくてよかった」「動画で子供たちを見たり、実際に自分たちで肢位をとることで理解できた」との意見が多く、発達過程や実際の治療場面の動画の提示、実技を取り入れたことで、学生が子どもの発達をイメージし、理解を深めることができたと考え。

配布資料の見にくさ、活用のしにくさに対する記載もみられたため、改善し理解度や復習意欲の向上に繋げたい。

◆今後の改善に向けて

小児の発達や疾患については学生がイメージしにくい分野であると考え、動画や実技を取り入れながら講義を展開し、学生からの評価も得られたが、授業態度や試験結果を踏まえると学生の理解や興味関心を十分に得られなかった点もあったと考えられる。今後はグループワークなどの導入により、学生が主体となるような講義展開を検討し、小児の患者像をイメージし、具体的な理学療法介入を考えるための知識を身につけられるような講義内容としていきたい。また配布資料の見にくさ、活用のしにくさを指摘されており、レジュメでの提示内容や記載方法の改善を行っていく。今回の集計結果では予習全くしていない学生も多かったが、予備知識をもって講義を受けることにより、理解を深めやすいように予習課題の提示も行っていけるとよいと考える。今回評価の高かった動画の提示や実技演習に関しては、よりイメージしやすいような内容や説明を加えていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

58. 小児疾患系障害理学療法治療学実習

担当教員

多田 智美

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

35名

◆集計データ結果について

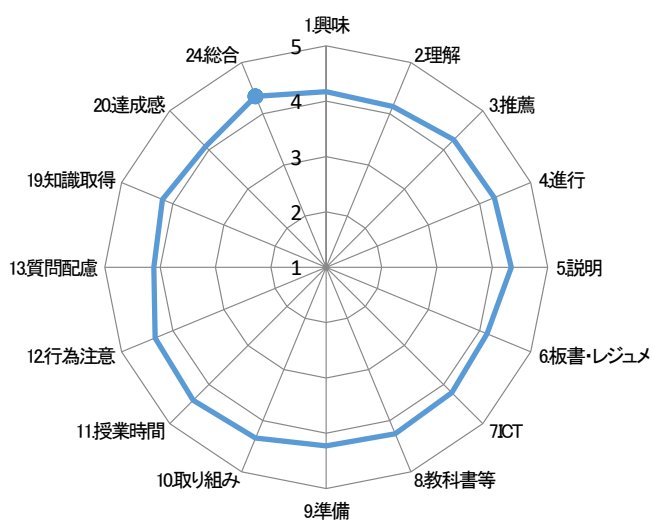
特になし

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

実技は今後も必要であると考えています。スライドの配布は今後行う予定はありません。スライドを配布すれば、自然と考えながら筆記してその場で覚えていくという作業をやめてしまいますので、さらに勉強の時間が必要となってしまいます。考えながら筆記をすることで、逆に勉強時間の短縮になると思います。頑張って筆記をしてください。

◆今後の改善に向けて

与えるプリントは少なくしていこうと思います。その分教科書を読んでいただければと思います。教科書でフォローできていない部分は、口述でお伝えしていきます。スライドに関しては視覚教材であり、文を伝えるためのものではありませんので、文章をスライドから減らすことにより、皆さんが筆記に集中できるようにしていきます。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

科目名	59. 老年期障害理学療法学
-----	----------------

担当教員 木村 菜穂子

専攻・配当年次 PT 2年

回答者数 32名

◆集計データ結果について

概ね4以上の評価でしたが、昨年同様「質問配慮」が若干低い結果となりました。分からないことはその都度質問してほしいと伝えたいつもりでしたが、みなさんが思う「質問配慮ができている授業」とはどういうものなのか、具体的に意見が欲しかったです(自由記載にも特にないので)。

授業には80%以上の人は、比較的熱心に取り組んでいただけようですが、それに対して半分以上の人は予習もしくは復習にかける時間が全くないという結果でした。授業中に十分に理解できたのか、他の課題等が多くてこの講義にかける時間がないのかは不明です。

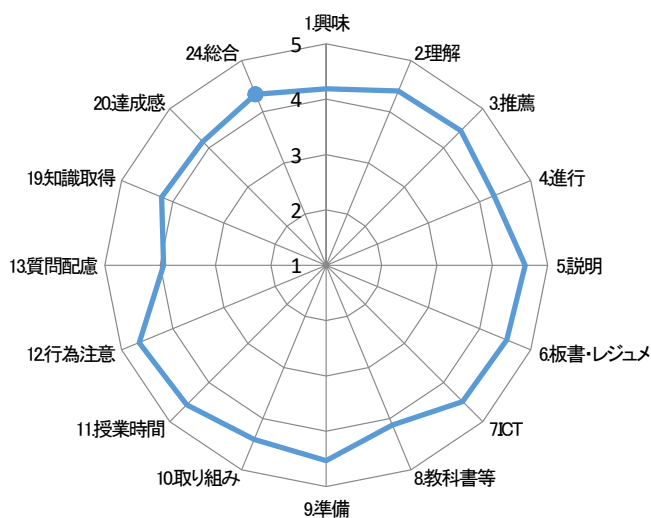
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

スライドや書き込み式の資料プリントを用いた受講形式は、概ね好評であったと思われます。また可能な限り具体例や臨床例を挙げて説明をして言ったつもりですが、それが皆さんの内容理解につながっていたようで、よかったですと思います。

私語に関して、「わからないことを隣の人に聞くくらいは許してほしい」との記載がありましたが、何を話しているのか、その場では私にはわかりません。また聞いている人は「それくらい、いいのでは」と思うかもしれませんが、周囲の人はその声で何か重要な内容を聞き逃すかもしれません。一人一人に集中してもらうためにも、私語に対する対応は変えられません。

◆今後の改善に向けて

例年、講義時間に対して内容(量)が多く、進行に問題があるとの評価が多いため、毎年調整していますが、なかなかうまくいかないところもあります。今後も、より興味を持つことができ、自主的な学習につながるトピックスなども提供できるよう、講義内容、形式ともに工夫していきたいと思っております。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

科目名	60. 日常生活活動学
-----	-------------

担当教員 加藤 真弓

専攻・配当年次 PT 2年

回答者数 50名

◆集計データ結果について

総合的評価が4.26点、質問項目の多くの平均点が4点前半であった。最も低かったのは「理解」で高かったのは「行為注意」であった。「理解」については、ADLの概念や定義に関することであると考えられる。概念や定義は各人が提唱しており、国によっても異なるため、学生が何を覚えればいいのか混乱があったと考える。本授業で扱う概念や定義を示しているのだが、情報の整理が苦手であることが伺えた。

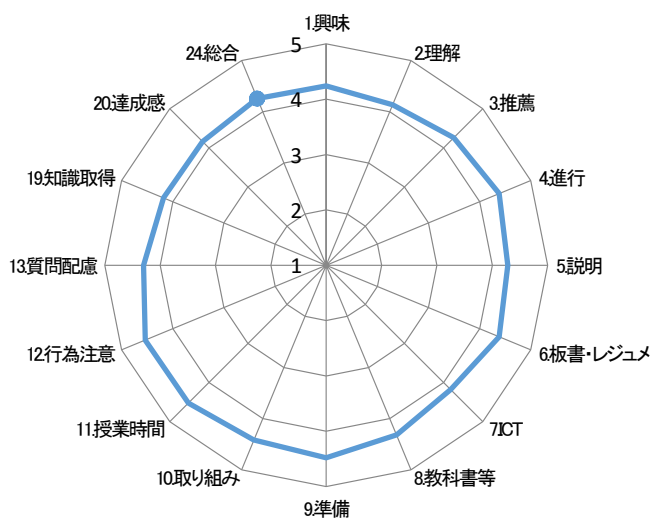
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業の特徴としては①授業中に学んだことを、近くに着席している学生同士で振り返りや問題の出し合い等を授業の最後の5～10分を使い行った。また、その時間に質問も受け付けるようにした。②振り返りシートを作成した。内容は、授業内容を質問形式(～について説明せよ)で提示し、学生に記入し授業前までに提出してもらう。過不足を添削し、時間授業で返却する。そして、間違っていた事柄について全体に説明をした。③グループ学習や授業中に話し合い考える時間を設けた。このような点について、肯定的な意見が多かった。また、重要な点は二回繰り返して言っていた、丁寧に説明してくれたという意見もあった。

一方で、説明が早かった、言っていることは正しいけど言い方が嫌味であるという意見があった。何度も繰り返していることや重要性の低いことには時間をかけていないため、早くなっているかもしれない。言い方が嫌味という意見については、毎年の科目試験にて同じ誤りがあるため間違えないようにという意図の言葉がそのように聞こえるのかもしれない。

◆今後の改善に向けて

概念的な事柄については、引き続き、丁寧に教科書の内容の解説をしていき、書くべきことは具体的に指示にてしていく。授業終了前の学生同士の授業内容確認の時間確保は今後も継続していきたい。伝え方の工夫は今後検討したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名	61. 日常生活活動学実習
-----	---------------

担当教員 加藤 真弓

専攻・配当年次 PT 2年

回答者数 31名

◆集計データ結果について

総合評価が4.25点、各項目については4点台前半が多かった。中でも「理解」「達成感」の得点が低く、「ICT」が高かった。「ICT」については、今回は教科書を中心に講義実技を行っており、ICT活用はしていなかったためこの得点となったことの妥当性は低い。「理解」「達成感」について実際のところはわからないが、介助法については単なる型ではなく、各障害ごとに対応するためには、疾患・障害の特徴に関する知識と介助に関する運動学・運動力学的な考えが必要であり、症例に応じ介助法は異なるために、この2点について点数が低くなったと考える。

熱心に取り組んだ学生が比較的多かったのは、試験で実技があることや、次年度に臨床実習を控えていることが考えられる。毎回、授業の冒頭で小テストを実施していたが、予習・復習を全くしない学生がいたことは残念である。

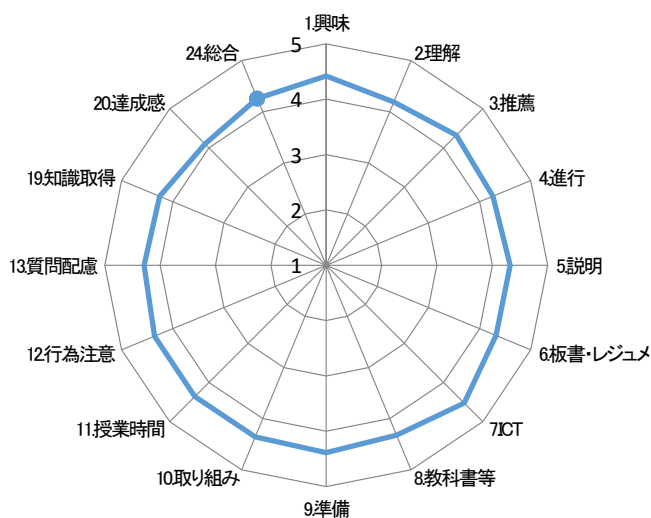
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な記載が多かった。代表的な意見は「質問しやすい環境だった」「先輩と練習する時間があつた」「わかりやすく説明してもらえた」「実技時間がたくさんあつた」という内容であった。他科目との関係で本科目の実技試験の重みづけが大きくなったことから、授業内での実技時間を多くしている。その時間の中で、学生から質問がない場合も気になることは積極的に声掛けを行い指導した結果であると考えられる。

一方で、実技試験の試験時間が短いというものである。毎年5分で設定している。介助量は、軽度・中等度・重度、疾患は整形と中枢の2種設定しているが、事前に事例を紹介し練習時間も設けているため、5分以内で対応できるように練習をしていただきたい。その他、説明が早いという意見もあった。限られた時間で授業を進めるため、予習する学生が少なかったことから、記載した人が予習をしていなかったとしたらぜひシラバスに書かれているように予習をしていただきたい。「グループを毎回変えて欲しい」という意見もあった。グループメンバーによってうまく進められるグループとそうでないグループが出てくるため、メンバーが変わることで課題に影響がない場合は、変更することも可能かと思う。

◆今後の改善に向けて

基本的には現在の方法を継続していく。グループでの実技練習時間が多いため、グループが活性するよう、またより多くの人と練習ができるように必要に応じグループ編成や適宜グループの組み直し検討したい。学生さんには、受け身ではなく自ら積極的にグループ活動をしていただきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

62. 義肢装具学

担当教員

山田 南欧美

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

50名

◆集計データ結果について

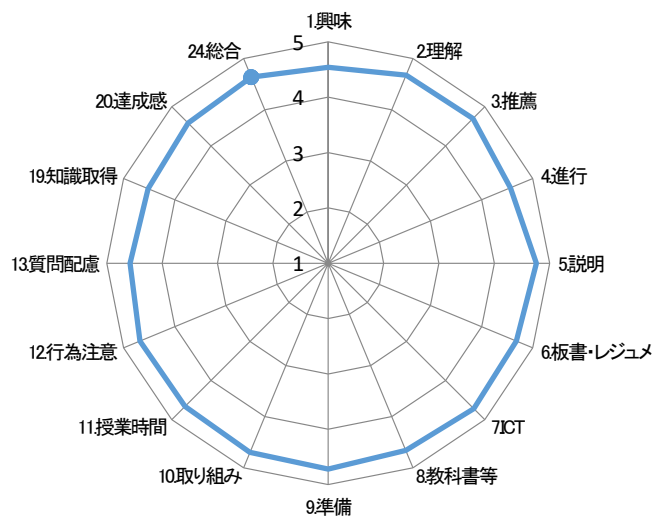
全ての質問項目において、4.5点以上という結果になっており、全体を通して、高い評価を得ることができた。ディプロマポリシーとの関連については、シラバスでは示してあったものの、授業中に具体的に触れることがほとんどなかったため、半分程度の学生しか理解ができていなかったと考えられる。昨年度、やや評価が低かった、授業進行度合いや授業の開始・終了時間については、一定の評価を得ることができ、改善を図ることができたと考えられる。今年度、授業の予習として、資料を事前にオンライン配信した。また、復習課題として、授業で使用した資料の内容もオンライン配信した。これにより、予習時間・復習時間をしっかりと確保できたと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

多くの学生から、授業内容の説明がわかりやすかったとの意見が挙がった。本授業は、学生が馴染みのない義肢・装具についてを教授するものであり、苦手意識を持つことがないよう、なるべく易しい表現で、具体的な例を多く挙げて話を進めるように努めた。また、授業資料には実際の写真を載せたり、授業中、動画を見せたり、実物を実際に触ってもらう機会を設けたりした。これが、学生の理解を促すことに繋がったと考える。事前配信をした予習課題について、これに取り組むことによって授業の理解がしやすかった、との意見もあり、今後も同様の方法で授業を展開していきたい。予習課題・復習課題をオンライン配信したことで、携帯を使って予習復習することが便利であった、との意見も挙がった。通学途中など、隙間時間をうまく予習復習時間に充てることができたと考えられ、学生の勉強時間を確保することに繋がられた。

◆今後の改善に向けて

今年度の授業評価が概ね高評価であったため、来年度も同様の方式で授業を展開したいと考える。ディプロマポリシーとの関連性については、改めて、授業内でも十分に説明・周知する必要がある。本授業は、卒業後の臨床場面で必要不可欠な知識を教授するのであり、今後も引き続き、わかりやすく説明することを心掛けていく。また、日々最新の義肢・装具も開発されているため、最新の情報を集めながら、写真や動画等を活用し、学生に教授していきたい。予習・復習課題のオンライン配信についても、高評価であったことから、来年度以降も、配信方法も検討しながら、より良いオンライン活用方法を模索していく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

科目名

63. 義肢装具学実習

担当教員

山田 南欧美 ・ 西井 千博

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

27名

◆集計データ結果について

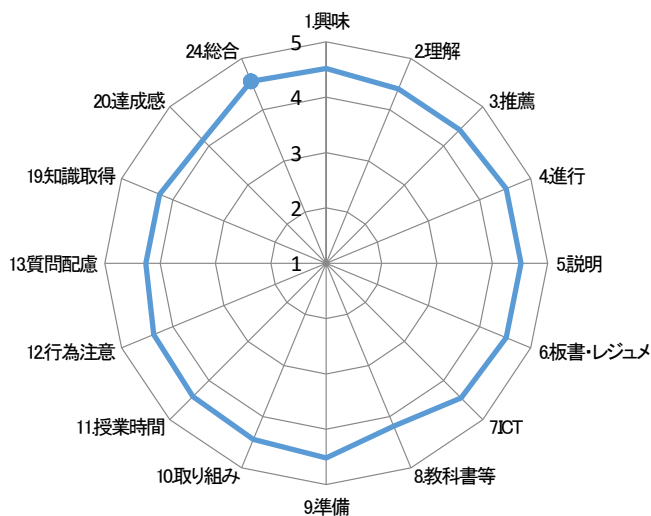
総合評価4.6点と、高い評価を得ることができた。達成感、4.1点と、総合評価と比べるとやや低めになっているが、本講義は、学生に馴染みの少ない、義肢・装具について臨床的思考を教授する科目であり、複雑な内容になっていることから、学生が達成感を感じにくかったと考えられる。授業の予習・復習時間が1時間未満の学生が大半を占めており、予習・復習にかける時間が短い傾向にあった。前期の「義肢装具学」では、予習・復習課題をオンライン配信したが、本科目については、シラバスで示した内容を各自で予習・復習するように、と学生の主体性に任せた形になったため、予習・復習時間が短くなってしまったと考えられる。また、本科目では、教員が準備した資料を基に授業を進めたため、教科書や参考図書の活用についての点数が低めになっていた。教員が準備した資料も教科書を基に作成しており、対応する教科書のページを明示する等、もう少し教科書を活用すべきであったと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

わかりやすかった、との意見が多く、高い評価を得られていると考える。実際に義肢・装具を用いながらの授業についても、高い評価を得られた。また、本科目では、臨床に出ている義肢装具士による講義もあり、義肢装具士の講義からリアルな現場をイメージできた、との意見があった。学校だけでは教えられないことも、伝えることができたと考えられる。質問がしやすい環境であったとの意見もあり、学生の合間を縫いながら講義をしたり、グループディスカッション・発表を行ったことで、学生同士の意見交換や教員との双方向のやり取りを十分にできたと考えられる。

◆今後の改善に向けて

今年度の授業について、概ね高評価であったため、来年度についても同様の内容で授業を展開していく。本学所有の義肢・装具が老朽化しているため、必要物品も更新しながら、実際の現場で活用できる、知識・臨床的思考を教授していきたい。また、引き続き、義肢装具士による特別講義も行っていく。この講義のなかでは、模擬義足や筋電義手の体験もできるため、この体験を通して、より理解を深めてもらいたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名	64. 物理療法学
-----	-----------

担当教員 白井 晴信

専攻・配当年次 PT 2年

回答者数 49名

◆集計データ結果について

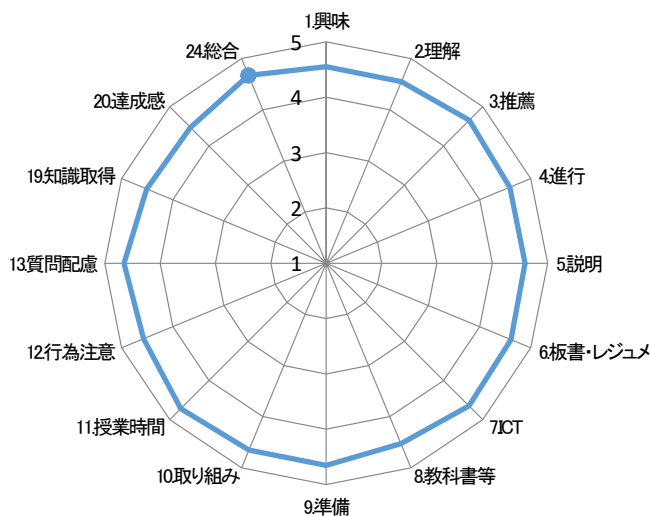
ほとんどの項目で4.5点を超えており、講義内容や講義の進め方について問題がなかったと思われる。予習に費やす時間は少ないが、知識の習得や達成感についてもある程度得られていた。今後も同様の授業方針で継続しようと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

講義は、実験→考察→その内容の講義という流れで進行した。講義の流れや講義資料について肯定的な意見が多かった。最後にはグループワークも行い、臨床的な思考過程を経験してもらったが、その講義についても肯定的な意見が多かった。否定的な意見として、話すのが速くてついて行けなかったという意見があった。気をつけようと思う。

◆今後の改善に向けて

講義形式は現在のものを継続していく。学生が主体的に体験し、考える機会をより増やしていきたいと思う。また、日々進歩している分野であるので、自分でも情報収集を怠らず常に新しい情報を学生に伝えられるようにしたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評価)

科目名

65. 物理療法学実習

担当教員

白井 晴信 ・ 清島 大資

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

29名

◆集計データ結果について

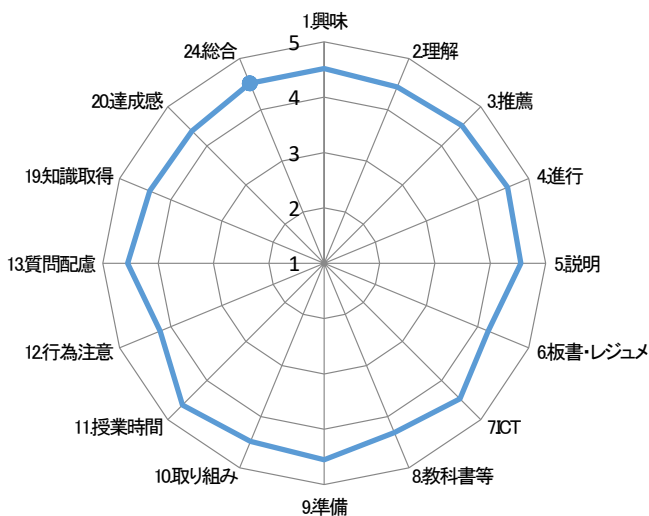
学生からの評価はほとんどの項目で平均4.5を超えており、授業としては良かったと思う。教科書使用の項目では平均4.5未満であった。実習科目のため、教科書を使った授業は行わないが、実習内容に教科書を使用しづらいと感じた学生がいたかもしれない。本科目は毎週実験を行ったため、学生が私語なのかどうかを判断することが難しく、行為注意は他の項目と比べ低くなっていた。また、実験の準備や毎週のレポートが課されていたが、予習時間や復習時間はあまり多くの時間が割かれていなかった。レポートが円滑に進んだり授業時間中に作成できたとも考えられるが、学修意欲がわかかなかった学生がいたとも推測される。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

特に多かった意見は「物理療法の機器を体験することができてよかった」「実験が楽しかった」という意見であった。本実習の狙いは、物理療法による生理学的変化を考察することであり、物理療法機器の使い方を学び体験することではなかった。学生の自由記載の内容から考えると、狙った学習効果には個人差が大きかったのではないかと考える。

◆今後の改善に向けて

学生が意欲的に学習したいと思わせるような実習内容を再検討する必要があると思われる。学習効果にはどうしても個人差が生じるが、それぞれの学生が効果的な学習ができるようにレポートのフィードバックや発表などの機会の活かし方を検証する必要がある。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

66. 理学療法特論Ⅰ（神経生理学的アプローチ）

担当教員

鳥居 昭久 ・ 加藤 真弓 ・ 高松 泰行

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

8名

◆集計データ結果について

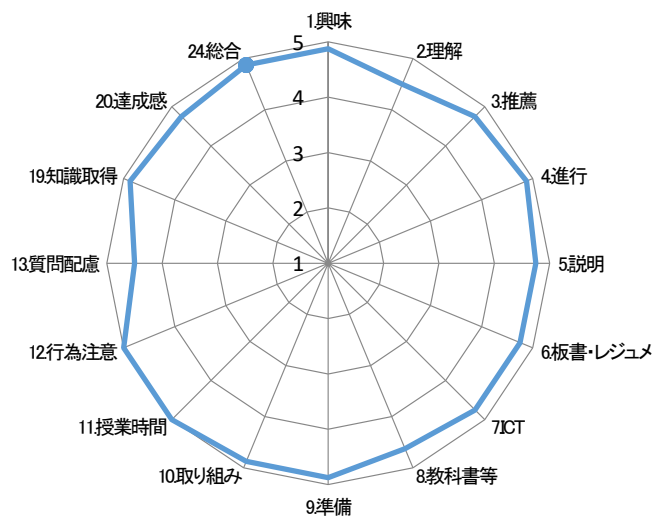
n数が少ないので十分な分析が叶わないが、回答者においては、概ね良好だったと考えられる

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

臨床に繋がる実技という点では好評であったと思われる。内容は難しい部分も有ったであろうが、臨床における治療活動に繋げていけることを期待している

◆今後の改善に向けて

時間的な制約があるが、実技面での充実を検討する



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

67. 理学療法特論Ⅱ（関節運動学的アプローチ）

担当教員

齊藤 誠 ・ 鈴木 惇也

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

5名

◆集計データ結果について

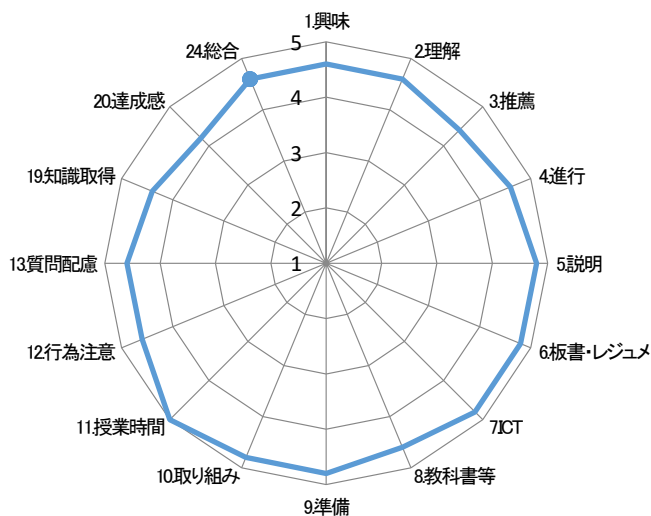
全般的に好意的な評価であったと認識しているが、Nが少ないので内容が良かったと判断するには不十分だと思われる。講義時間数が少ない中でも、実技練習の時間を十分に確保したことで良かった。また、受講者は実習を修了した学生であり、臨床現場で症例を体験、見学しているため、講義の内容や意義が伝わりやすかったと考えている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

実技が良かったという意見や、今後の臨床に役に立ちそうという意見があった。関節運動学を理解し、技術を習得するには不十分な時間数であるが、今後の勉強する方向性や必要性を認識してくれたのであれば幸いである。

◆今後の改善に向けて

大きくは変更する予定はない。半年後に臨床現場で働いた際に、少し役に立つようなワンポイントアドバイスを心がけたい。また、今後も自ら積極的に学ぶことの重要性、必要性が認識できるような働き掛けをしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

68. 理学療法特論Ⅳ（スポーツ障害理学療法）

担当教員

鳥居 昭久

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

4名

◆集計データ結果について

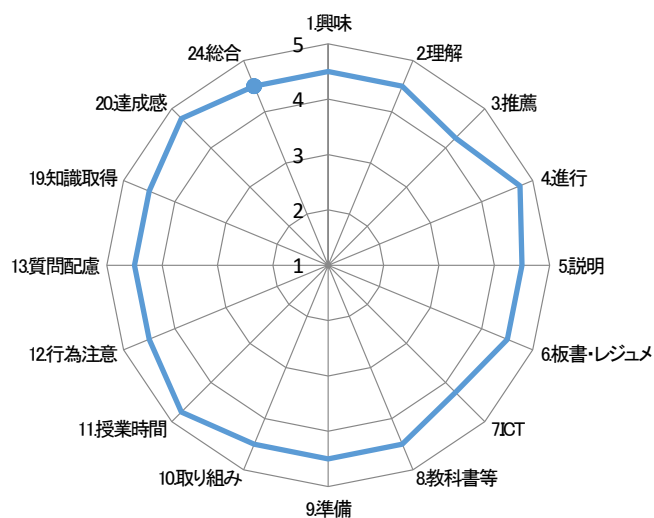
n数が少なすぎて分析しようが無いが、回答してくれた4名については、概ね良好であったと思われる

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

回答してくれた人については良好であったと思われる

◆今後の改善に向けて

受講学年のモチベーションや、取り組む姿勢によって内容を変えていく予定である



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

69. 理学療法特論Ⅴ（吸引・喀痰法）

担当教員

白井 晴信 ・ 長井 多美子

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

4名

◆集計データ結果について

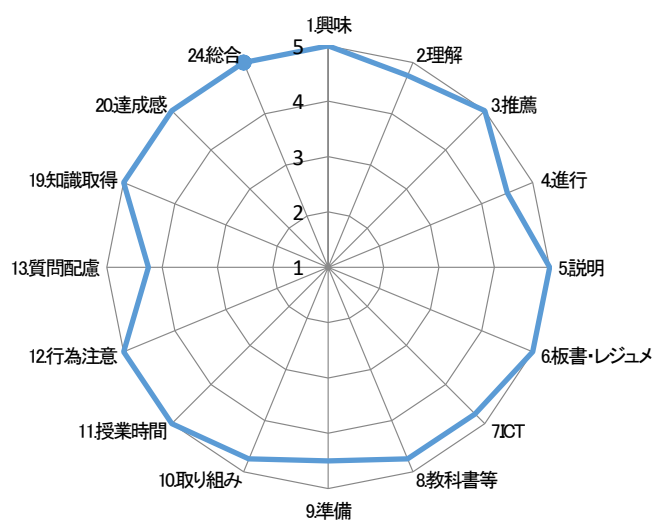
受講生は15人以上いたが、アンケートを提出したのが4名のため結果について詳細に分析することはできない。概ね肯定的な評価であった。質問への配慮について3名が5点をつけているが、1名が3点(普通)であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

吸引の実技ができて良かったという意見があった。実習後の学生が対象のため、特に実践形式の講義が印象に残り、良かったのだと思う。

◆今後の改善に向けて

内部疾患系障害理学療法学での講義内容を臨床的に応用した専門的な内容の講義を行った。内容としては国家試験につながるものもあり良かったのではないかと思います。実践形式の講義、実技をより導入できるようにしたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

70. 生活環境論

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

29名

◆集計データ結果について

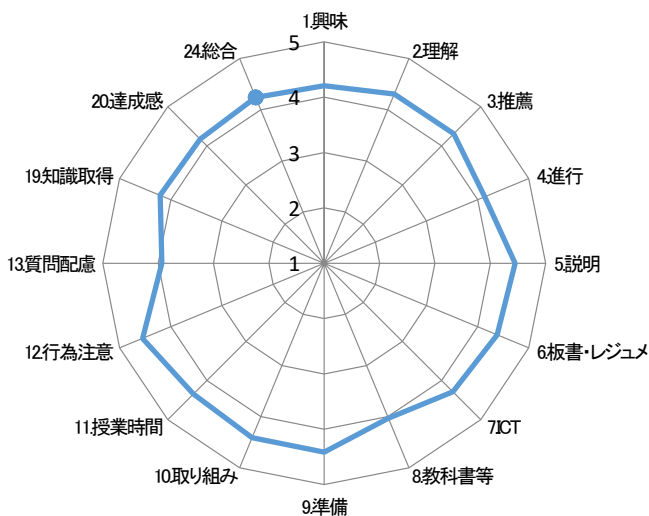
評価はおおむね4以上となりました。「質問配慮」が他に比べて低い評価となりましたが、どういう配慮を望まれているのか、自由記載にも特にありませんでしたので、わかりませんでした。不明な点は、授業中・授業後に質問していただければよかったかな、と思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「例え話が理解しやすかった」等のご意見が多くみられました。「授業内容を過不足なく終えてほしい」という意見も一部いただきましたが、昨年度の授業評価でいただいた意見を踏まえ、ある程度授業内容を時間に合わせて調整しましたので、全体的な問題とはとらえられなかったかと思えます。

◆今後の改善に向けて

どこまでの授業内容を盛り込むかは、毎年悩むところで、できる限り多くの知識を得てほしいという思いと、授業時間の制限とが相反するため、一部のみなさんには「過不足があった」ととらえられたのだと考えます。今後も、その辺りを調整していきたいと思えます。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆集計データ結果について

多くの項目で4前後の評価でした。「興味」や「理解」が3.9程度でしたが、制度論が中心の講義でしたので、興味を持ってもらにくいのかも感じています。

「質問配慮」については、私の他の講義科目でも同様の結果でしたが、皆さんがどのような配慮を望んでおられるのか、想像しづらいです(自由記載にも具体的な意見はありませんでした)。

「進行」については、以下の自由記載内容の検討に含めたいと思います。

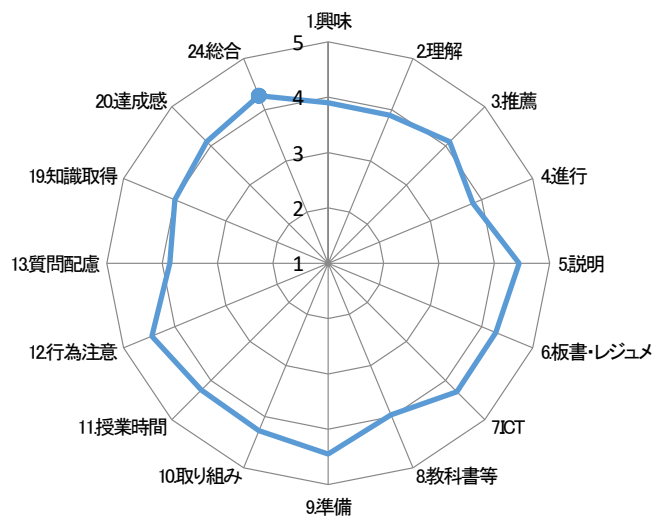
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

集計データより、「進行」が他に比べて低い評価でした。これは、講義内容(配布資料等)に記載しているにもかかわらず、時間の都合で省いたり、講義スピードが速くなったりしたところから評価されたのだと予測しています。自由記載でも「授業ペースを考えて、内容を過不足なく終えてほしい」「授業の進み方が遅い」との意見をいただきました。半面、「説明が分かりやすかった」「具体例を挙げての説明があつてよかった」という意見もあります。私は、この講義は介護保険制度が中心のためどうしても理解しにくい部分があり、ある程度かみくだいて、時間をかけて説明する必要があると考えています。スムーズに理解できた人にとっては、何度も繰り返す説明は「不要」なのかもしれませんが、ご了承いただきたいところです。また、「絶対にこの講義中に触れなければならない(皆さんに説明しなければならない)」項目に関しては、きちんと終えています。部分的に、皆さんが理解するための時間を十分に取れなかった可能性はあり、そこは反省しています。ですが、省いた部分は、「時間があればこれも話しておきたい」ということがほとんどであったことを、付け加えておきます。

◆今後の改善に向けて

授業内容の多さ(スピード)については、反省点もありますが、学生のみなさんの理解のスピードが異なるため、どこに合わせて組み立てるかがとても難しいところです。重要な内容(重要でない部分はないのですが・・・)については、少し時間をかけてでも、多くのみなさんが理解できるまで、説明を加えていく形は続けていきたいと考えています。

また、学生のみなさんの興味については、私がどうできることではありませんが、興味のある・なしに関わらず、本講義の内容が今後社会人として・理学療法士として働いていく中で大変重要なことである、ということを理解していただけるよう、さらに皆さんに伝えていきたいと考えます。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

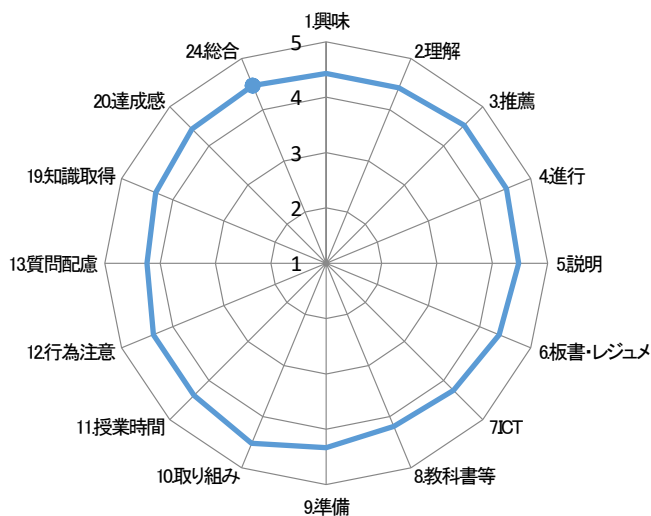
◆集計データ結果について

総合評価が4.47であり、昨年度に続き比較的良好な結果であると考え。高齢者や園児と直接触れ合うことができる実践形式で行われ、具体的な行動目標が明確であり、取り組まれたことに対してその都度フィードバックや指導をしていたこともあり、目標を意識して取組んだ学生が比較的多かったのではないかとと思われる。レーダーチャートには示されていないが、ディプロマポリシーとの関連に関する質問項目では、ディプロマポリシーを知らないという回答がほとんどであったことから、講義開始時のみではなく講義終了後の振り返りにて学生に改めて周知させ自己点検をする機会を設ける必要があると考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「高齢者の方や園児たちと沢山関わることが出来てとてもいい経験だった」「楽しかった」「高齢者や園児たちの特徴なども掴めることが出来たと思うので良かった」「自分の短所が分かった」などの肯定的記載であった。将来、理学療法士となり、自ら対象者と関わっていくことが求められることを学生は理解しているため、実践から学べることが多くあり、学生自身目標に向かって取組むことができた学生が比較的多いのではないかと考える。しかし、記載内容は何が良かったのか、どんな力が伸ばされたのかなど具体的なことがなく、漠然とした感想であるためもっと具体的な力を身につけたのか、何が不足していると感じたのかを具体的に振り返りさせる必要があると考える。

また、回答者数が実際の受講者数よりも少ないため、その他の意見もあるだろうと思う。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

◆今後の改善に向けて

教員側の説明と学生の理解と行動にギャップがある。メモをとる内容を明確に指示する、重要なことは直前に学生に再度確認をとるなどの対応をしていきたい。また、不適切な対応により発生するリスクを考えてもらうようにしたい。

授業を通してどのような力が身についたのか不足しているのか、目標が達成できたか等、学生自身にて点検ができるようなチェックリストがあると具体的な成長を実感してもらえる可能性がある。そのため、振り返りのレポートのみではなく、チェックリストを作成し確認できるようにしたいと思う。

集団をまとめ指導するリーダー的な体験をする機会がないため、その点についての改善策を検討したいと昨年度述べたが、今年度については実施の形態上困難であったため、継続的に検討をしたい。

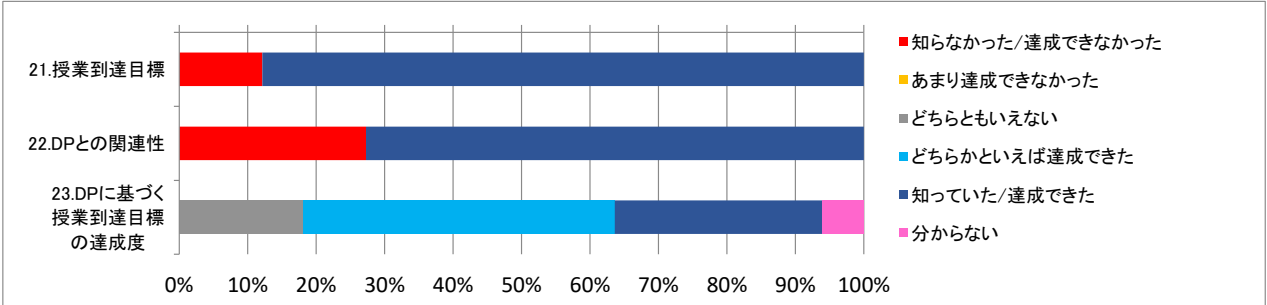
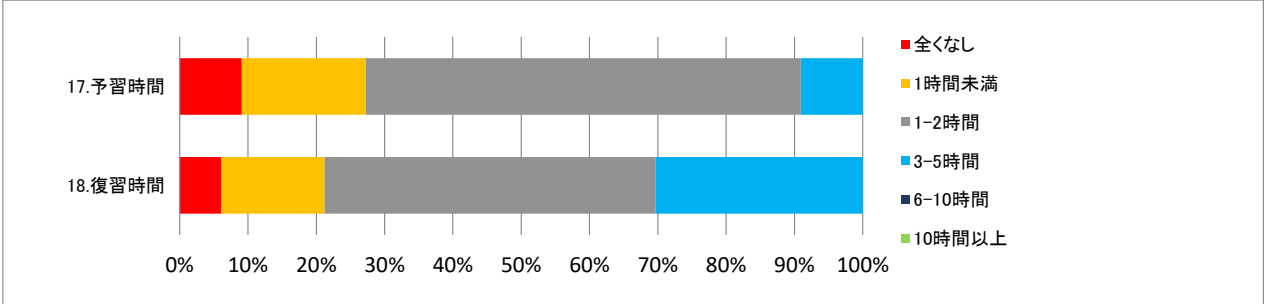
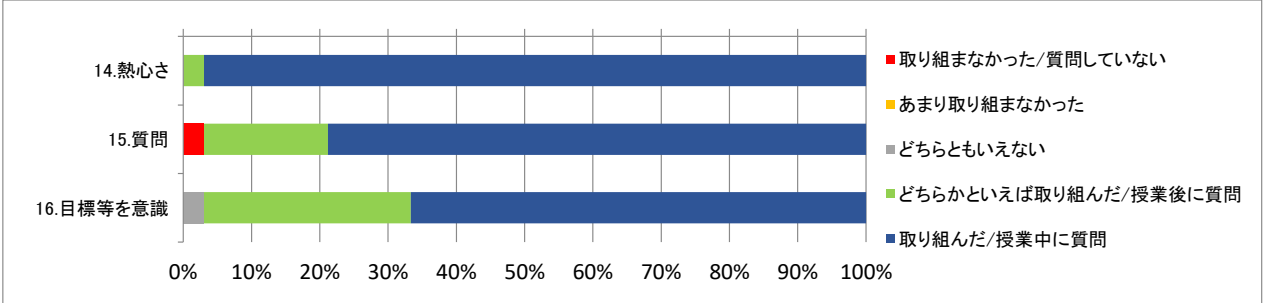
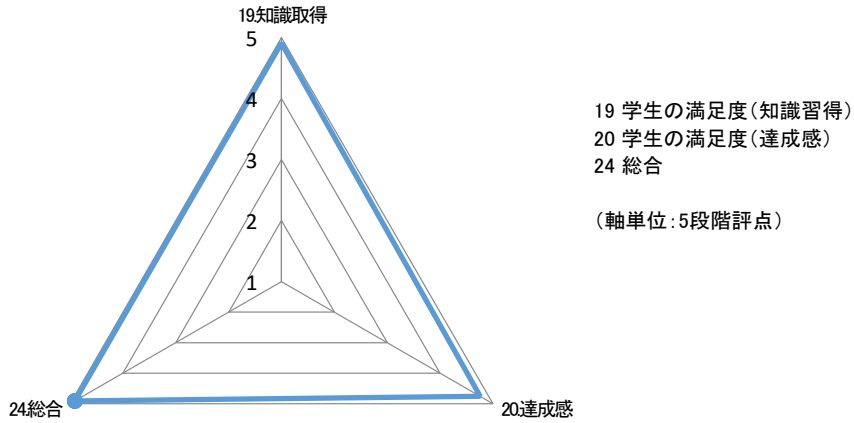
科目名 73. 臨床実習 I (基礎) (PT)

担当教員 鳥居 昭久・加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・清島 大資・白井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠

専攻・配当年次 PT 1年

回答者数 33 名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。

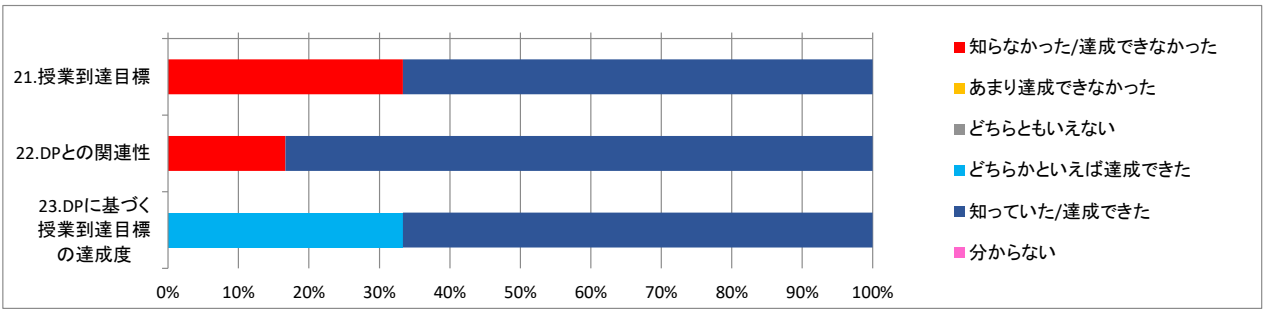
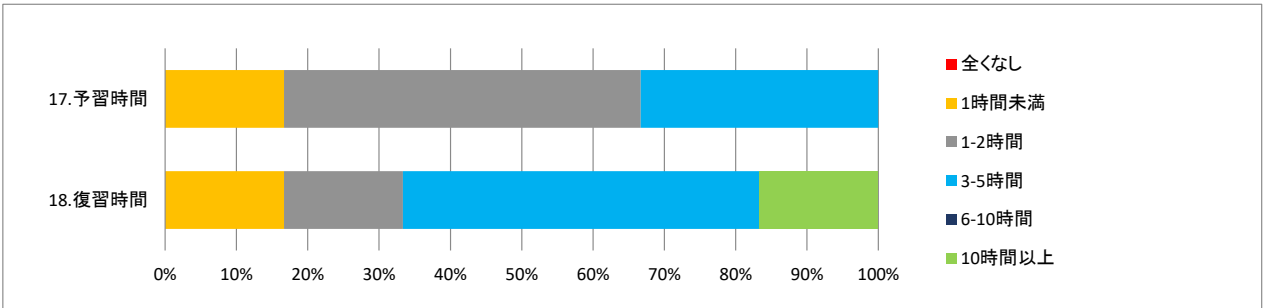
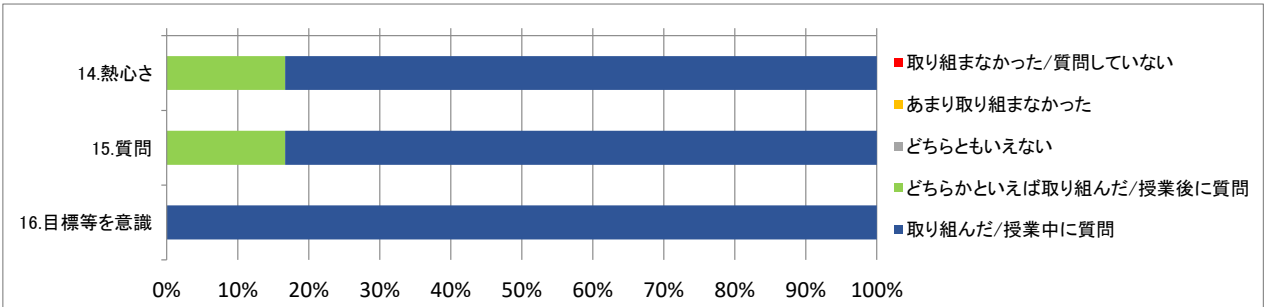
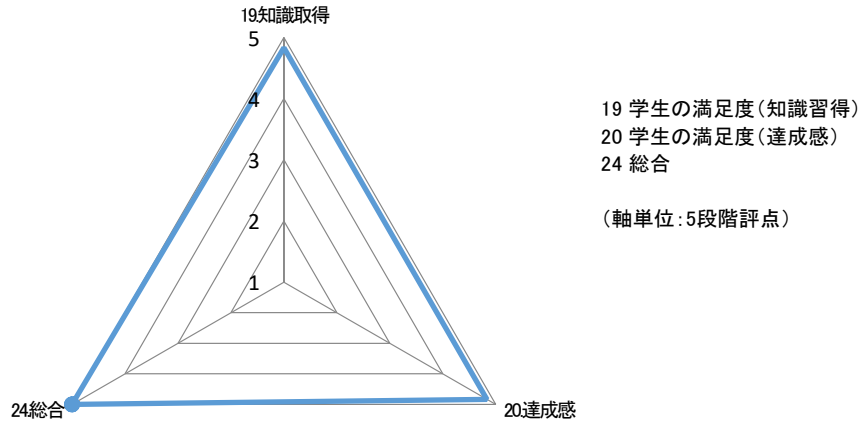


科目名 74. 臨床実習Ⅱ（評価）（PT）

担当教員 鳥居 昭久・加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・清島 大資・白井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠

専攻・配当年次 PT 3年 回答者数 6名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。

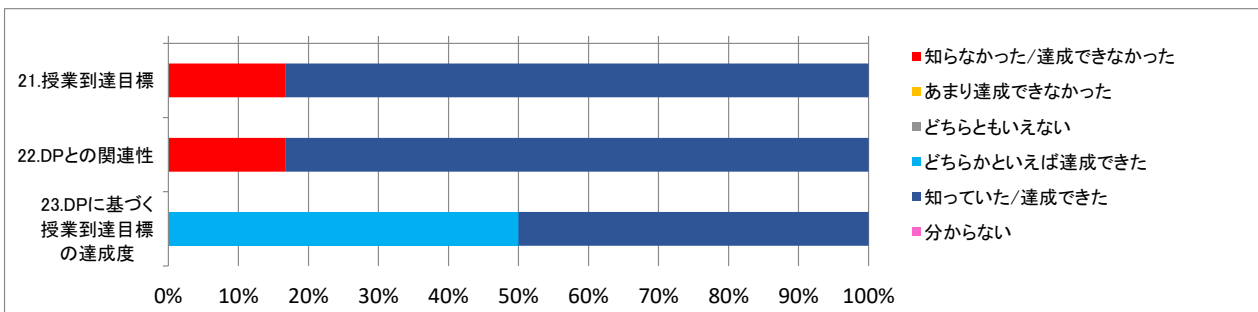
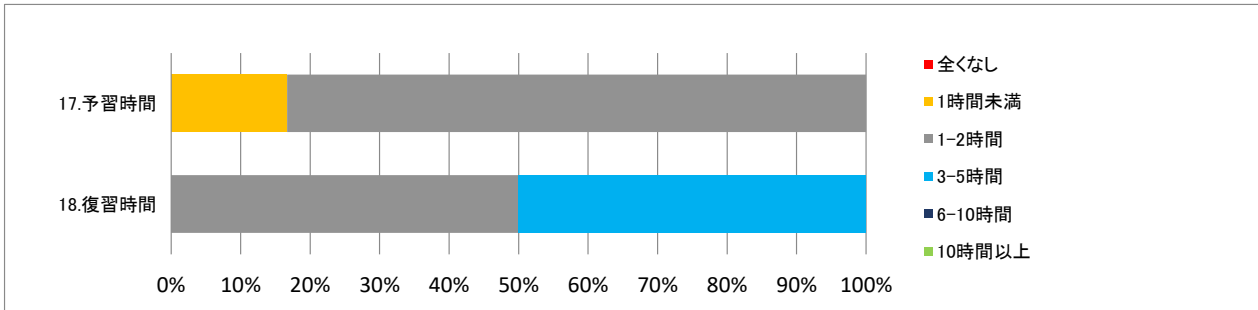
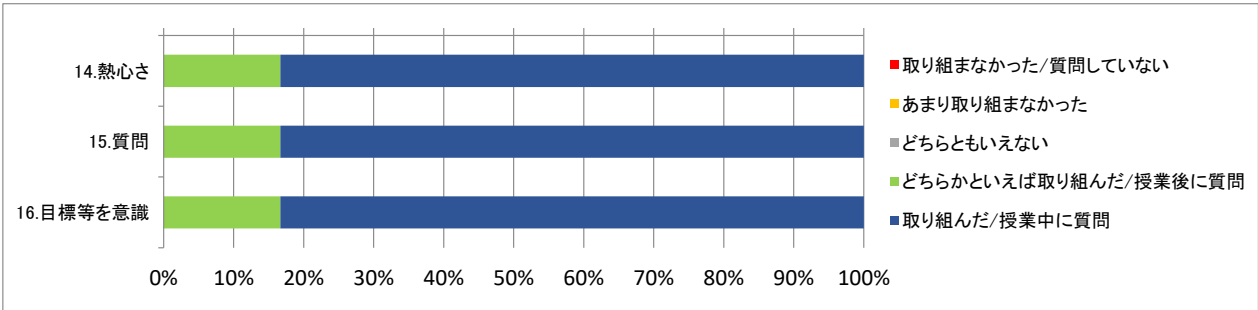
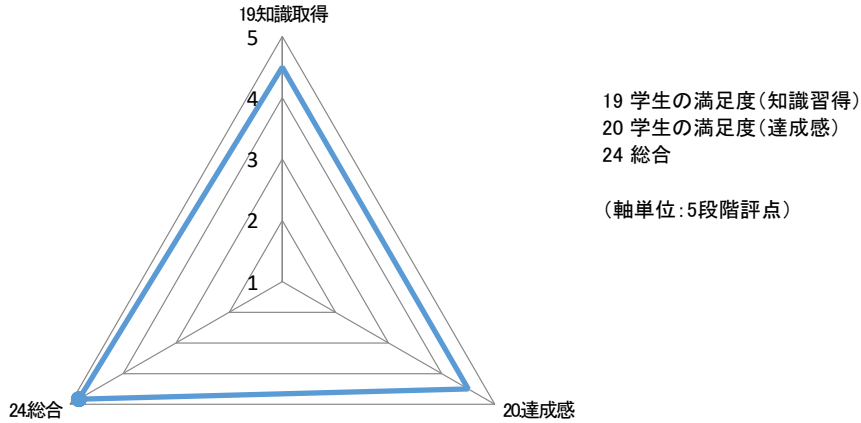


科目名 75. 臨床実習Ⅲ（総合1）(PT)

担当教員 鳥居 昭久・加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・清島 大資・白井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠

専攻・配当年次 PT 3年 回答者数 6名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



科目名

76. 臨床実習Ⅳ（総合2）(PT)

担当教員

鳥居 昭久・加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・
清島 大資・白井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠

専攻・配当年次

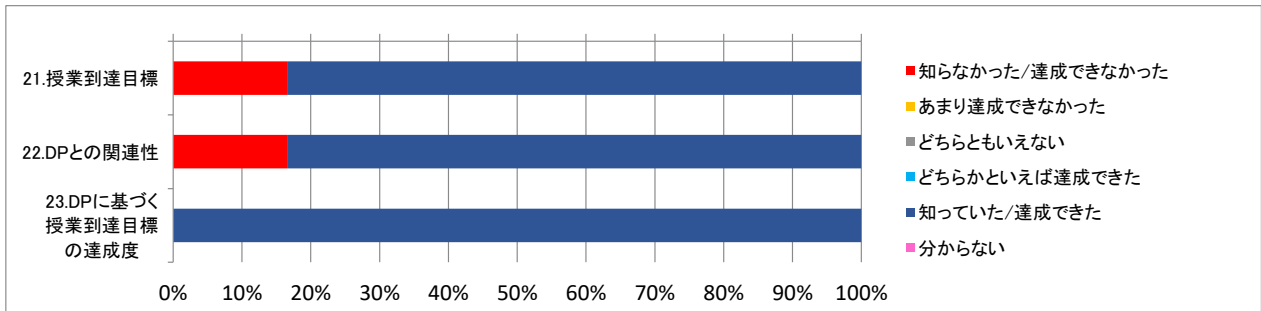
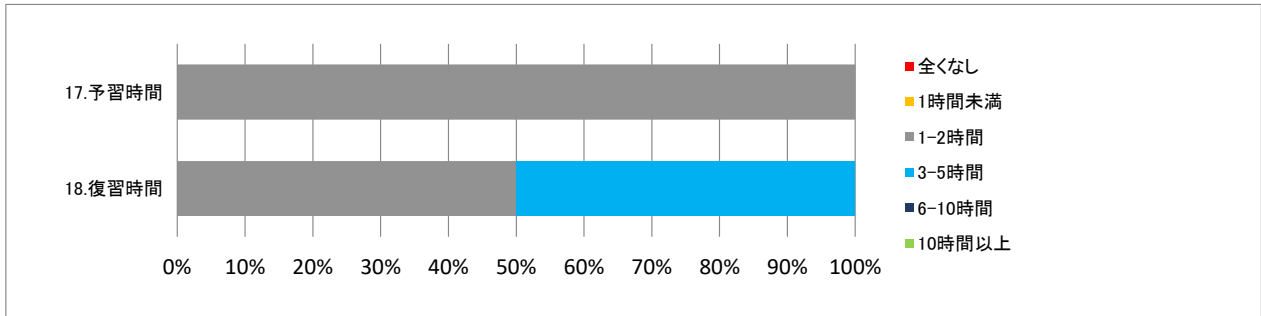
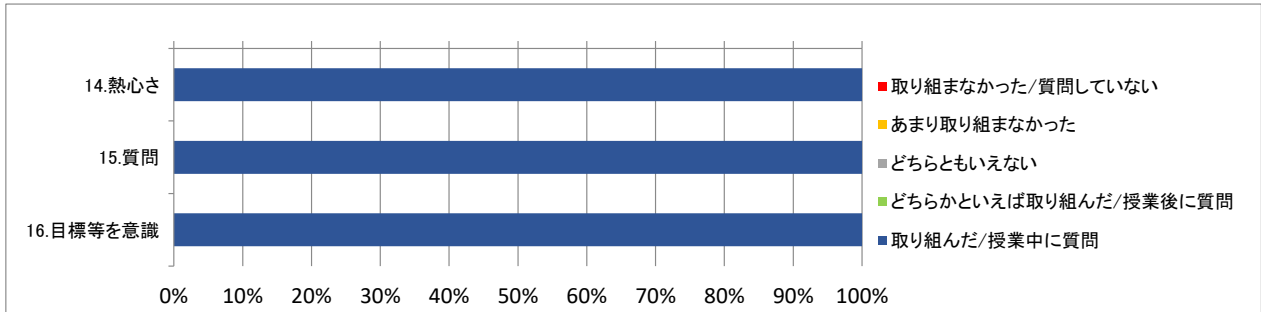
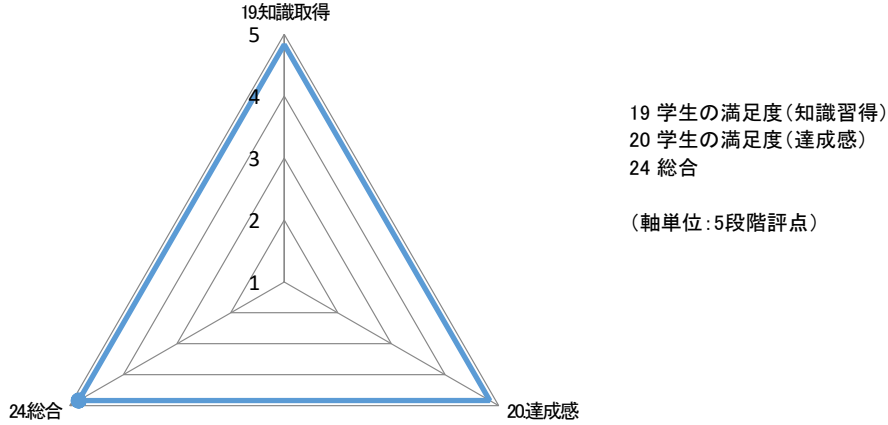
PT 3年

回答者数

6名

◆集計データ結果について

※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。

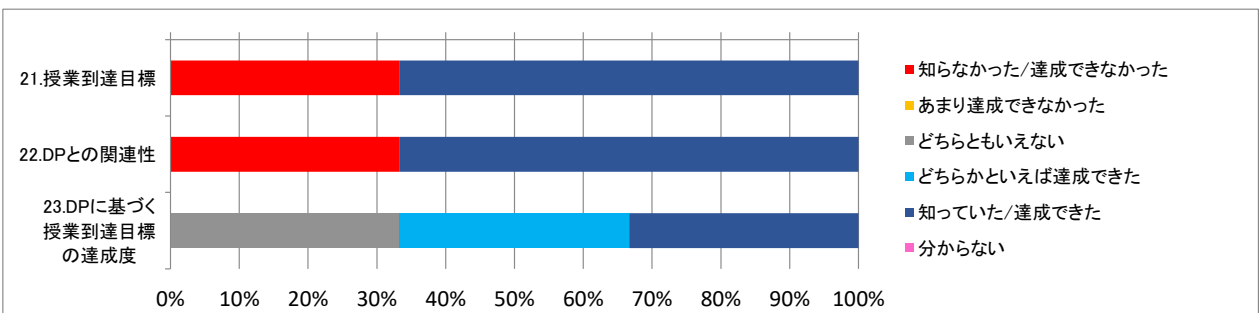
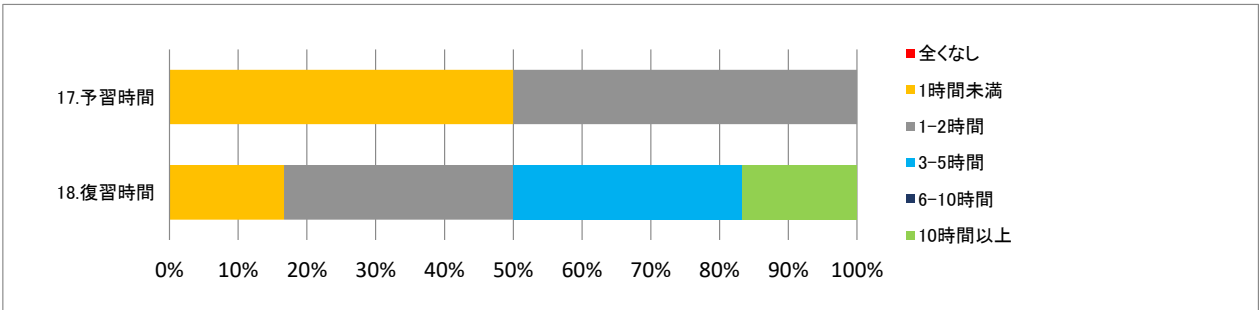
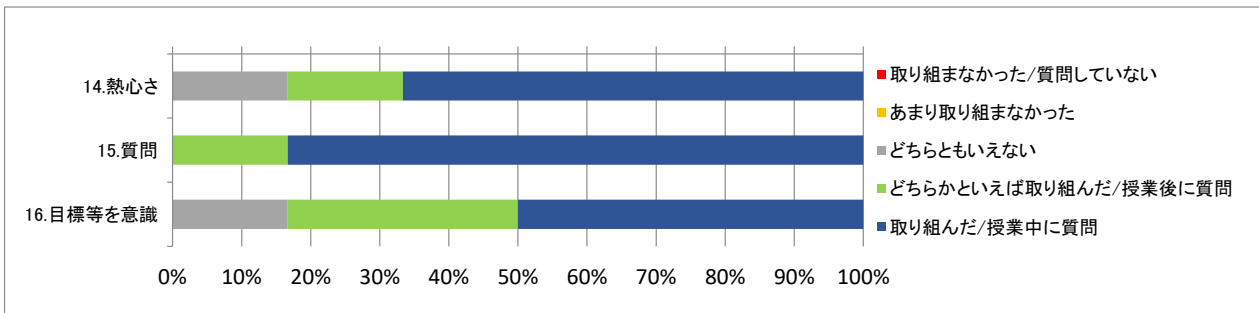
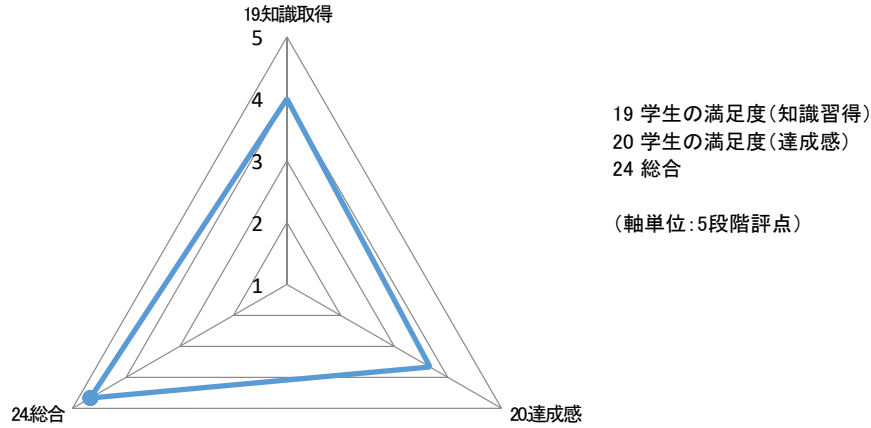


科目名 77. 卒業研究 (PT)

担当教員 加藤 真弓・宮津 真寿美・木村 菜穂子・松村 仁実・清島 大資・
 臼井 晴信・山田 南欧美・齊藤 誠

専攻・配当年次 PT 3年 回答者数 6名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。

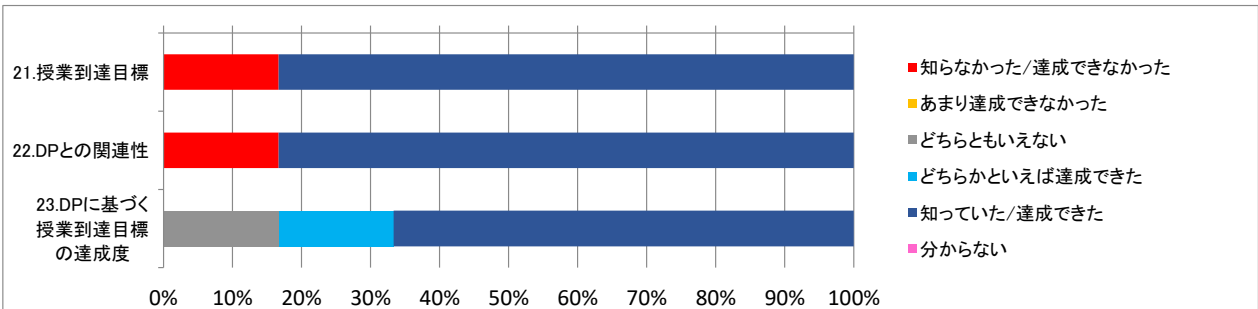
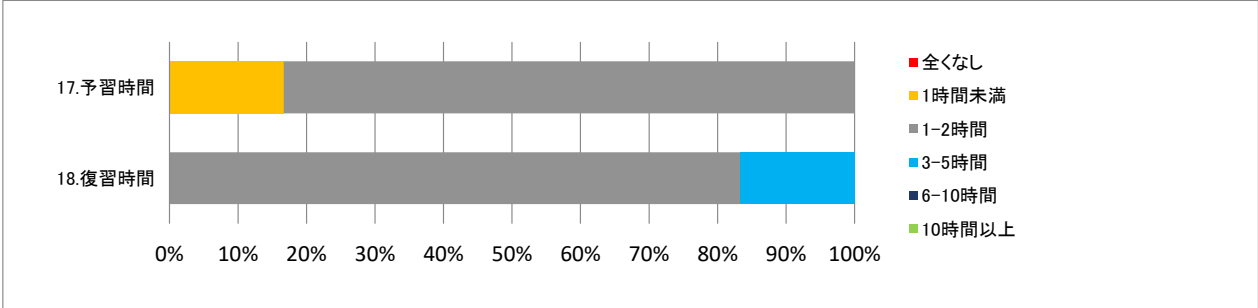
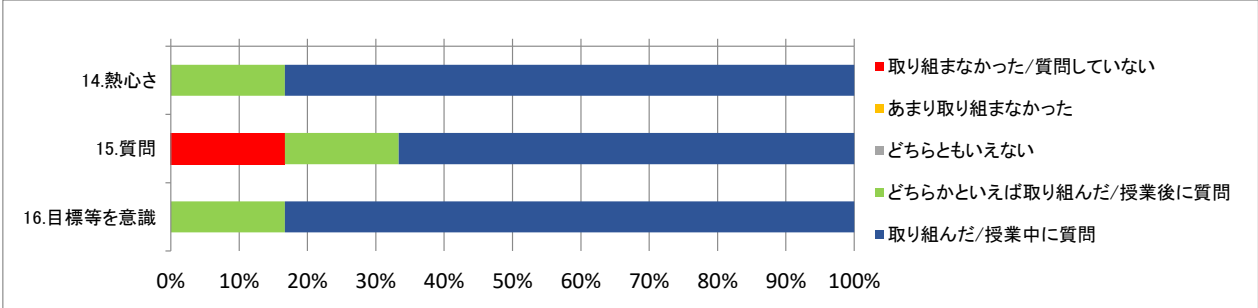
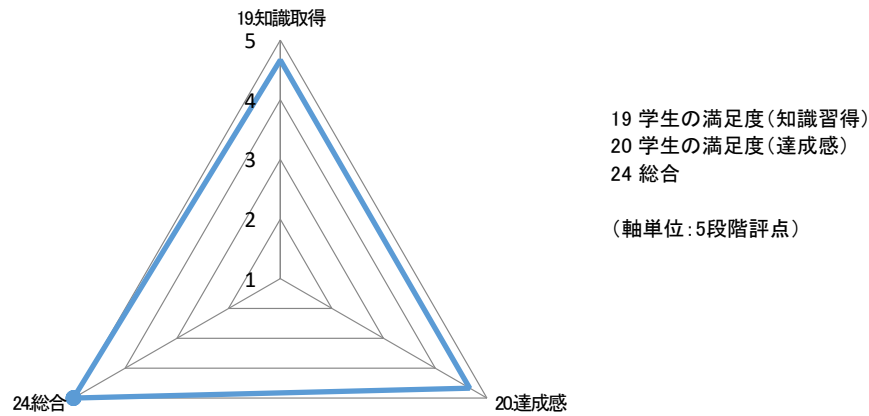


科目名 78. 総合演習 (PT)

担当教員 理学療法学専攻・作業療法学専攻全教員

専攻・配当年次 PT 3年 回答者数 6名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



◆集計データ結果について

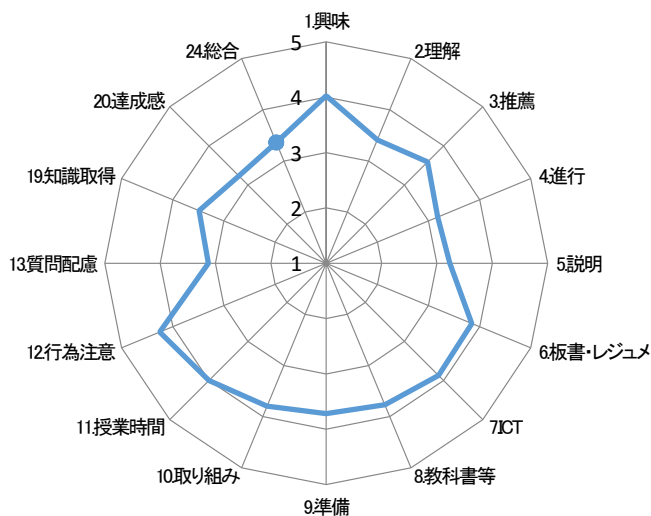
「興味」「授業時間」「行為注意」は4点台であったものの、それ以外はおおむね3点台後半となった。特に「進行」「質問配慮」は3.2点であり、低い評価となった。これは、自由記載にもあるとおり、授業全体の時間配分が不適切であり、後半にしわ寄せがいったことと、そのため、質問時間を設けることができなくなってしまったためであると考えられる。

学生の自宅学習に関しては、予習は1時間未満の者が80%、全くしてこないものが15%であり、復習に関しては1時間未満の者が約15%、全くしていないものが35%であり、時間を割いていないことが明らかとなった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

時間配分に関して、適切でない・見直してほしいという意見が複数見られた。この理由は上述した通りである。

また授業方法として教科書を読むだけでは頭に入らなかったとの意見も複数見られた。補助教材としての穴埋め式プリントについては、ポイントがまとめてあって見やすかったという記載が複数見られたが、分かりにくかったという記載も少数見られた。説明に関しては早口であったという記載も見られたが、分かりやすかったとの記載も複数見られた。これらについては、学生のこの科目への取り組み方を踏まえて実施した結果であると考えられる。詳しくは後述する。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

授業の時間配分についてはオムニバス形式であるため、分担を再考することも可能であろうと思われる。しかし、教えるべき内容が多岐に亘り、1年生に作業療法士を目指すために知っておいて欲しい内容を伝えるためには、ある程度の時間も必要となる。授業をスムーズに進めるためには、最低でも教科書の該当箇所を読んでおいてもらいたい。講義の初めに予習状況を確認したところ、ほとんど全ての学生が教科書を読んできていなかった。そのため、まず教科書に書いてあることを理解してもらう必要があると考えた結果である。臨床の話など伝えたいことは多くあるものの、最低限伝えるべきことを伝えるためには、予習復習をきちんとしてもらうことが守られなければ実現しない。自宅学習時間については、他の科目との兼ね合いもあると思われるが、この科目に関してもやらなければならないような工夫を検討する必要があると思われるが、やはり意識の問題であると考えられる。

科目名	80. 作業療法研究法
-----	-------------

担当教員	高田 政夫 ・ 山下 英美 ・ 横山 剛 ・ 加藤 真夕美 ・ 清水 一輝 ・ 齊藤 寛子		
専攻・配当年次	OT 2年	回答者数	26 名

◆集計データ結果について

今回教授会とのバッティングがあり4月より7月までの計4回について、授業全体の四分の一を授業分担者にお任せすることとなった。しかし、評点4から5の範囲でおおむね良い結果であったことは授業目標を達成できたのではないだろうか。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「予定や内容の説明が理解できない場合が多かった」などの指摘にもあるように、会議と重なったため授業分担者との授業振り分けにあたり詳細な情報交換をすべきであった。当然相手が理解しているであろうと資料や授業ノートのみでの情報交換を前段階で処理し、判らないことがあったらとのコメント依頼のみでは一方的であったと反省している。授業の進め方、学生への伝達内容について詳細に説明をすべきであったと反省している。

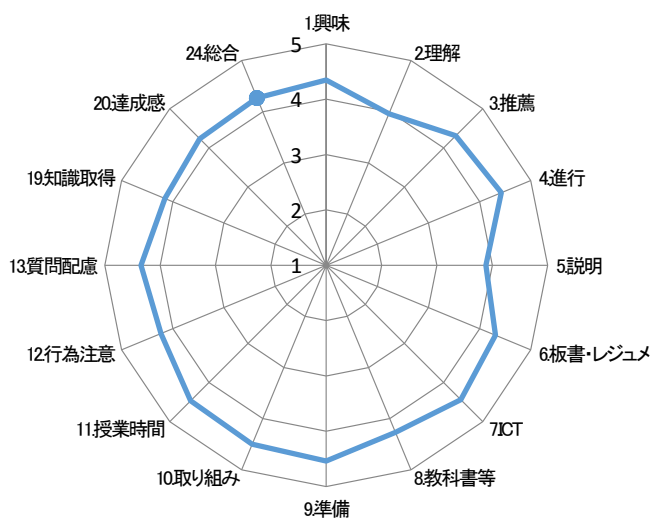
一方で「3年生での本格的な研究の前に先行文献について調べることで、より知識が深まり、いい経験になった。」「文献紹介発表では、みんなに伝えるという難しさを学んだ。どのように書いたら伝わりやすいのか、どのように発表したら時間内に発表出来るのか、など考えながら一生懸命頑張ることが出来た。」など、教員の授業構成の意図をくみ取り、自律的に学習成果を実感できたという意見も複数挙げられた。

◆今後の改善に向けて

先ず第一に、来年度は授業以外の教育研究及び会議等と重複することの無いようにしっかり調整の上授業計画を組みたい。

次に、2020年度より新カリキュラムがスタートする。新カリでは作業療法研究法の半分の時間に統計学が組み込まれている。15時間で7.5回で消化できる統計学についての準備段階として統計の基礎的な考え方を組み込みたいと考えている。

更には学生の理解しやすい資料作りと話し方を心掛けるよう努めたく考えている。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名	81. 臨床運動学(OT)
-----	---------------

担当教員 加藤 真夕美

専攻・配当年次 OT 2年

回答者数 22名

◆集計データ結果について

すべての項目で平均4.5点以上であり、バランスのとれた評価であった。本講義の工夫としては例年通り①教科書をしっかり読む習慣をつけるために、教科書のガイドとなるようなレジュメを作成すること ②体験学習を多く取り入れて「体で理解する」仕掛けを用意すること ③学生の声を授業中に積極的に拾うこと の3点である。②について、本授業は講義という形式の授業であるが、疑似体験しながらそれに関する知識をその都度入れていくことにより、共感的に対象者を理解することを推進している。

学生自身の取り組み姿勢としては「熱心に取り組んだ」「どちらかといえば熱心に取り組んだ」(14)と答えた学生が100%であり、学生の意欲を引き出すような授業を展開できていたと考えている。一方予習・復習時間(17・18)は「まったくなし」と答えた学生が3割弱おり、昨年度より高い割合であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業の方法については、「それぞれの疾患の特徴を自分がすることでイメージしやすくてとても分かりやすかった」「実際に障害を呈した方の疑似体験をできたため、教科書だけでない深い理解ができました」「動作分析する際の大切なことをまなべてよかったです」と、講義のみでなく疑似体験を用いたことにより理解が深まったとの意見が多く得られた。

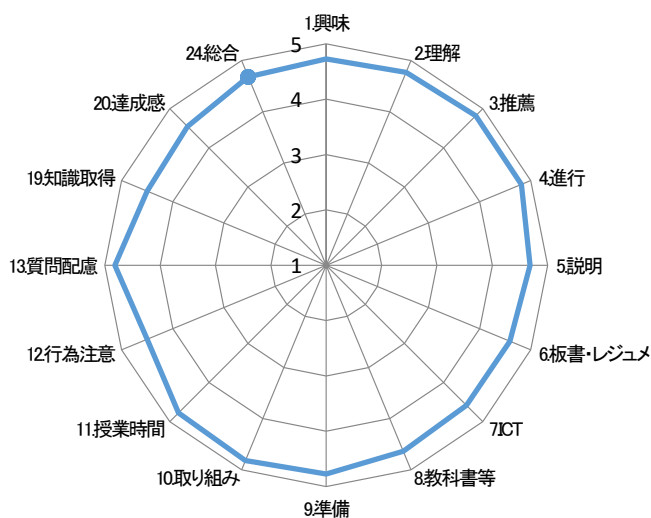
また教員の対応については「課題に対してのフィードバックが丁寧で勉強になった。授業の内容も興味深いもので、臨床で役立つ知識が身についたと思う」「身近なものに例えてくれるのがわかりやすかったです」「動作分析など、プリントを使って学べたことが後から見直しができ、良かった」など、説明の仕方やプリントの工夫についての肯定的な意見が挙げられた。

今年度は、否定的な意見は挙げられなかった。

◆今後の改善に向けて

昨年度の授業評価では、「もう少し授業時間数がほしい」「杖や車椅子の数が少ないと感じた」という授業の枠組みや物理的環境に関する意見が1件ずつ、また「腰が痛くなり満足に行えなかった」との意見が1件挙げられていた。しかし今年度は否定的な意見が挙げられなかった。学生ごとに配慮しているつもりではあるが、引き続きすべての学生に目を届けられるよう工夫を重ねたい。

この授業の役割として、1年次の運動学(総論・上肢・下肢)がいかに臨床活動に結びついているかを理解すること、臨床実習において求められる「動作分析」の基礎を押さえること、臨床実習の場で実践できるよう最低限の移動介助技術を身につけること、の3点を意識している。そのためには授業外での予習・復習時間をいかに確保するよう促せるか、が次年度も同様の課題である。毎週授業内で提示している課題のチェック方法を見直し、学生が「自分はよく勉強している」と達成感を抱くことができるような支援方法を検討していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

82. 基礎作業学

担当教員

加藤 真夕美

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

35名

◆集計データ結果について

すべての平均が4.2以上の、バランスの取れた評価であった。学生の取り組みについては「どちらかといえば取り組んだ」「取り組んだ」を合わせた数値が「目標等を意識」「質問」ともに60%、「熱心さ」で90%弱であり、意欲をもって授業に取り組んだ様子が伺える。予習・復習時間は「まったくなし」と「2時間未満」がそれぞれ半数ずつであり、自習の有無がはっきりと二分された。

◆学生の自由記載の内容を検査した結果

内容については、「演習・実技を取り入れた授業」「文献検索」が「楽しかった」あるいは「理解しながら学べた」との意見が多数であった。演習や文献検索により「どのようなアクティビティをすればどのような結果が得られるのかわかった」「実際どのような患者さんに使うのかが分かった」「段々と目的の資料を見つけることがうまくなった」「作業療法士としての考え方を学ぶ良い機会だった」と将来の臨床像に繋がる成果が得られた学生がいたようである。

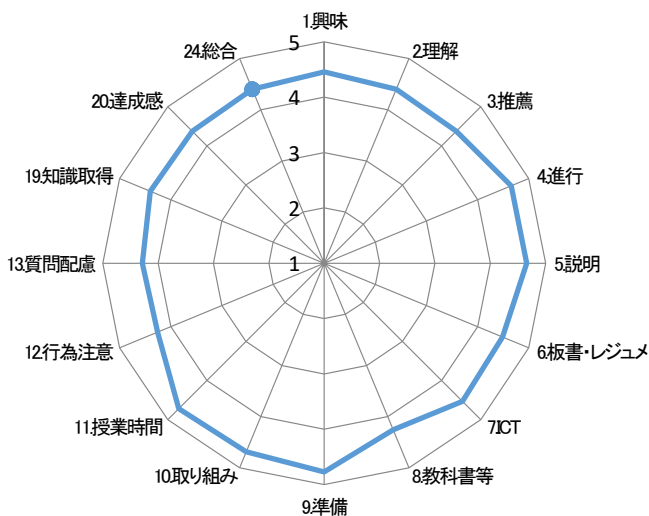
また教員の対応については「遠慮なく質問できる環境だった」「講義中に教室を回ってくれたのですぐ質問できた」「生徒に何をすべきかを明確に指示してくれた」「レジュメで重要な部分を教えて頂けた」と好意的な反応が挙げられた。

特に否定的な意見は挙げられなかった。

◆今後の改善に向けて

本科目は、作業療法士として作業を治療にどのように用いるのかという臨床的思考を育成する「習い始め」の講義である。作業とは何か、作業はどのように分類されるのかなどを、演習を通して、学生自身はどのように作業的な生活を送っているのかを振り返りながら学ぶことを主とするように組み立てている。文献検索を通して、作業療法の実践に早いうちから触れてもらうこともねらいとしている。

作業療法を目指す学生が作業療法に対する興味を高め、これから3年間の学びを楽しんでいけるよう、演習の内容などを更に検討したい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

83. 基礎作業学実習

担当教員

横山 剛 ・ 森下 章生 ・ 後藤 潤子

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

22名

◆集計データ結果について

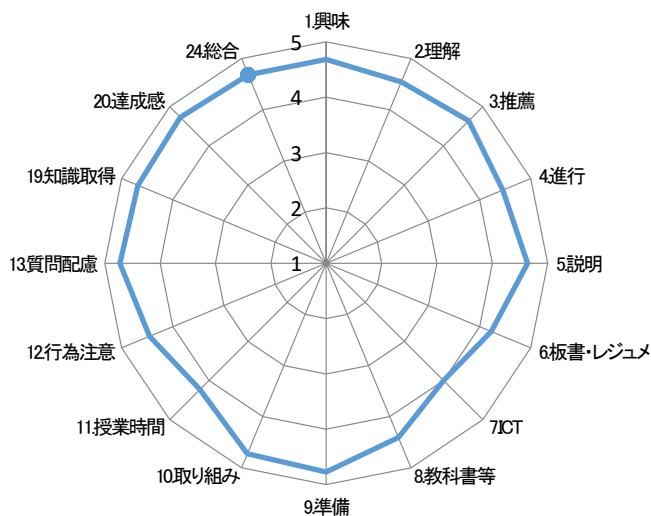
一部を除き4～5点の間の点数であり、おおむね授業は好評であったと考えられる。予習、復習の項目がおよそ2点ほどであるが、実習科目であり、その場での質問なども多く授業時間内で解決できたのであろうと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

国家試験との関連での講義も行ったので将来を見越しながら、楽しく学べたのではないかと思う。高圧的な指導、という記載があったが、楽しさゆえに危険物(例えばのこぎりや、鉋など)を扱う際に不注意と思われる言動が見られたため、厳しく注意したのだが、そのことを言っていると思われる。その危険物をも扱っている意識を常に持ち、その上での有意義な(楽しさを含めて)学習を継続できるように今後も指導していきたいと考える。スペース的に現在の基礎作業学実習室のみの実習が困難であるため、学生が作業をすることにおいて無理を強いてしまったかもしれない。

◆今後の改善に向けて

基礎作業学実習室の確保について検討する。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

84. 作業療法評価法

担当教員

清水 一輝

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

21名

◆集計データ結果について

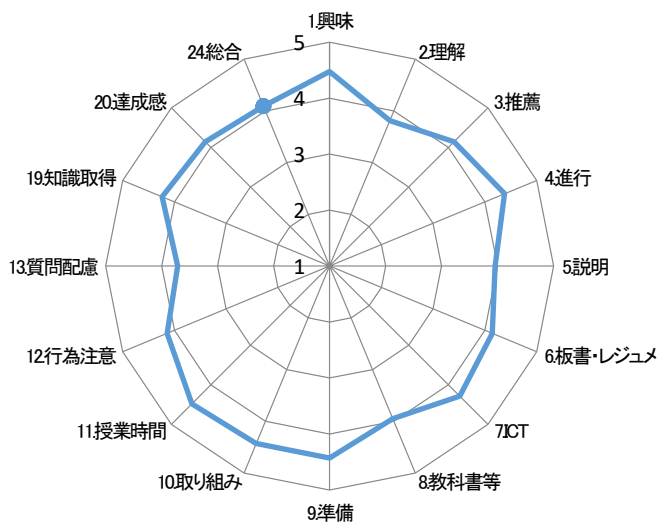
概ね4.0以上の結果となっている。その中でも、理解、説明が4.0を下回る結果となっている。質問配慮も4点以下となっているが、質問していない学生が約半数を占めていた。授業時間内の質疑応答の時間を十分に確保し、学生の理解を深められるような授業の構成にしていく必要があると思われる。8割以上の学生が予習、復習に取り組んでいた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見では、「スライドが分かりやすかった」「小テストの内容を解説するため内容が理解しやすかった」という意見があり、授業開始時に小テストを行い、その学習をする方法は学生の理解に繋がりやすかった可能性がある。一方で、「最後にまとめの授業をして欲しかった」という意見もあり、授業のポイントが十分に整理されていなかった可能性がある。また、「先生の遅刻が気になる」という意見もあり、他の学年の対応等で致し方ない部分はあったが、以後注意していきたい。

◆今後の改善に向けて

授業開始時に小テストを行い、事前に学習をする形は今後も継続する。振り返りシートを配布し、それに答える形で質問に答えていたが、授業時間内で双方向でのやりとりができるような構成にしていきたい。また、科目の概要や到達目標などはその都度確認しながら、学生に意識しながら講義を受けられるような工夫も取り入れていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

85. 作業療法評価法実習

担当教員

横山 剛 ・ 松田 裕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

29 名

◆集計データ結果について

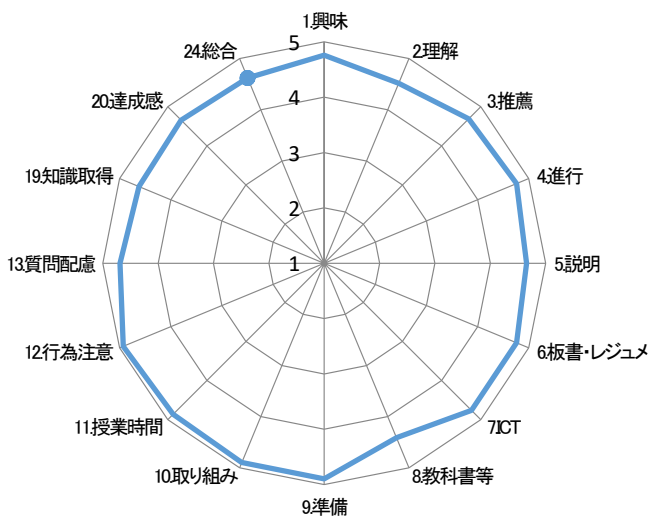
どの質問項目もおおむね平均値は高く、本授業はシラバスの内容通りの目標は達成できたと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本授業では、授業内に行った学生同士での面談の内容を中心に、授業時間外でフィードバックを行った。一人当たり15分程度を目安にフィードバックを行ったが、教員のフィードバックが指示的とならず、学生自身の考えを引き出ししていくため、想定通りの時間で終了しないことが多々あったため、自由記載の意見にあったような「フィードバックの時間を守って欲しい」といった意見が出たと思われる。

◆今後の改善に向けて

教員の業務負担としても、授業開講時間帯は学生と教員の時間が合わないため授業時間後(16時半以降)の対応となる点や2名の教員で約30名の学生を一人ずつフィードバックするための時間的拘束(毎週15分×15=約4時間)などの問題がある。しかし、自由記載に多くあった意見のようにフィードバックの中で青年期の課題である自我同一性を獲得していくことが考えられるため、上記の負担とフィードバックの効果を踏まえ検討していく必要がある。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

すべての平均が4.5以上であり、バランスの取れた評価であった。学生の意識については「取り組んだ」「どちらかといえば取り組んだ」の合計で、「目標等を意識」は85%、「質問」は50%、「熱心さ」は95%であり、おおむね学生の授業への取り組み姿勢は意欲的であったようである。

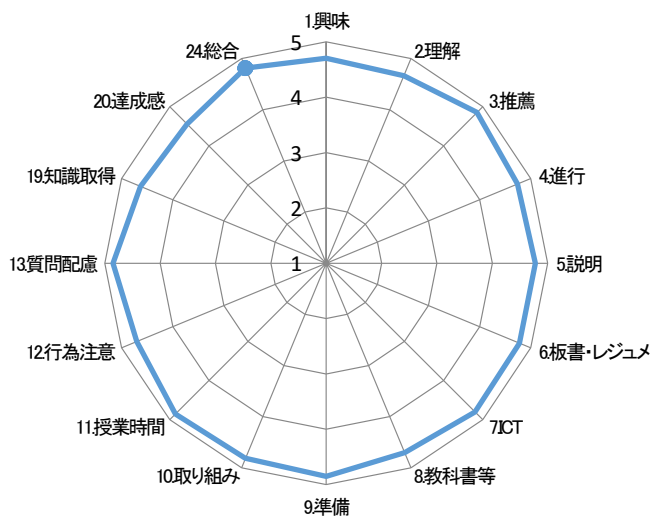
一方、学生の予習・復習については「3-5時間」「1-2時間」「1時間未満」を合わせた割合が、復習で80%、予習で65%であった。ほぼ毎回復習課題を出し、小テストを行っており、全員クリアしたはずであるが、復習時間が「全くなし」の学生が20%弱であった。授業評価への記載方法に、学生の認識のずれがあるようである。

◆学生の自由記載の内容を検査した結果

内容については「解剖学で全く理解できなかった錐体路の説明がわかりやすく、理解できた」「レポートは大変だったが、実際の場面で考えることができ、知識に繋がった」「毎回課題や小テストがあり緊張感をもって授業に取り組めた」「模擬体験をすることで一層理解が深まった」「小テストでは良い点数を取るために予習を欠かさず行った」など、学生の成果につながったようである。

教員の対応については、「説明がわかりやすくしっかり理解することができた」「プリントや黒板に絵を貼ったりすることで見やすく理解できた」「質問にも対応してもらえた」「一つ一つ丁寧に説明してくれた」と、教員の努力は伝わったようである。

一方「時間のなかであの進み具合で少し早かったのでまだ理解不足などところがある」との不安な点が挙げられた。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

本授業は、身体障害領域の作業療法を学ぶ、入門編の位置づけである。1年次に学んだ解剖・生理学や運動学の知識が臨床でどのように繋がっていくかを学生は理解する必要があり、特に脳神経系に関する復習には時間を割いた。図や別途資料を用意したり、演習を交えたり、課題の中で作業療法との繋がりを考えてもらったり、小テストで基礎知識を復習したり、様々な方法を駆使して学生理解の促進を試みている。課題へのコメントには、学生の知的好奇心や向学心を引き出すようなことを加えるようにも心掛けた。

一方、15時間(8コマ)という限られた時間数の中で、非常に多くのことを習得しなければならず、1單元ごとの解説ペースを速める必要がある。年々学生の理解度に幅が出てきており、中間層より下の学生をメインターゲットに、徐々に内容量や教え方を工夫してきているが、上記のような「進み方が早く理解不足」という学生が受講していることも現実である。

次年度入学生以降はカリキュラム改訂の影響で、本授業数の時間数が増える予定であるため、内容や教授法を更に工夫していきたい。

科目名

87. 精神障害作業評価学

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

24名

◆集計データ結果について

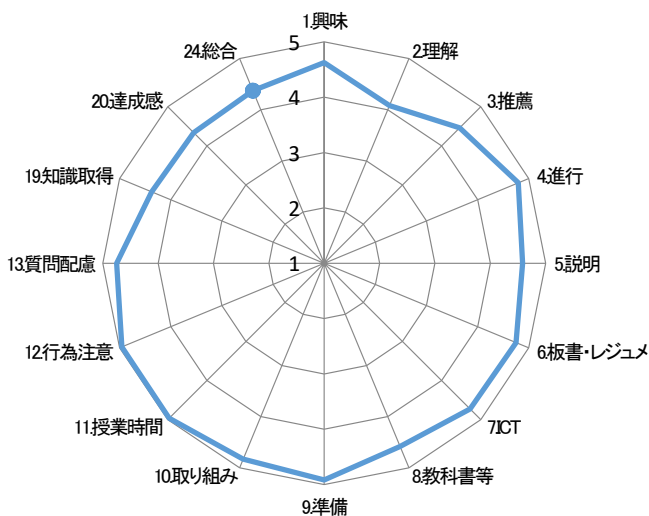
設問項目17, 18以外は全て4点台の結果であった。レーダーチャートはバランスが良いものとなっていると思われる。設問17, 18は学生自身の学習態度を問うものである。予習、復習の時間を全く設けていない学生がいたことは驚きである。事前に資料を配布し、授業時間内で質問票を書いてもらうスタイルの授業を行ったきた。質問することが難しいといった学生の声が授業中に聞かれたのであったが、それが予習、復習を全くしていない学生かどうかまでは分からないが、せめて分かろうとする努力はして欲しいと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

質問をすることの困難さを記載する学生が多かった。理解することとは、そもそも理解していないことをまず知ることであると考えて授業の中でも説明してきた。今回このような感想が記載されてことは良いことであると考えている。めげずに頑張った、といった記載もあり、今後もそのように学習に励んで欲しいと願っている。

◆今後の改善に向けて

授業時間外での学習について早急な検討が必要であると考えている。例えば質問票を記載してその回の授業に臨むなどの検討をしていく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

◆集計データ結果について

説明などの話している内容が分かりにくい結果がでており、その結果授業内容についての理解が深まらず、学生にとって達成感が得られなかったと解釈した。

相手である学生の理解があつての授業である。学生の立場に立って述べているつもりであるが、学生の理解度迄確認しながら話すことが大切であると反省している。

学生に対しては、心ここに無い終了時よりも始業時に質問時間を設けたらよいのではないかと考え実施した。しかし、前の時間の内容を記憶してないためか質問が少なかつた印象を持っている。判らないところが分からないな為だろうか、判らないことを積極的に教員を捕まえて質問をしてもらいたいものである。

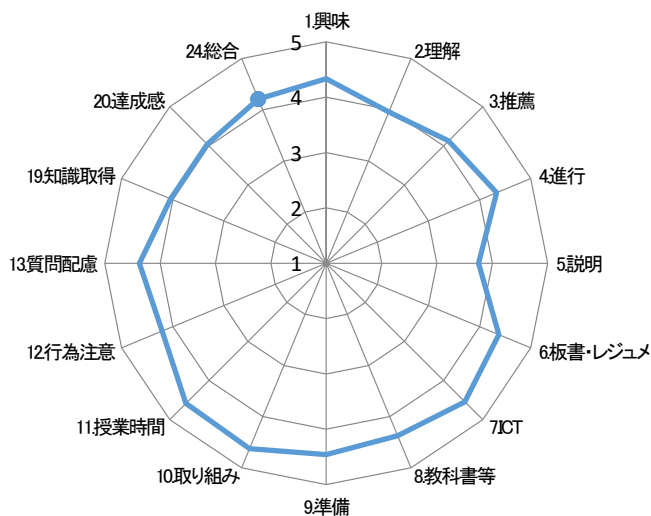
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

集計データ結果として話していることが分かりにくいとの意見が何件か見られる。今年度は話す内容を資料でも提供するように努めたところ、よく理解できたとのコメントも見られた。

今年度もVTRによる説明があり判りやすかつたとの意見が多くあつた。よりよいVTR教材を作製提供できればと考えているが、当面既成の教材を編集するかストップモーションの書き込みで対応できればと考えている。

◆今後の改善に向けて

勉学のための資料情報提供を視覚・聴覚・言語等を交えて提供しているが、このうち学生の学習にとって良かったものは、言葉による説明以外の視覚教材としてのVTR、視覚的印刷資料、スライドである。授業形態としての方策は、小テストの実施と体験実習や並行して実施されている保育園事業となっている。これらを更に強化できる授業内容にすべきと考えているところである。具体的には今後の課題としたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

89. 作業治療学理論

担当教員

山下 英美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

23名

◆集計データ結果について

3点台後半から4点台後半と、バランスのあまりよくない結果となった。

「進行」4.3、「説明」4.4、「準備」4.6、「取り組み」4.7という評価であったが、学生自身の「興味」3.9、「理解」3.7、「知識習得」3.8、「達成感」3.8という結果となった。

学習態度については7割が質問をしなかった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

まず、「教科書の内容が難しかった」「教科書が英語を日本語に訳したもののなので文章が分かりにくい部分があった」というような記載が多く見られた。

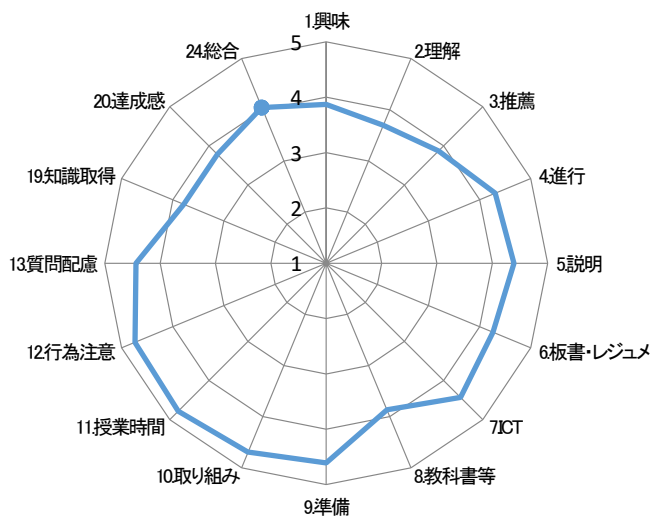
説明については「わかりやすかった」との記載があったものの「理解しづらかった」との記載も見られた。

グループワークについては「人と意見を交換することでわかりやすかった」「学生間で授業プリントを作成し、授業内で説明し合ったのが良かった」との記載が複数見られ「他の理論についてはレジュメを配って頂けたので良かったです」という記載も複数見られた。

また「授業時間内では理解できなかった部分があったので、もう一度確認しようと思う」「今後の臨床実習やOTになってからの臨床の場に生かしていきたいです」との記載もあった。

◆今後の改善に向けて

理論を学ぶという科目の性質上、理解しにくい部分があることは否めないと考えます。その中で、どのように理解を深めてもらうかについて、最低でも1つの興味のある理論については自身でしっかり理解してもらおうというかたちで進めている。翻訳されたテキストを用いることは避けられず、学ぶべき内容が多く時間数は多く取れないため、現在の方法がbetterであると考えている。その中で、できるだけ分かりやすく理解を深めてもらうために、発表時のコメントの際、具体的な例を用いるなど、今後も工夫していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

90. 作業療法治療学実習

担当教員

山下 英美 ・ 加藤 真夕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

22名

◆集計データ結果について

全ての項目が4.4～4.7の間となり、バランスよく良い結果を得ることができた。

学生が「興味(4.7)」を持って「取り組み(4.7)」, 教員が「説明(4.7)」をわかりやすいよう心掛け、「質問配慮(4.6)」も行ったことにより、学生の「理解(4.7)」を深め「知識獲得(4.5)」「達成感(4.5)」に繋がったと考える。

学生の受講態度についても、全員が熱心にまたはどちらかと言えば熱心に取り組んだと回答し、うち7割が熱心に取り組んだと答えた。また質問したと答えた者は9割に上った。

◆学生の自由記載の内容を検査した結果

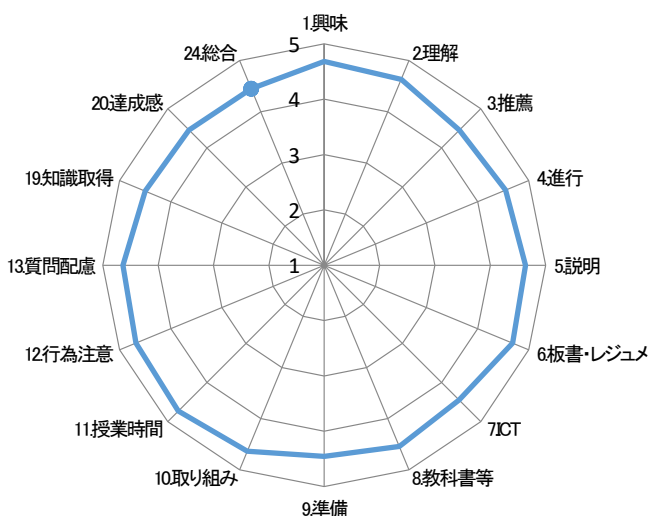
全体に肯定的な記載が多く、「臨床実習に向けた実践的な内容で良かった」「症例を想定して練習できてよかった」「どの授業と比べても一番身になった」というような、臨床実習を見据えた授業目的が、達成感に直結したと思われる記載が見られた。また、臨床実習を経験した3年生からのアドバイスを聞く内容に関して「ありがたかった」というような記載が複数見られた。OSCE課題に取り組んだことにより「復習ができた」「評価の手順を学ぶことができた」「現状を知れた」「自分の弱点を知れた」といった記載に加え、ペアで練習を行ったことにより「友人同士で考えることができた」「自分の意見をもち取り組むことができた」というような学習効果が得られた。さらに「何を学びたいのか自分について振り返る時間をとることができて良かった」との記載もあった。その一方、「もう少し時間が欲しかった」「前期に入れると余裕を持ち実習に臨めると思う」との記載もあった。

◆今後の改善に向けて

授業の時間数や配置については、全体のバランスもあるため、今後の検討課題であろう。

臨床実習に向けた位置づけで、先輩の経験談を聞き、評価技術に関してOSCEを取り入れて再学習するというこの科目は、学生にとって目的意識を持ちやすく、熱心に取り組むことが期待できる科目であると思われる。

そのモチベーションを上手く活かし、学習効果を上げる工夫を、これからも続けていきたいと考える。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名	91. 身体障害作業治療学 I
-----	-----------------

担当教員	草川 裕也
------	-------

専攻・配当年次	OT 2年	回答者数	39 名
---------	-------	------	------

◆集計データ結果について

「行為注意」を除き、平均4.6以上であり、総合的に良好な結果となった。「行為注意」については自由記述に記載はなかったが、私語など授業を妨げる行為に対して、適切な対応をしていない、あまり適切な対応をしていないとの回答があったため、より厳しく対応する必要があったと思う。

また、授業到達目標を知らなかった、授業科目がディプロマポリシーとどのような関連をもっているのかを知らなかったという学生が1/3程度いた。授業到達目標については、初回に資料を配布して説明しているが、十分に伝わらなかったようで残念である。ディプロマポリシーとの関連については、口頭であまり説明できていなかったため、今後実施しなければと感じた。

予習や復習については、毎回実施している小テストが解剖学に関する内容ということで、授業内容と直接に関係する内容でないためか、予習実施者が少なかった。1/4程度の学生が全く予習を行っていなかった。小テストについても、授業内容についても予習範囲は、初回に説明を行ったため、取り組みやすかったと思われるが、例年に比べ、今年度はあまり効果的ではなかった。

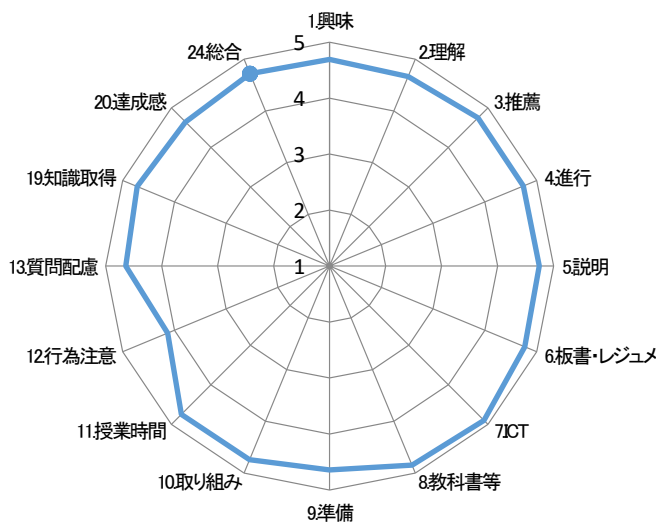
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワーク、講義で用いたパワーポイントや配布資料、症例に基づいた学習について肯定的な記述が多かった。これらの点は、例年良かったとの記載が多く、今後も継続して実施すべき内容と考える。また、今年度は、小テストについて良かったという記載も多かった。小テストは1年生で学習した、解剖学に関する内容としているが、復習のための良い機会となっているようである。例年に比べて予習実施者が少なかったが、緊張感をもって小テストに取り組んだという意見もあり、多くの学生にこのように提えてもらうための方法を今後検討していきたい。

このように、授業の進め方や内容については良かったという記載が多いが、グループでの話し合いがうまく機能しなかったという記載があった。各グループの話し合い場面をもう少し観察する必要があると感じた。また、グループの構成についても検討が必要であったかもしれない。

◆今後の改善に向けて

上記の通り、授業の進め方や内容、資料については肯定的な意見が多く、今後も継続していきたい。一方で、授業中の私語などへの対応はより厳しくしていきたい。また、授業達成目標や授業科目とディプロマポリシーの関連について説明する時間をしっかりと設けるようにしていきたい。加えて、解剖学の復習になること、他の科目や国家試験のためにも理解することが重要であることを伝え、小テストの重要性を説明し、予習を促したり、復習が必要な箇所についてははっきりと提示して、復習を促したりしていきたい。講義で用いる配布資料や授業の進め方は、毎年少しずつ改善させ、現在の形式となった。そのため、今回挙げた改善点について、少しずつであっても改善していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

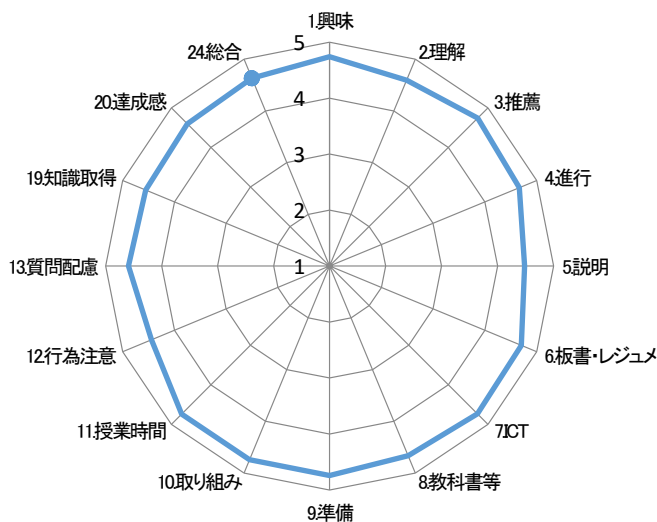
概ね4.5以上の評価であり、良い評価であった。しかし、約半数の学生が予習・復習を全くしていなかったとの回答であったため、学生の自己学習を促せるような構成にしていく必要がある。また、質問も取り組まなかった学生が多いため、教員からの情報提供だけでなく、学生が発信できるような機会を作っていく。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見としては、プリントなど資料がわかりやすく、今まで学んだ知識を整理できたとの意見があったが、その一方で具体的なイメージができなかったという意見もあった。本講義において最後に模擬事例を通して作業療法の過程を学ぶ機会を作ったが、その理解が不十分であったと思われる。今後はより学生が与えられた知識を整理できるような枠組みを作っていく。また、障害当事者の方の講義に対しては肯定的な意見が多くあったため、今後も継続して行いたい。

◆今後の改善に向けて

今年度の形を今後も継続していきたいが、より学生が思考し、知識を整理できる機会を作っていく。また、障害当事者による講義では、障害当事者と直接関わる機会は多くなかったため、学生と障害当事者が関われるような形で授業を構成する必要性を感じている。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

93. 身体障害作業治療学実習

担当教員

清水 一輝 ・ 加藤 真夕美 ・ 松田 裕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

22名

◆集計データ結果について

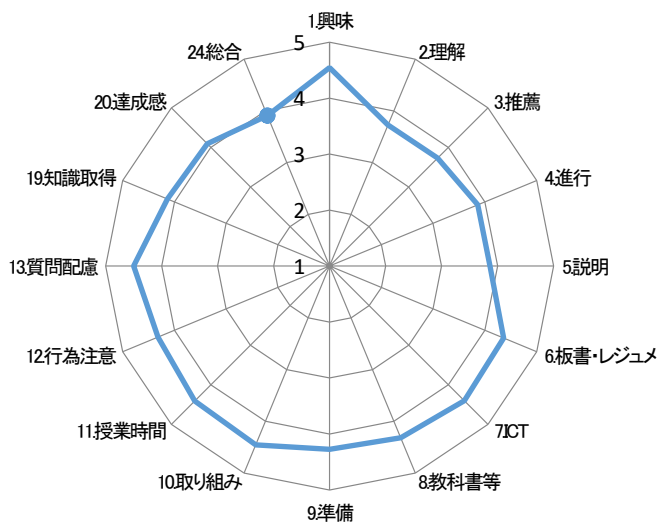
多くの項目について4.0以上の結果となっているが、2理解、3推薦、4進行、5説明に関しては、それを下回る結果となっている。本科目では、ROM,MMTについて代表的な検査項目の説明とデモを実施し、その後は各学生同士での学習が主体の構成となっているが、授業時間の兼ね合いで学生同士での学習の時間が多くなっている。教員からの講義時間が少ないことでその理解が十分にしづらくなっている可能性がある。
予習に関しては全くしていない学生が約半数であった。実技の時間を確保するため予習する様に何度も伝えたが、その必要性や意義について理解が十分されていなかったと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見としては、「自分たちで実践する前に見本を見せてくださったので理解してから実践することができた。」「質問に対して先生方が丁寧に答えてくださったので勉強になった。」など教員の説明を聞くことや教員に確認することで理解が深まっている様子がある。その一方で否定的な意見として「ROMやMMTの測り方など、もう少しじっくりと練習する時間があれば良かった。」「次々に進んでいってしまうので練習する時間が足りないと感じました。」など、やはり授業時間に関する記述がみられた。

◆今後の改善に向けて

今年度まで実施していた模擬事例に対する評価の実施を別の科目で実施し、次年度は検査測定について授業時間内で学習できる時間を十分に確保できる様に授業の再構成をしていきたい。また、学生同士の学習の際にその取り組み方によって理解度に差が起きてしまっているため、授業時間中に十分に理解度を確認し指導することをさらに意識して実施していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

94. 精神障害作業治療学

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

26名

◆集計データ結果について

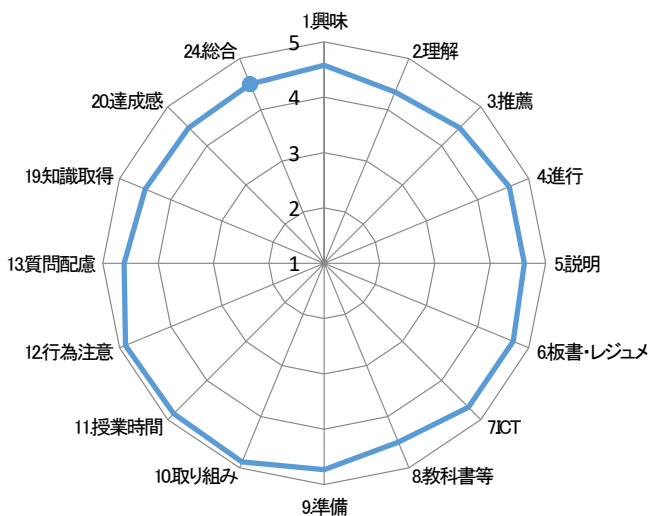
質問したか、予習したか、復習したかの項目以外は4～5点とおおむね好評であったと考える。グループワークを中心とした学習に
取り組み、国家試験の内容を含めた課題にも取り組み、学習の成果は高かったと思われる。グループワークの中で互いに学びあ
う中で質問したり、予習復習のようなことを必ずしていたはずである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークをする大変さを記載している学生がいた。時間が合わなかったり、意見が食い違ったりすることも多かったのだと推
察できる。不平や不満もあったのだと思うが、このような状況の中でも学習を進めて来られたことは、今後大きな成果として示される
はずである。国家試験や臨床実習、また将来に向けて、A,B,C,D課題と分けて提示したことは学習の進みに好影響を与えたと思え
られる。教員の求めるレベルに合わせるのが大変、といった意見もあるが、教員が求める、というよりは、学生皆さんが求められてい
るという認識を持って欲しいと願っている。

◆今後の改善に向けて

フィードバックを授業中に行う時間を増やし、授業時
間外の学習枠組みが明確になるように努める。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

95. 精神障害作業治療学実習

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

26名

◆集計データ結果について

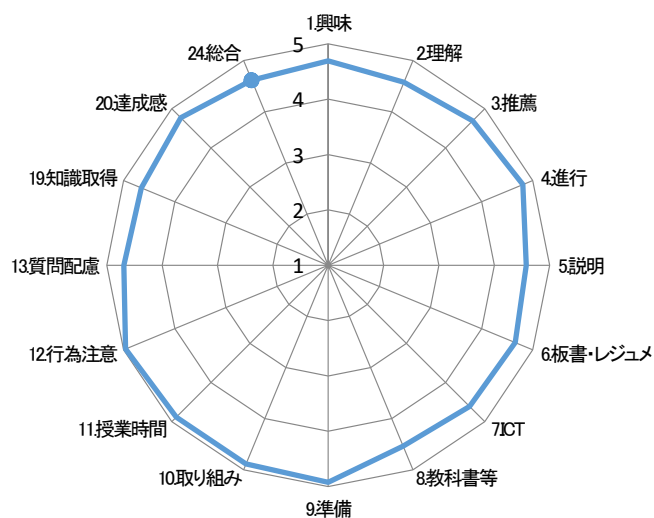
質問したか、予習したか、復習したか、の項目以外は全て4～5点でありおおむね好評な授業であったと考えられる。実習科目であり、実習をしてやりっぱなしにしないため、実習時は毎回個人のフィードバックを行う形にしたので、時間的な制約を学生が受けたかもしれない。けれども多くに学生はその個別のフィードバックを通して確かな学習しているという感覚を得ていたのだと推測できる。実はそのフィードバックの中で学生は質問し、予習も復習もしていたのだと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見が多かった。他人と分かち合うことに、何かしらの不安や恐れのようなものがあり、人との付き合い方に躊躇したり、遠慮したり、やり過ぎてしまうようなことがあるかもしれないが、指導を受けながら実習し、他者との関係の作り方や、質問の仕方、傾聴の仕方を自分なりに学べた授業になったことがうかがえた。

◆今後の改善に向けて

学生へのフィードバックの仕方を考えてあまり時間をかけすぎないように工夫することが必要である。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

96. 発達障害作業治療学

担当教員

高田 政夫

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

20名

◆集計データ結果について

今回でこの授業は2回目である。昨年度よりすべてが4点台以上となっているのはなぜだろうか。

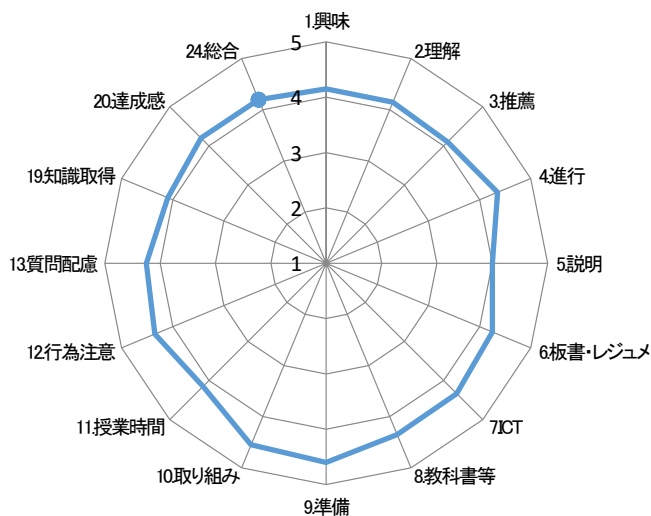
変更点はDSM-5について詳しく解説を加えたところである。ASDやADHDの一般社会での啓発的理解は広がったが、治療法に関しては未開発である。作業療法では感覚統合療法について注目を浴びているがその効果の検証はできていない。そのことを伝えたが不十分であったと反省している。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

今回は初めてGoogle classroomを使用した。

並行して開講している発達障害作業治療学実習での子どもとの交流を奨励したところ、こちらの授業についての意見が2点含まれていた。

相変わらず話の内容が難解であるとの発言がある。視覚的にも、聴覚的にも様々な媒体での障害理解を進めているが、話し方についてさらに努力が必要である。反省している。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆今後の改善に向けて

相変わらずの意見がある。どうも話の内容が理解しがたいようである。話の内容が多方面へ飛びがちである。あまり飛ばないように心がけたい。

貸し出し用のDVDについては、閲覧ノートを作成しようと考えている。

代表的な作業療法対象疾患に対してどのように感じどのように対応するか。反応を見たい。

科目名

97. 発達障害作業治療学実習

担当教員

高田 政夫 ・ 清水 一輝 ・ 松田 裕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

22名

◆集計データ結果について

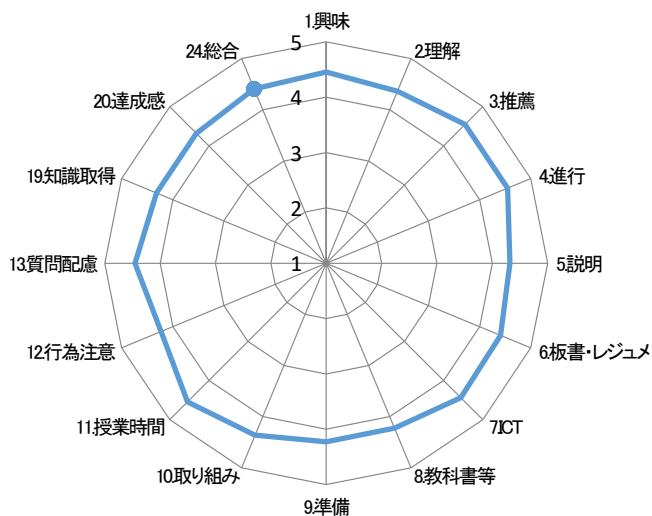
実際の園児との交流を含んだ内容であったため、学生自身も学びを通して学習できたと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生からの質問に対し、教員間で受け答えに差があると感じたという部分に関しては、教員同士で方針の共有などを密に行っていく必要がある。

◆今後の改善に向けて

園児の通学する園が本学の附属となるため、三位一体を意識した介入が行えるよう工夫していく。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名 98. 老年期作業療法学

担当教員 山下 英美

専攻・配当年次 OT 2年

回答者数 40名

◆集計データ結果について

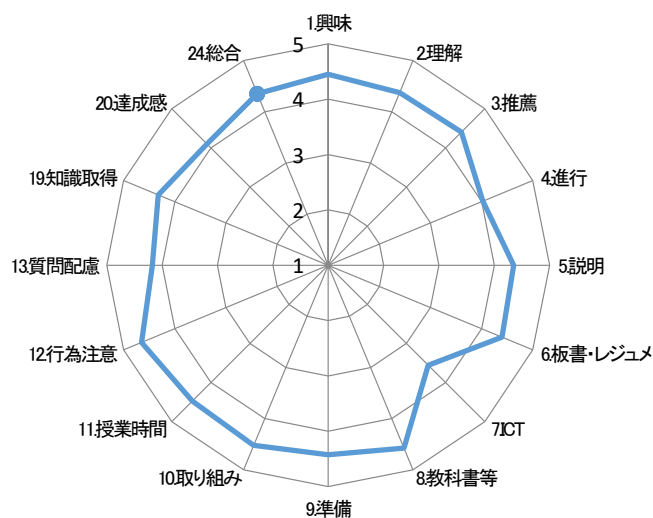
「ICTの使用」以外は4点台であった。
「教科書の使用」「取り組み」は4点台後半であったが、「進行」は4.0との評価であった。
受講態度については、7割が質問をしていなかった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

配布資料については、「プリントが分かりやすかった」との記載が複数見られた。
また「実際の写真や道具を見れたのでわかりやすかった」との記載も複数見られた。
特に認知症について「説明が分かりやすかった」「資料が分かりやすかった」「詳しく知れて良かった」との記載が多く見られた。
その一方で「前半と後半で音声速度に差があり過ぎた」「もっと臨床の経験談を聞きたかった」との記載も見られた。

◆今後の改善に向けて

プリントの配布と、実際の写真や道具の提示は、理解を助けているようなので、今後も続けていきたい。
進行に関しては、全体のバランスを考えて見直し、できるだけ臨床の話題も交えながら進めていきたいと考える。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名	99. 日常生活作業学 I
-----	---------------

担当教員 加藤 真夕美

専攻・配当年次 OT 1年

回答者数 36名

◆集計データ結果について

すべての項目で平均4.2以上であり、バランスの取れた評価であった。学生の意識では「どちらかといえば取り組んだ」「取り組んだ」の合計が、「目的等を意識」が40%、「質問」が70%、「熱心さ」が90%であり、積極的な姿勢で授業に取り組んだ様子が伺われた。

一方、復習時間は「まったくなし」が35%、「1時間未満」「1-2時間」を合わせたものが65%であり、自習への取り組みははっきりと二分された。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

内容については「演習・実践的な授業に取り組めたので楽しかった」「ADLのやりにくさなど実際に上着を持参していったので理解しやすかった」「作業療法の基本的な知識が得られた」「文献で深いアプローチを学ぶことができ、実践したいと強く思える授業だった」など、各自にとっての成果が得られたようである。

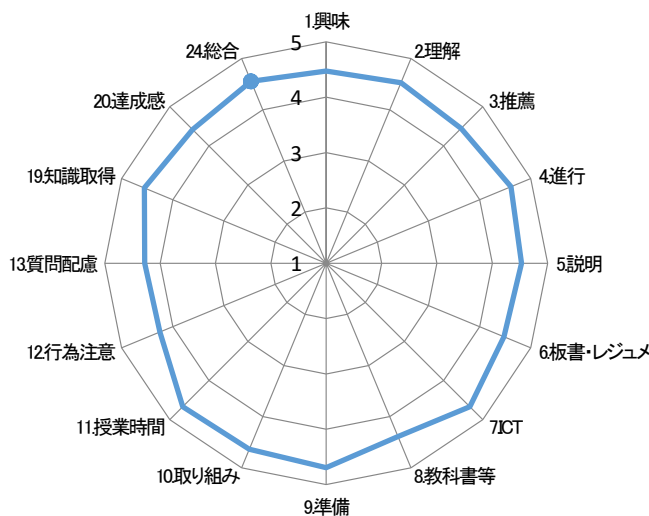
教員の関わり方については「授業の進み具合が良かった」「話が聞き取りやすくわかりやすかった」「就職してからの知識と関連付けて教えてもらったのでわかりやすかった」「課題に対してフィードバックという形でコメントをつけて返却してくれたのでさらにやる気になった」と、おおむね教員の意図が伝わったようである。

一方「評価の種類がいろいろあって、実際に自分がやるときに大丈夫かなと思った」「文献の探し方がわからなかった」との意見があり、今後に向けての検討事項となった。

◆今後の改善に向けて

本授業は、「基礎作業学」と同様、作業療法を学ぶ学生の入門編にあたる位置づけである。作業療法を学ぶにあたって必要不可欠な日常生活活動(ADL)についての基礎をしっかりと理解してもらうために、学生自身の身近に引き寄せた演習を取り入れたり、作業療法事例の文献抄読を行ったり、自助具を実際に見てもらったりと、講義以外の内容にも時間を割いた。

その中で、前述した「…大丈夫かな」との不安を抱いた学生の存在は心強く思う。作業療法の奥深さを感じ、現在の自信の能力を客観視した時に、自身の理想像と現在の姿のギャップを感じずにはいられなかったのであろうと思われる。教員としては、このギャップを埋めるための道筋を学生が考えていけるような支援ができればと考える。一方、「文献の探し方がわからなかった」という学生の悩みを、授業評価ではなく、その場その場で拾い上げられるような配慮を更に心掛けたいと思う。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名	100. 日常生活作業学 II		
-----	-----------------	--	--

担当教員 清水 一輝

専攻・配当年次 OT 2年

回答者数 24名

◆集計データ結果について

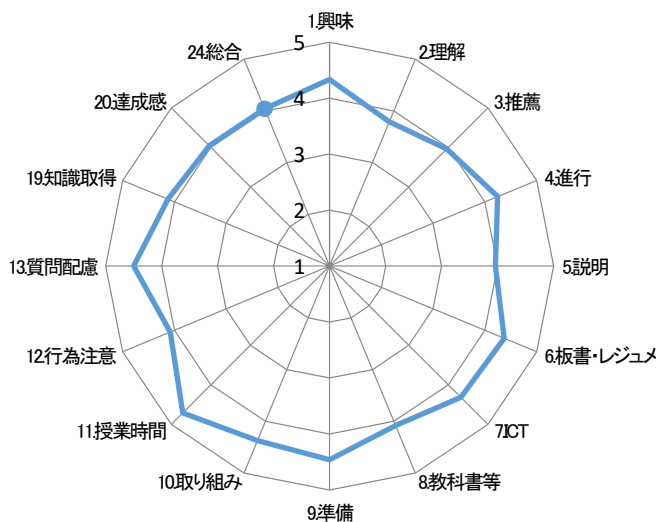
概ね4.0以上であったが、2理解、5説明でそれを下回る結果となった。今回は事前の配布資料などをあまり用意せず板書を用いながらの講義も実施したが、その部分で学生にとっては理解のしにくい部分があったと思われる。予習を全くしていないと回答していた学生が約半数いた。事前にテストを実施することを伝え予習を促したが、その意図が十分に伝わっていなかった可能性がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見としては、「自分でレポートをまとめることはわかりやすく考えやすかった」「統合と解釈の仕方を実習前にすることができてよかった」という意見があり、模擬事例を通したレポート課題からの学があった様子が窺える。一方で否定的な意見として、「OTIPMなどトップダウンアプローチについて詳しく学べたが、授業内で理解することが難しかった」という意見があり、授業時間に合わせて昨年度から変更した内容に関して理解しにくさがあった様子がある。

◆今後の改善に向けて

本科目では、日常生活評価法であるFIM,作業療法のプロセスと統合と解釈について学び、実習つながら学習としていくための科目として考えている。作業療法のプロセスについては、具体的な作業療法の例などを積極的に伝えながら、理解を促していきたい。また、学生の自由記載からも、個別でのフィードバックが十分でないことで学生の理解につながっていない様子があるため、学生一人一人の理解度に合わせたフィードバックの時間を科目のなかで設ける様にしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名	101. 日常生活作業学実習
-----	----------------

担当教員 加藤 真夕美

専攻・配当年次 OT 2年

回答者数 21名

◆集計データ結果について

すべての項目で平均が4.5以上であり、バランスの良い評価であった。本講義は初めて受け持ったため手探りであったが、学生には①トランスファーや車椅子操作などの基本的な技術を、その場で修正しながら徹底的に身につけてもらう、②各疾患の特性によるADL上の特徴を、自身で調べたり体験したりしながら身をもって理解してもらおうという、臨床実習に向かうための技術獲得の場という位置づけを重視した。

随時、技能評価試験を行い、その都度フィードバックしたためか、14「熱心さ」、15「質問」は多くの学生が「取り組んだ」「どちらかといえば取り組んだ」を選択した。一方17,18の予習・復習では十分に時間を割くことができていない学生が多かった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業の方法や教員の対応について、「臨床実習に必要な知識をきちんと学び、学生同士で実践し、分析まで出来たのはとてもよかったと思います。実技試験もその場でフィードバックを頂けたので、どこに注意して行えばいいのかなどすぐに理解できました」「PBL課題は難しかったが、先生が丁寧にフィードバックをして下さり理解が深まった」「介助方法だけでなく、評価についてPBLで学べたことが実習などの役にたつと思いました」「将来必要な知識や情報を分かりやすく説明して下さいありがとうございました」など、将来の仕事と直結した内容への取り組みは、学生の学習意欲を引き出したようである。

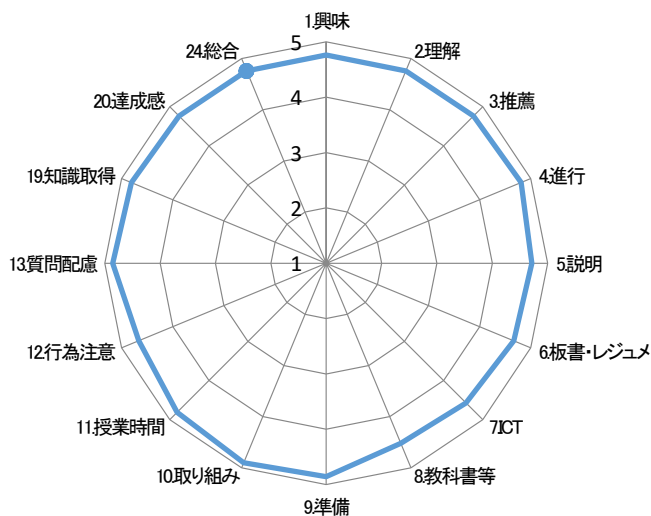
一方、「授業があった時は覚えていたけど、時間が経って今やろうと思うと忘れてしまっている」という意見が1件あり、技術の継続が課題として挙げられた。

◆今後の改善に向けて

昨年度は「もっと授業時間数を増やしてほしい」との意見があった。時間を増やすことはカリキュラム編成上難しいが、消化不良の裏返しと考へ、予習・復習時間として、何をどのように、いかに効果的に行ってもらうかをその都度丁寧に説明しながら授業を行った。

今年度挙げられたのは、授業の数か月後には覚えただけの技術が身につけていないとの意見であった。技術は一度覚えるだけでは身につかず、繰り返し学習がいかに必要かということ、学生に自覚してもらような指導を更に心掛けたい。

また、今後は養成校指定規則の改正に関係して、クリニカル・クラークシップやOSCEの導入など、臨床実習を取り巻く状況が大きく変化する。そのような中で、技術の獲得はもちろん、クリニカルリーズニングを身につけてもらえるような内容を取り入れていく必要性を感じている。他の関連科目と協同し、授業内容の再構築に努めたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

102. 高次脳障害作業治療学

担当教員

加藤 真夕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

20名

◆集計データ結果について

すべての平均が4.5以上であり、おおむねバランスのとれた評価であった。本科目の授業準備や進行で工夫していることは、①わかりやすく、後に活用できるレジュメを作ること ②演習を取り入れること ③関連論文を学生一人一人に探してもらうこと の3点である。①については、臨床実習や国家試験を念頭に置き、ポイントをわかりやすく示すことを意識した。また②についても同様に、臨床実習や国家試験で体験を生かせるよう、できる限り多くの演習を限られた時間の中で盛り込んだ。

学生の取り組みについては多くの学生が質問14,15,16に「取り組んだ」あるいは「どちらかといえば取り組んだ」と回答していた。復習は約9割の学生が「少しは勉強した」と回答した反面、予習は約5割が皆無と回答していた。

◆学生の自由記載の内容を検査した結果

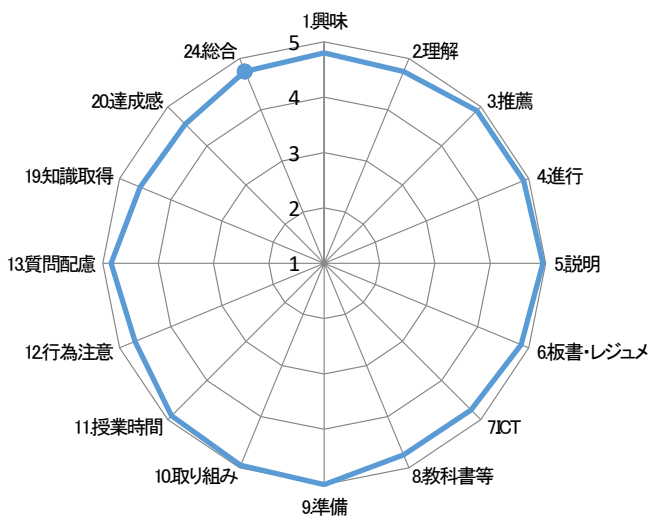
「各疾患・障害ごとの評価を学生同士で実際に行えたのは、とてもよかったし、理解にも繋がりました。また、文献検索も目的を持って取り組めたので、知識が増え、勉強になりました。」「学習する量が多く、理解が難しいことも多かったですが、授業での説明や実際に検査を体験することで分かることがたくさんありました。」「高次脳機能あたりが苦手な自分でもわかりやすく教えていただいた。」「身近なものに例えて説明してくださったり、自分のことにあてはめてみたりするのがわかりやすくて、もっと勉強したいと思った。」など肯定的な記述ばかりで、担当教員の上記工夫が伝わったようであった。

昨年度は文献検索の意図がわからないとの意見があったが、本年度はそのような意見は挙げられていなかった。授業の中で意図をしっかりと説明したことが伝わったと考えたいところではあるが、今回の授業評価アンケート自体、実施時期が後ろにずれこんだこともあって、自由記載の回答数が例年より少なかったようである。

◆今後の改善に向けて

毎年、高次脳機能の領域に対し、「難しいからイヤだ」ではなく「難しいからこそおもしろい」と思ってもらえるような、高次脳機能の入門編としての位置づけの授業が展開できたらと思い、授業を進めている。年を重ねるごとに、学生がどこに興味を抱くのか、どこに躓きやすいのかの経験値としてのデータが蓄積され、マイナーチェンジを繰り返している。

今年度、学生の自由記載の中で提示された課題は特になかったが、臨床実習や国試対策の学習をする上でも、学生が進んで学習できるような仕掛けをさらに検討していきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

◆集計データ結果について

「行為注意」の項目を除き、すべて4.6以上となり、総合的に良好な結果となった。多くの学生が興味を持って取り組み、多くの学生に理解しやすいと感じてもらえたことは非常に良かった。説明や資料、ICTの使用については、特に好評であり、効果的に用いることができたと感じた。

授業内で、小テストを毎回実施したが、予習をしなかった学生が多く、うまく活用できなかったことは残念である。授業内容とは直接的な関連の少ない、解剖学の基礎知識を小テスト範囲としたため、必要性を感じなかったのかもしれない。

授業到達目標に対しては、半数以上が「達成できた」、「どちらかといえば達成できた」と回答しているが、「わからない」、「どちらともいえない」と回答している学生も多いため、到達目標をわかりやすくしたり、達成したのかをより判断しやすく、達成感を感じやすい目標や試験にしたりする必要があると感じた。

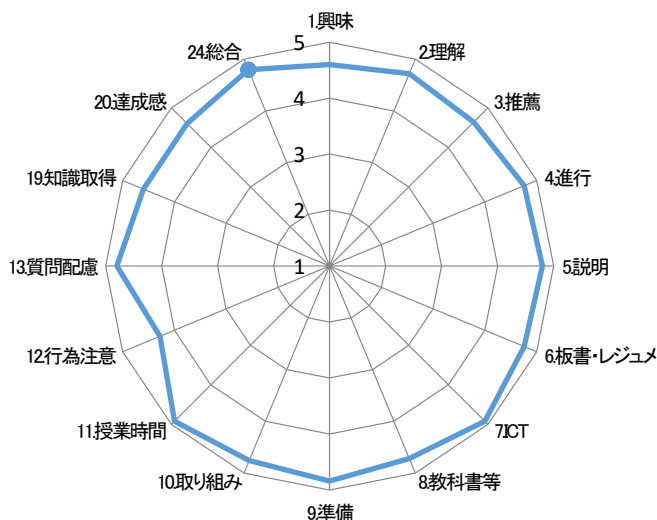
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

昨年と同じく、整形外科疾患の症例に基づいた学習、グループでのディスカッションを通じた学習、パワーポイントや講義用に作成した資料を用いた学習、義肢・装具の図を用いた説明に対し、良かったという意見が多かった。また、説明が分かりやすかったという記載もあり、授業の理解に繋がったのであれば非常に良かった。今年度は、担当者変更により、本講義と義肢装具学実習の内容を少し変更し、義肢・装具の基礎を学習する前に、作業療法での応用を学習することになり、学生にとっては混乱が生じやすい状況であったかと思われた。しかし、アンケート結果においては、分かりやすかったとの記載が多く、安心した。

臨床実習や国家試験に関わる内容については、特に意識して伝えるようにしたが、それについても、参考になったとの記載があり、強調して話をする必要性を改めて感じた。

◆今後の改善に向けて

特に自由記載に記述はなかったが、私語などの授業を妨げる行為への対応があまり適切ではなかったとの意見があったため、より厳しく対応するようになりたい。しかし、授業の内容や進め方については、良かったとの記載が多かったため、今後も継続していきたい。特に、症例に基づいた学習、グループでのディスカッションを基に進めていく授業の形態については、例年良かったとの記載が多く、授業への興味など学習意欲に繋がれるものと考えている。グループでのディスカッションについては、今回、「自分だけでは出てこなかったような意見を知ることができた」、「意見が聞きやすいし言いやすい」という記載があったが、そこがまさにねらいであり、効果的に機能していることを実感できた。そのため、このような授業の進め方は継続していきたい。また、図を多く用いたパワーポイントや配布資料も学生が求めているため、継続すべきと考える。今後は、上記の通り、予習を促す、効果的な課題を検討するとともに、授業の到達目標を達成したと感ぜられるような試験内容を考えていく必要がある。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名	104. 義肢装具作業療法学実習
-----	------------------

担当教員 廣島 淳

専攻・配当年次 OT 2年

回答者数 23名

◆集計データ結果について

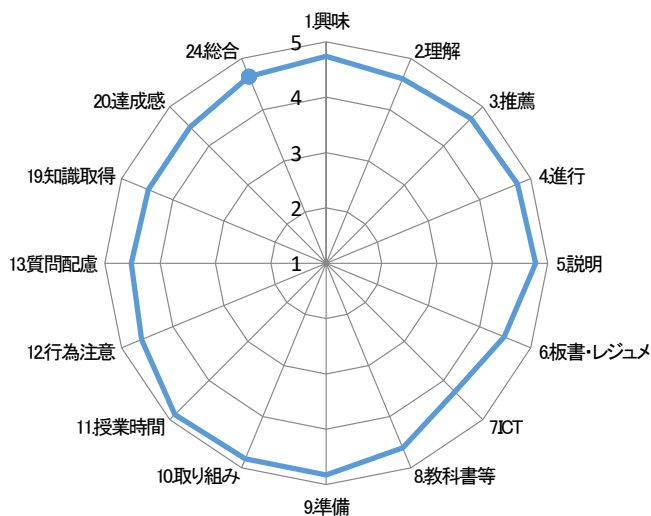
予習、復習が思ったよりされていない事がわかった。ICTは使用していないのでやむを得ないが、ほとんどの項目で、4以上である。強いて言えば、達成感と知識の項目をもっと上げていきたいと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業で、学校の教材の義肢や装具を回覧して、触ったり、動かしたり、装着してみたことや、即席装具を実際に自分で作成出来たことがとてもよかったとの意見が、非常に多い印象である。
 事や実際に作ってみる事は、教科書からは学べない事でありとても重要な事であると感じている。やはり、実物を見る
 揃っている訳ではないので、主要な物は、私の会社より持参して授業を行っていこうと思っている。しかしながら、すべて物が

◆今後の改善に向けて

現在、学校にある教材は、かなり古いものが多く(おそらく専門学校開校当初からの物だと思うが)また、壊れていたりベルトがついていなかったりして、実際に装着する事が出来ないような物も見受けられる。前述したようにすべては難しいので、私の会社より持参し授業を行っているが、「実物」「実際」という観点から近年の物であったり、装着できるような物にしなればならず、教材等の充実を検討しなければと思う。
 また、この授業は、義肢装具作業療法学実習というタイトルなので、もう少し装具作成の時間割を増やしてもよいのではないかとと思うが、教材の充実、装具作成の時間を増やすという事は、どちらもコストがかなりかかる事であるので、なかなか現実として難しい問題であると思う。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名	105. 作業科学
-----	-----------

担当教員 清水 一輝

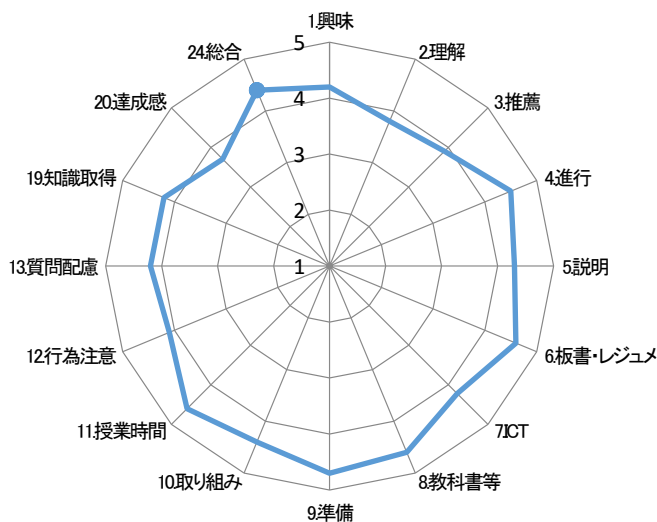
専攻・配当年次 OT 3年 回答者数 10名

◆集計データ結果について

多くの項目で4.2以上の結果となっているが、2理解、3推薦、20達成感では4以下のとなっている。学生の自由記載にもあるが、今までの科目とは違う視点から作業について教授する授業となるため、難しさを感じ達成感を得にくかったのではないかと思われる。また、予習・復習に関して全くしていないという回答が約半数であることも、今回の結果の要因かと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「人が作業を行うことが、その人にとってどのような影響を与えるのかということをも自分たちが体験しながら感じることができた。」
 「OTとして働いていくためにとても大切な授業だと思いました」など肯定的な意見があった。学生自身が作業を考えそれを講義の中で体験する機会を設けたことで、学生の理解につながっている様子がうかがえる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

◆今後の改善に向けて

作業科学は作業療法を实践する上で欠かせない学問である。また、その学問領域はとて広く多くの知識を必要とする。様々な体験を通してその理解が深まった様子ではあるが、自由記述でもあったように難しく感じる学生も多くいるようであった。次年度に向けて学生へ伝える知識の内容と量について再構成し、学生間の理解を確かめあえる様な機会を多く作り、作業療法実践を意識した学習になる様に工夫していきたい。

科目名	106. 人間作業モデル論
-----	---------------

担当教員 山下 英美

専攻・配当年次 OT 3年 回答者数 10名

◆集計データ結果について

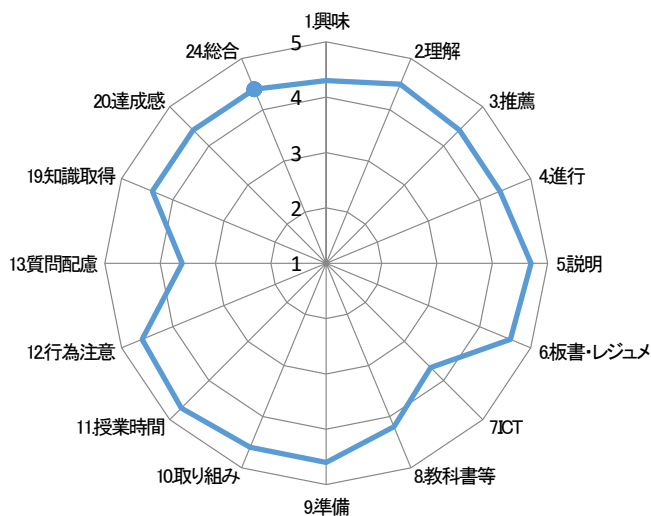
3つの項目を除いて概ね4点台半ばとの結果であった。
 「説明」が4.7、「準備」「取り組み」が4.6であったが、「質問配慮」は3.6との結果であった。
 学習態度に関しては、8割が質問をしなかった。予習・復習を全くしていないものが6割ずつであった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

3年次の後期に配置されており、国家試験対策も意識して講義を行ったことにより「国家試験の重要ポイントを教えていただき、役に立ちました」というような記載が複数見られた。
 また「実際に評価を自分たちで行うことができる場面があり良かったです」との記載もあり、「人間作業モデルに興味を持った」という記載も見れた。
 一方「予習をしてきた学生からしたら、テキストの音読と補足は、再確認になりそこにプラスアルファの知識を補えるが、もっと効率の良い授業方法があると思う」との記載も1名あった。

◆今後の改善に向けて

3年次の後期に位置づけられているため、国家試験勉強の中で、この科目の予習に時間をかけさせる必要は無いと考えており、上記の1名のような記載があることに正直驚いている。実際ほとんどの学生が予習をしてきていないため、テキストの確認と補足で進めたことは、大多数にとっては良かったと考えており、実際ここでの学習が国家試験に役立ったとの記載も多いため、この形は次年度も継続していこうと考えている。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名

107. リハビリテーション関連機器

担当教員

清水 一輝

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

38名

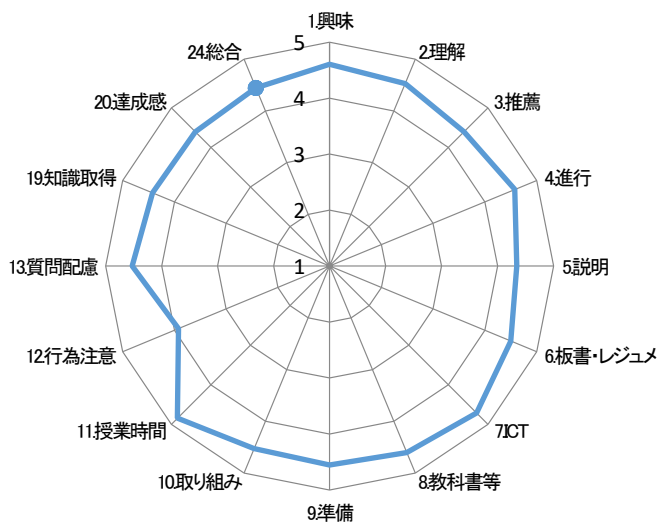
◆集計データ結果について

概ね4.5程度の評価であり、全体としては良い評価を得られた。しかし、12.行為注意で3.9と低い評価であった。授業全体を阻害するような迷惑行為はなかったと認識しているが、グループで学習する際に各メンバーの貢献度合いの違いは見られた。次年度に向けて、より積極的に学生に介入し、行為注意をしていきたい。

学習到達目標を意識し、熱心に取り組めたようではあったが、予習や復習の時間が全くないという学生もいた。予習を実施できるよう確認テストを実施したが、確認テストに向け学習の範囲や学習内容をより具体的に明示する必要があると感じた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見として、予習をもとにした確認テスト、グループでの学習が良いという意見が多くあった。今年度から学生が積極的に学べるようにシラバスを変更したことが学生にとっても良い影響であったと思われる。その一方で、学生を主体とする場面が多かったことから、重要なポイントが掴めなかった、また確認テストについても理解が不十分であったとの回答があった。確認テストの内容をより具体的な内容とし、学ぶべきポイントを明確にできるようにしていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評価)

◆今後の改善に向けて

今年度から確認テストを実施するように授業の構成を変化したがそれに対しては肯定的な意見が多くあった。今後もこの形を継続して実施していきたい。しかし、確認テストの内容の理解が不十分であったり、予習が不十分である様子も伺えるため、事前の学習の範囲を明確に示しながら、確認テストの問題の質を高めていく必要がある。ウェルフェアの参加に対しても肯定的な意見が多くあったため、次年度以降も継続してウェルフェアに参加し、実際に聞きに触れ学ぶ機会を提供していきたい。

科目名 108. 地域作業療法学

担当教員 山下 英美

専攻・配当年次 OT 2年

回答者数 21名

◆集計データ結果について

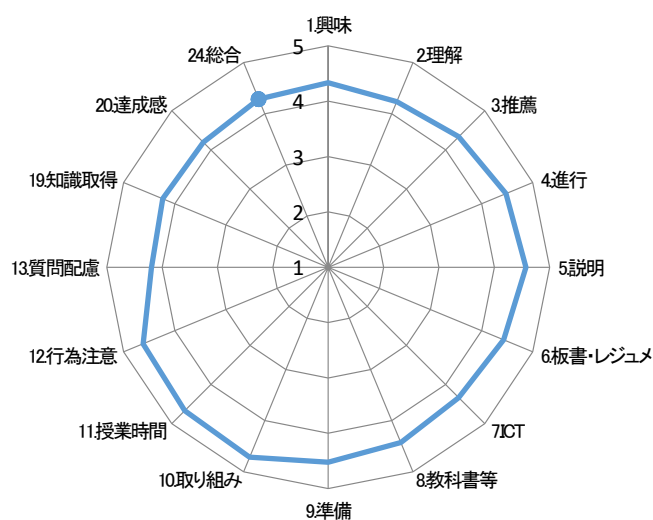
全ての項目が4.2～4.7の範囲となり、概ね良好な結果となった。
 「進行」:4.5、「説明」:4.6、「準備」:4.5、「取り組み」:4.7との評価を受けたが、「質問配慮」:4.2とやや低い評価となった。
 学生の受講態度は、「熱心に取り組んだ」・「どちらかと言えば熱心に取り組んだ」が併せて95%、質問は約半数がしなかった。
 予習は全くしなかった者が65%、1時間未満が35%であり、復習は全くしなかった者が50%、1時間未満が40%であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「介護保険制度や法律などの知識を増やすことができた」といった記載が複数見られ、「説明が分かりやすかった」といった記載も複数見られた。
 またグループワークについては「グループでの話し合いにより考えることで分かりやすかった」「お互いの発表を通して地域の活動について知ることができた」といった記載が多く、学習効果が高まったと考えられる。
 さらに「今後の臨床実習やOTになってからの臨床の場に生かしていきたい」「のちのち自分も使ったり、身近な人も使うと思うことを学べたのが良かった」「地域での作業療法に関心が深まった」といった記載もみられ、講義内容が今後の作業療法士としての活動に繋がる内容であったと思われる。

◆今後の改善に向けて

現在のような、講義とグループワークを併用した方法で、ある程度の学習効果と今後への意識付けが可能なのであるため、次年度もこの方法を継続していきたい。
 さらに、質問配慮に関しては、まだ改善の余地があると思われるため、全体の進行にゆとりを持って、質問を受ける時間を定期的に設けるよう気を付けていきたい。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
 19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位: 5段階評点)

科目名

109. 地域作業療法学実習

担当教員

山下 英美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

24名

◆集計データ結果について

全項目の80%が4.5以上となり、バランスも良く高評価となった。

「興味」が4.8、「推薦」「取り組み」「質問配慮」が4.7、「進行」「説明」「レジュメ」「準備」が4.6であった。

取り組みについては「熱心に取り組んだ」が約6割、「どちらかと言えば熱心にとりくんだ」が約4割であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

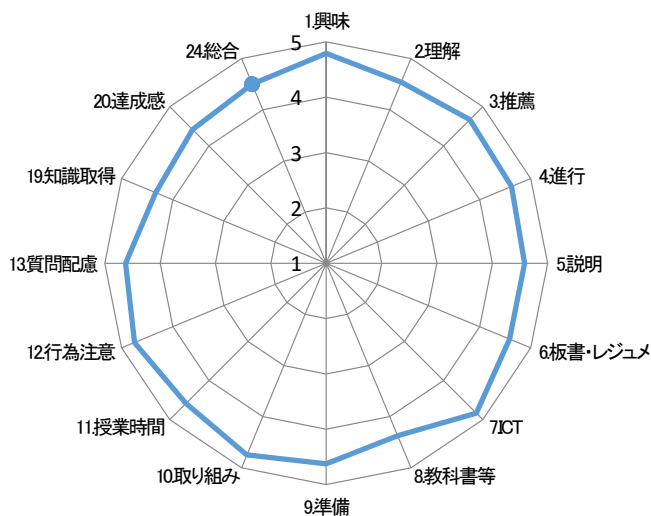
実際にゆうあいデイケアセンターの利用者様にレクリエーションを実施したことに関しては、「貴重な機会になった」「これから臨床に行く学生にとってとても有意義な時間になった」「実際に交流できてよかった」「触れ合えることが良かった」「貴重な体験ができた」「気づけることがたくさんあった」といった肯定的な記載が多く見られた。

また、グループで計画を立てて実施することに関しては、「一生懸命考え、自分の意見を持ち、取り組むことができました」「試行錯誤を重ね楽しくできた」「何度も案を練り直し、対象者の立場に沿って物事を考えられる授業だったので良かった」「失敗したことも多かったですが、また機会があったら改善して取り組みたいです」といった記載が見られた。

その一方「グループの中で、最後まで責任を持って活動できた子とできなかった子の差が出てしまったなと感じました」「短い期間でレクリエーションを計画するのが大変だった」との記載もあった。

◆今後の改善に向けて

実際に地域の高齢者と触れ合い、交流することにより、多くのことを学べる科目であり、グループで計画し実施することにより、各自がアクティブに学ぶことのできる利点を生かし、今後も取り組んでいきたい。また、グループワークならではの良さもあるが、自由記載にもある通り、グループメンバー間での取り組みの差が出ないように、十分に注意を払い、適宜声掛けをしていく必要があると思われる。



1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名 110. 就労支援学

担当教員 横山 剛

専攻・配当年次 OT 3年

回答者数 11名

◆集計データ結果について

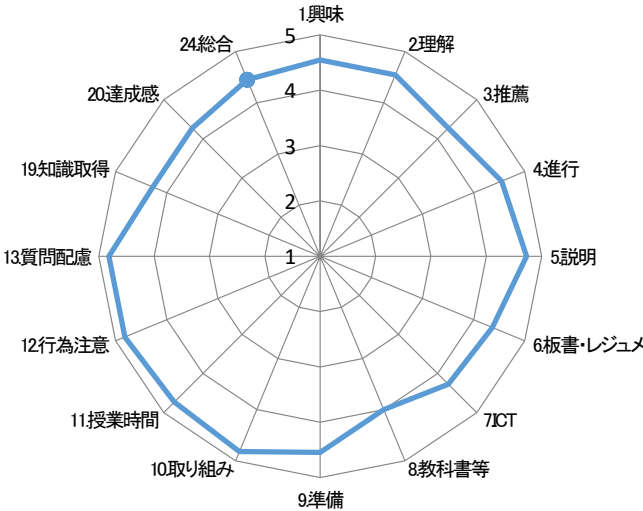
概ね4点台の点数であり、授業は好評であったと考えられる。設問項目17,18は1点台と低いが、予習復習の項目である。課題としたレポートを行ってもらったので実際は課題に取り組んでいる時間が別にあると考えられる。設問項目21,22,23はディプロマポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)の把握に関する項目であり、授業開始時に説明はしたのだが、十分な理解には至らなかったのかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループワークなどを行い、国家試験対策につながるような内容を含めた。また自身が、学生から社会人になろうとしている青年期後期において、改めて作業療法士になることについてを検討する機会を作ったのだが、就労支援学と関係あるのかよくわからないという記載があったのは大変残念である。それはまさに自身が就労しようとしていることを通して学びにつなげなかったのだが、十分な理解が得られず大変残念である。

◆今後の改善に向けて

シラバスをまず授業開始時に読み合せて内容を確認し、十分に説明する。



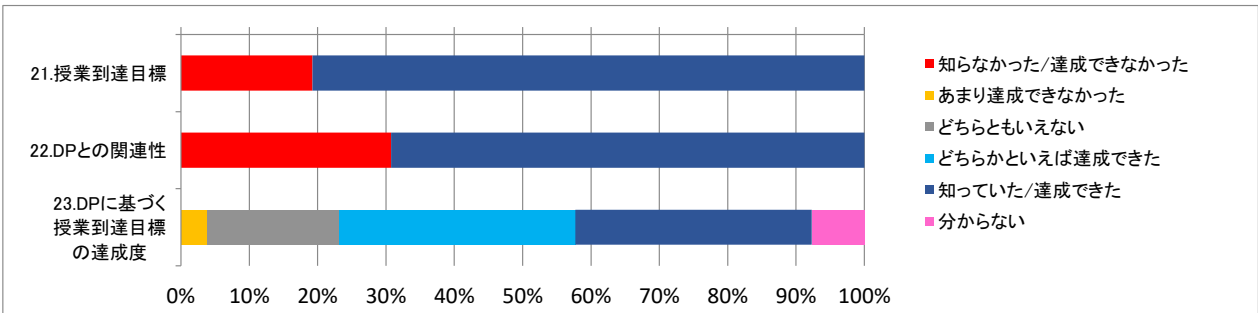
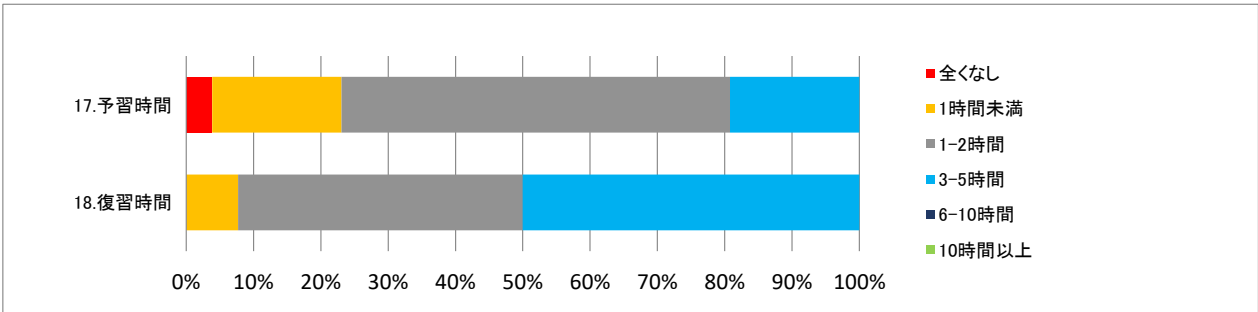
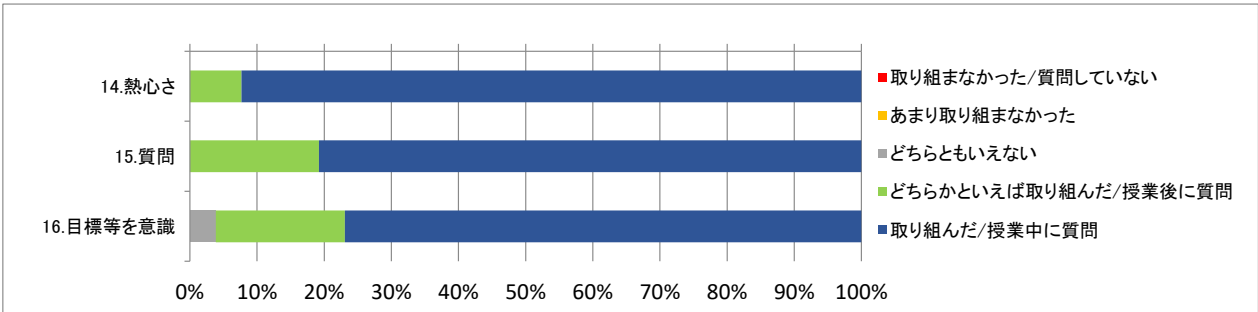
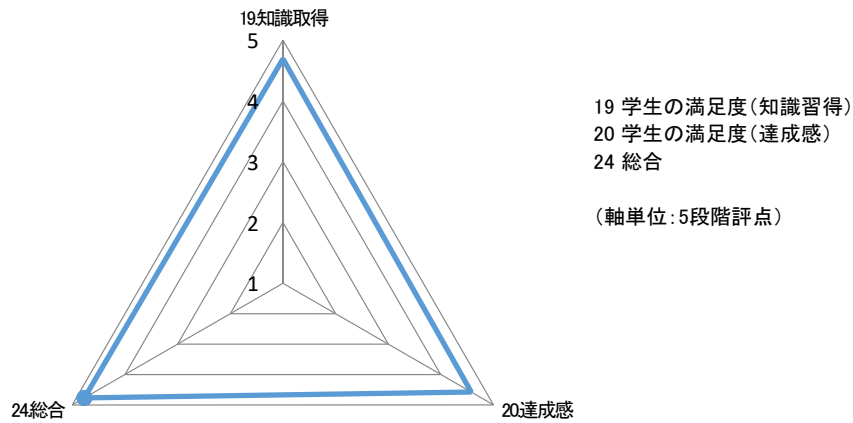
1-3 授業内容 4-8 授業方法 9-13 教員
19,20 学生の満足度 24 総合 (軸単位:5段階評点)

科目名 111. 臨床実習Ⅰ（基礎）(OT)

担当教員 高田 政夫・山下 英美・横山 剛・加藤 真夕美・清水 一輝・松田 裕美

専攻・配当年次 OT 1年 回答者数 26 名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



科目名

112. 臨床実習Ⅱ（評価）（OT）

担当教員

高田 政夫・山下 英美・横山 剛・加藤 真夕美・清水 一輝・松田 裕美

専攻・配当年次

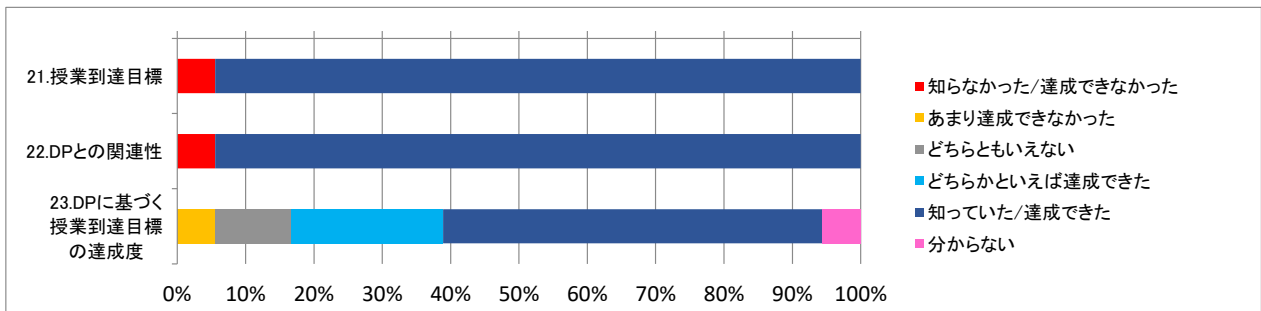
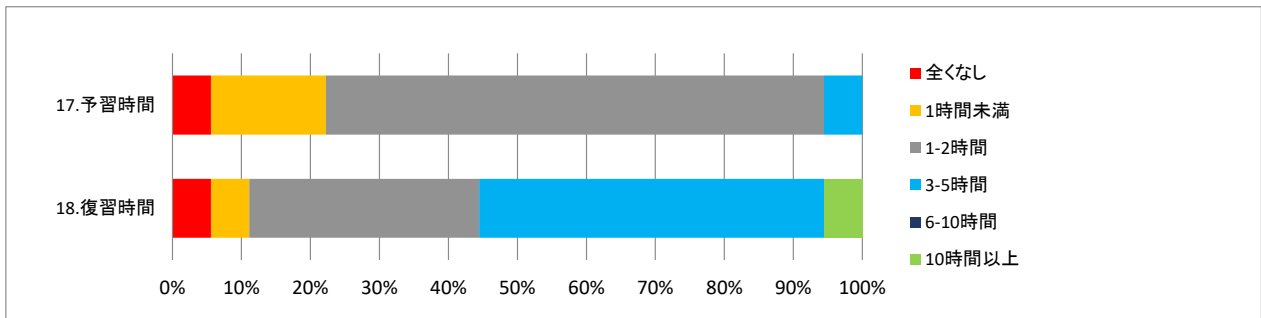
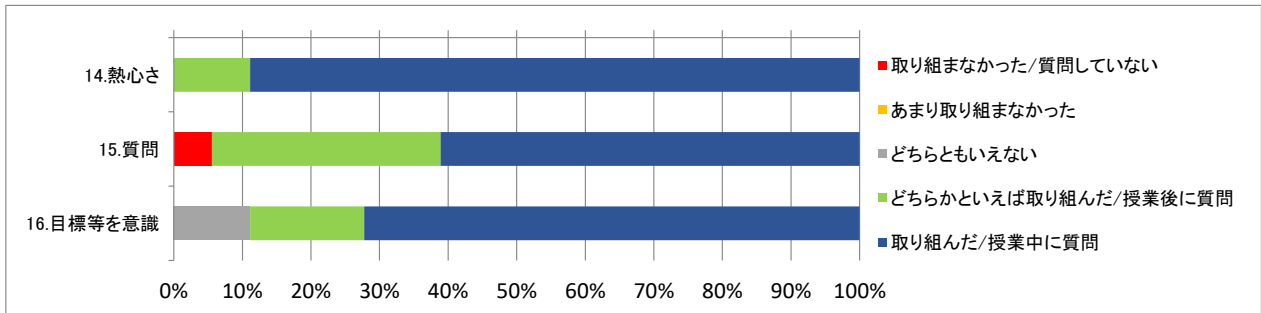
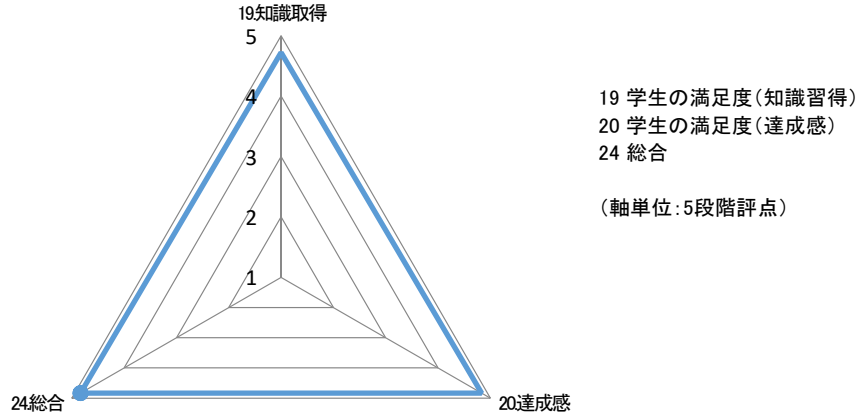
OT 2年

回答者数

18名

◆集計データ結果について

※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。

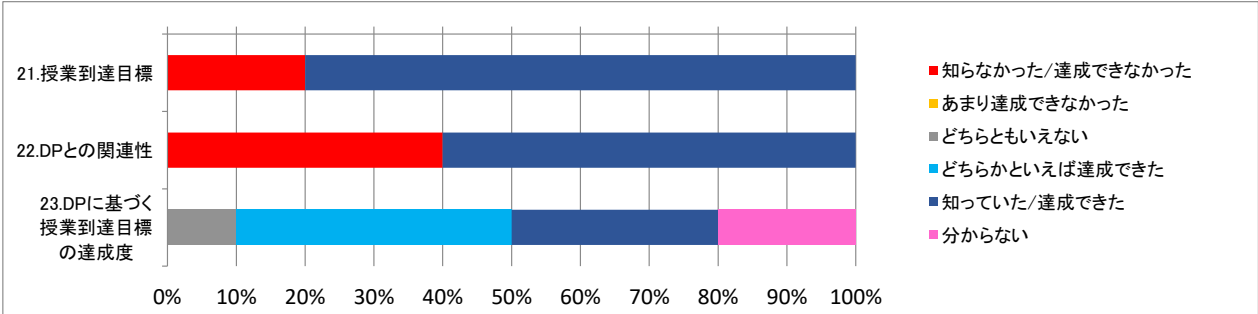
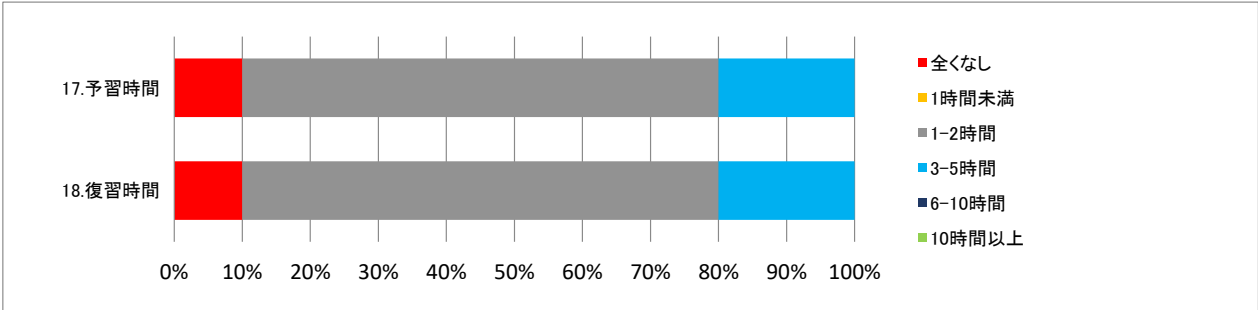
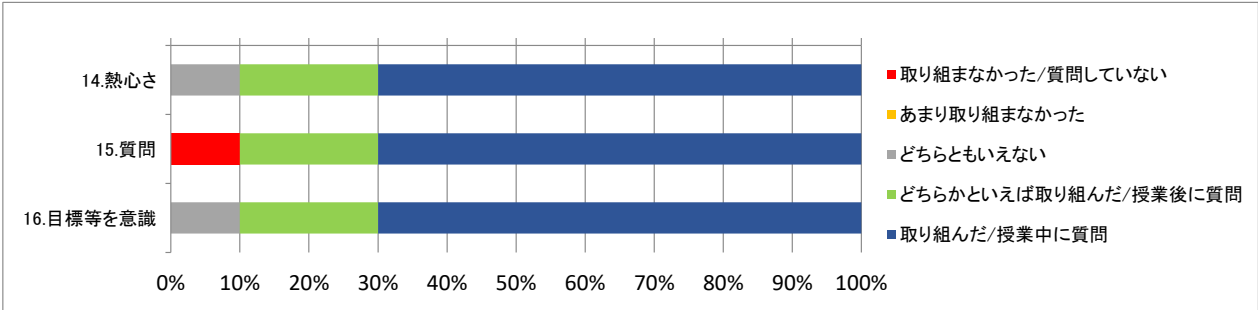
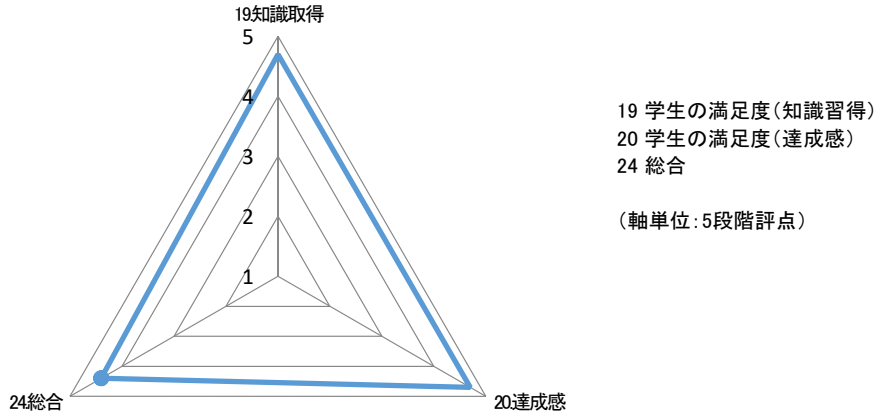


科目名 113. 臨床実習Ⅲ（総合1）(OT)

担当教員 高田 政夫・山下 英美・横山 剛・加藤 真夕美・清水 一輝・松田 裕美

専攻・配当年次 OT 3年 回答者数 10 名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。

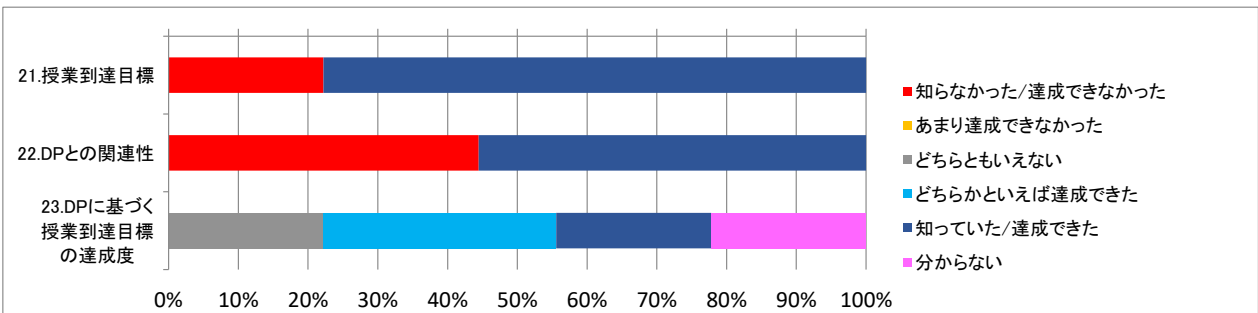
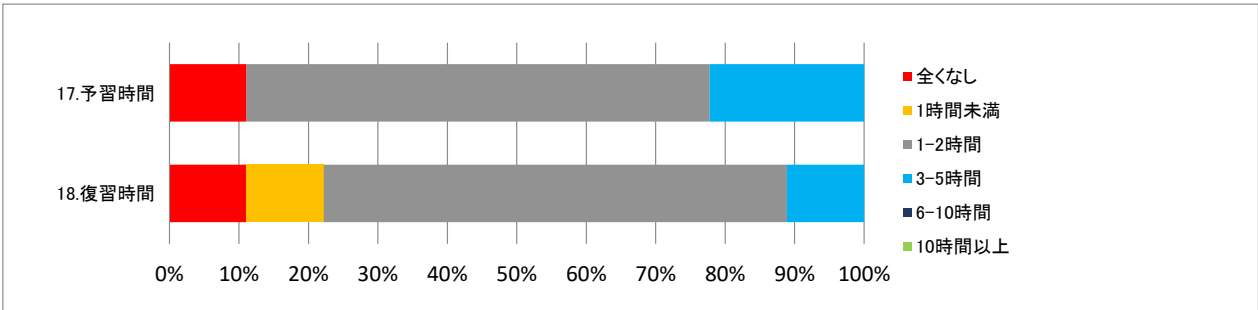
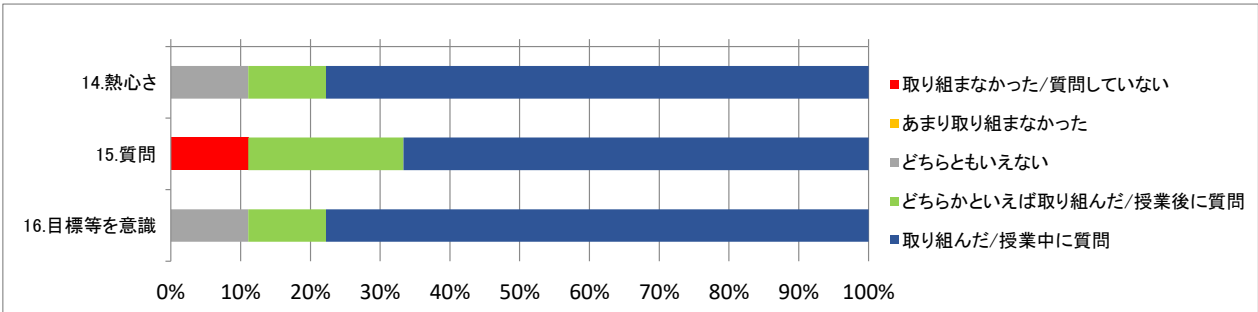
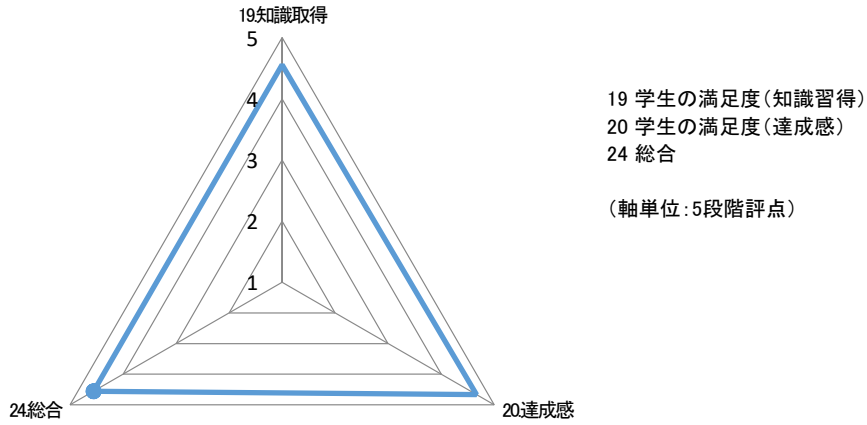


科目名 114. 臨床実習Ⅳ（総合2）（OT）

担当教員 高田 政夫・山下 英美・横山 剛・加藤 真夕美・清水 一輝・松田 裕美

専攻・配当年次 OT 3年 回答者数 9名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。

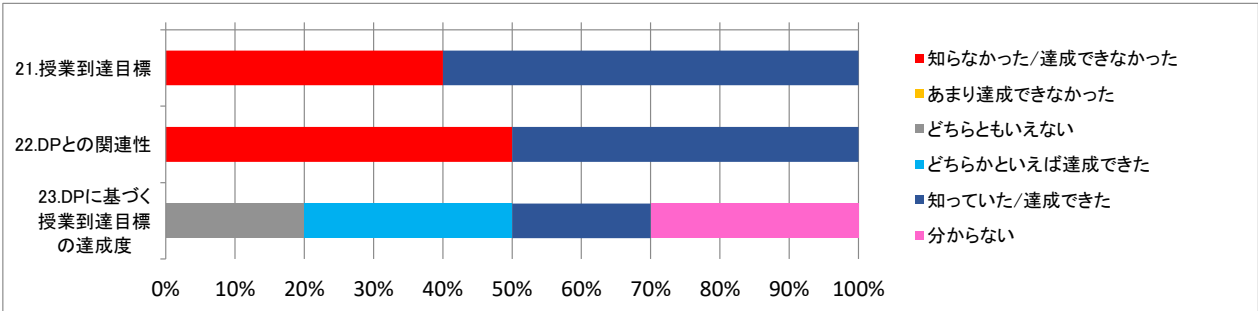
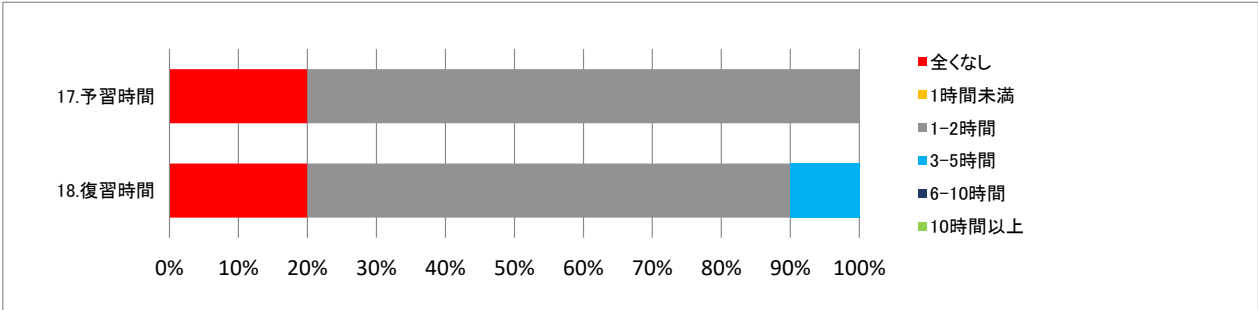
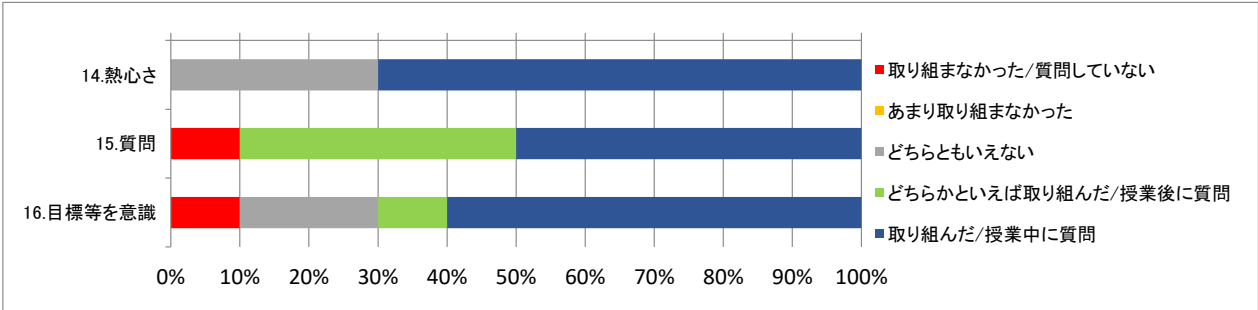
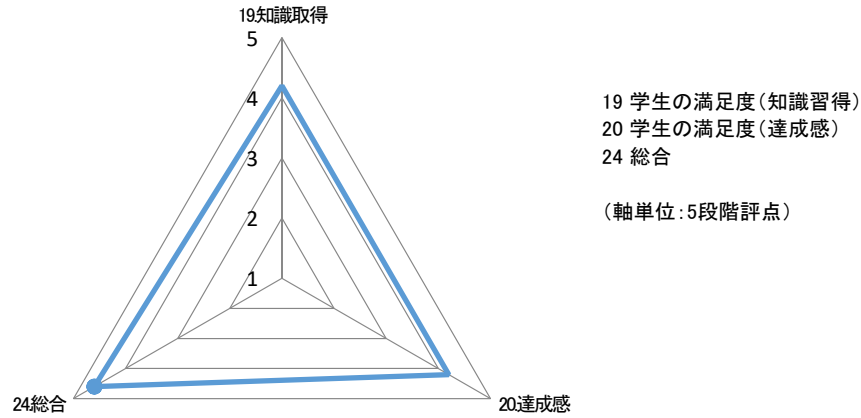


科目名 115. 卒業研究 (OT)

担当教員 高田 政夫・山下 英美・横山 剛・加藤 真夕美・清水 一輝

専攻・配当年次 OT 3年 回答者数 10名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



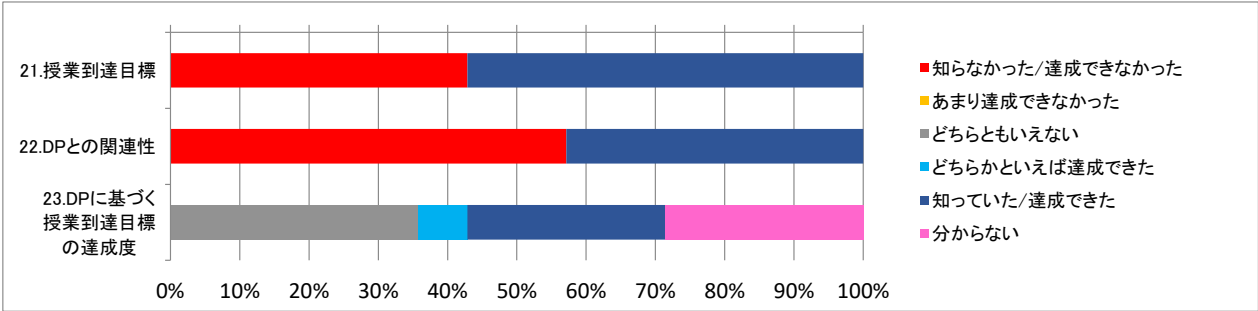
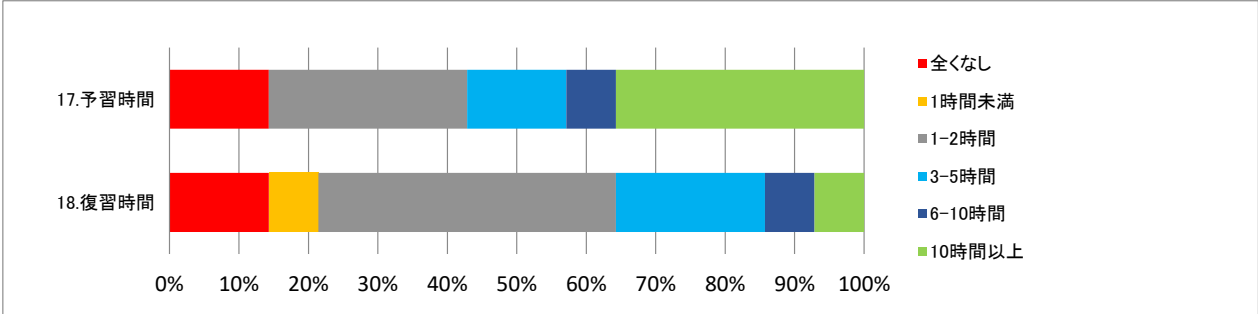
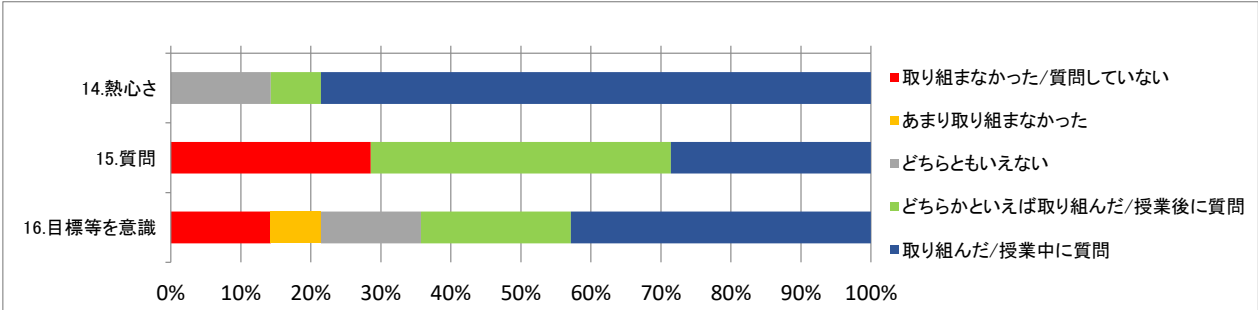
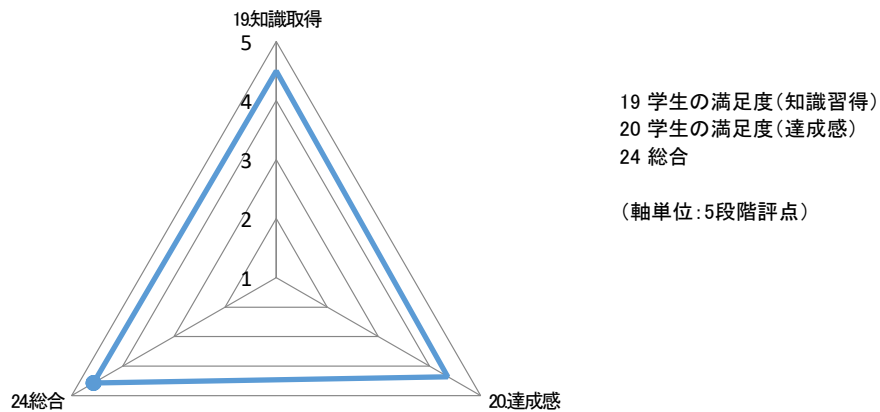
科目名 116. 総合演習 (OT)

担当教員 理学療法学専攻・作業療法学専攻全教員

専攻・配当年次 OT 3年

回答者数 14名

◆集計データ結果について ※本科目は科目の特性上、設問を一部抜粋して実施。



編集委員

山下 英美 (FD&SD委員会委員長)
鳥居 昭久 (FD&SD委員会)
加藤 真夕美 (FD&SD委員会)
木村 菜穂子 (FD&SD委員会)
齊藤 誠 (FD&SD委員会)
山田 賢典 (FD&SD委員会)
齊藤 寛子 (FD&SD委員会)
大谷 智美 (FD&SD委員会)

2019 年度 授業評価レポート

発行日 令和 2 年 9 月 25 日

発行者 学校法人 佑愛学園

愛知医療学院短期大学

〒452-0931 愛知県清須市一場 519

TEL 052-409-3311

<http://www.yuai.ac.jp>